

海大第 509 号  
令和 7 年 10 月 3 日  
開設者名 北海道大学総長 審金 清博

## 北海道大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 年度の業務に関する報告します。

## 1 開設者の住所及び氏名

住所	〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
氏名	国立大学法人北海道大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

## 2 名称

国立大学法人北海道大学 北海道大学病院
---------------------

## 3 在所の場所

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目
電話( 011 ) 716 — 1161

## 4 診療科名

## 4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に關し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

## 4-2 標榜している診療科名

## (1) 内科

内科		有						
内科と組み合わせた診療科名等								
1 呼吸器内科	<input type="checkbox"/>	2 消化器内科	<input type="checkbox"/>	3 循環器内科	<input type="checkbox"/>			
5 神経内科	<input type="checkbox"/>	6 血液内科	<input type="checkbox"/>	7 内分泌内科	<input type="checkbox"/>			
9 感染症内科	<input type="checkbox"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			<input type="checkbox"/>			
診療実績								

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科		有			
外科と組み合わせた診療科名					
<input type="checkbox"/>	1 呼吸器外科	<input type="checkbox"/>	2 消化器外科	<input type="checkbox"/>	3 乳腺外科
	5 血管外科	<input type="checkbox"/>	6 心臓血管外科	<input type="checkbox"/>	7 内分泌外科
診療実績					

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="radio"/> 1精神科	<input type="radio"/> 2小児科	<input type="radio"/> 3整形外科	<input type="radio"/> 4脳神経外科
<input type="radio"/> 5皮膚科	<input type="radio"/> 6泌尿器科	<input type="radio"/> 7産婦人科	<input type="radio"/> 8産科
<input type="radio"/> 9婦人科	<input type="radio"/> 10眼科	<input type="radio"/> 11耳鼻咽喉科	<input type="radio"/> 12放射線科
<input type="radio"/> 13放射線診断科	<input type="radio"/> 14放射線治療科	<input type="radio"/> 15麻酔科	<input type="radio"/> 16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科	有
歯科と組み合わせた診療科名	
<input type="radio"/> 1小児歯科	<input type="radio"/> 2矯正歯科
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1腫瘍内科	2脳神経内科	3循環器外科	4形成外科	5リハビリテーション
6病理診断科	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40	0	0	0	854	894

(単位:床)

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	264	431	563.6	看護補助者	96	診療エックス線技師	0
歯科医師	73	110	125.5	理学療法士	25	臨床検査技師	84
薬剤師	77	0	77	作業療法士	20	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	12	その他	0
助産師	34	0	34	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	979	29	997.4	臨床工学士	31	医療社会事業従事者	0
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	86
歯科衛生士	13	0	13	歯科技工士	5	事務職員	327
管理栄養士	7	0	7	診療放射線技師	60	その他の職員	128

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	70	眼科専門医	19
外科専門医	66	耳鼻咽喉科専門医	16
精神科専門医	16	放射線科専門医	33
小児科専門医	34	脳神経外科専門医	15
皮膚科専門医	13	整形外科専門医	35
泌尿器科専門医	14	麻酔科専門医	24
産婦人科専門医	18	救急科専門医	11
		合計	384

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 南須原 康行 ) 任命年月日 令和 7 年 4 月 1 日

専従医師GRM: 平成20年4月1日～令和7年3月31日

医療安全管理委員会(旧リスクマネジメント委員会)委員: 平成20年4月1日～令和7年3月31日

医療安全管理部長: 平成25年4月1日～令和7年3月31日

医療安全管理責任者: 平成28年10月1日～令和7年3月31日

医療安全管理委員会委員長: 令和7年4月1日～現在に至る

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	671.7 人	15.1 人	686.8 人
1日当たり平均外来患者数	2414.3 人	581.3 人	2995.6 人
1日当たり平均調剤数		1532 剤	
必要医師数		205 人	
必要歯科医師数		32 人	
必要薬剤師数		23 人	
必要(准)看護師数		0 人	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を曆日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	心電計	心細動除去装置	ベースメーカー
集中治療室	1072 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	11 床 有 有	有	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 222 m <sup>2</sup>			病床数 6 床		
	[移動式の場合] 台数					
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 13 m <sup>2</sup>					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	93 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート(主な設備)		生化学自動分析装置		
細菌検査室	173 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート(主な設備)		オートクレーブ		
病理検査室	799 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート(主な設備)		切り出し台		
病理解剖室	208 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート(主な設備)		剖検台		
研究室	2031 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート(主な設備)		安全キャビネット		
講義室	37 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	室数 1 室	収容定員 50 人		
図書室	136 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	室数 3 室	蔵書数 1680 冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.1 %	逆紹介率	72.3 %
A:紹介患者の数		16160 人	
B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13282 人	
C:救急用自動車によって搬入された患者の数		567 人	
D:初診の患者の数		18347 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
橋場 弘之	田村・橋場法律事務所	○	法律に関する識見を有する者	無	1
橋本 晓佳	札幌医科大学		医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者	無	1
高田 久	北海道盲導犬協会		医療を受ける者	無	2
向野 雅彦	北海道大学大学院		医療を提供する者	無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1に掲げる者を除く。)  
 3 その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
本学のホームページ及び本院のホームページへの掲載	

## 高度の医療の提供の実績

## 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数(人)
陽子線治療	20人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	35人
	0人
先進医療の種類の合計数	2
取扱い患者数の合計(人)	55人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法	0人
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	0人
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超えるか、十二センチメートル未満のものに限る。)	0人
シスプラチニン静脈内投与及び強度変調陽子線治療の併用療法 頭頸部扁平上皮がん(喉頭がん、中咽頭がん又は下咽頭がんであって、ステージがⅡ期(p16陽性中咽頭がんに限る)、Ⅲ期又はⅣ期のものに限る。)	4人
生体肝移植術 切除が不可能な肝門部胆管がん	0人
術前のゲムシタビン静脈内投与及びナブーパクリタキセル静脈内投与の併用療法	0人
イマチニブ経口投与及びペムプロリズマブ静脈内投与の併用療法	0人
生体肝移植術 切除が不可能な転移性肝がん(大腸がんから転移したものであって、大腸切除後の患者に係るものに限る。)	0人
アルゴンプラズマ高周波焼灼・凝固療法	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	9
取扱い患者数の合計(人)	4人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
該当なし	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	16	93 若年性特発性関節炎	7
2	筋萎縮性側索硬化症	42	94 先天性ミオパチー	1
3	脊髄性筋萎縮症	11	95 筋ジストロフィー	31
4	原発性側索硬化症	1	96 遺伝性周期性四肢麻痺	1
5	進行性核上性麻痺	16	97 脊髄空洞症	5
6	パーキンソン病	265	98 脊髄髓膜瘤	6
7	大脳皮質基底核変性症	7	99 アイザックス症候群	1
8	ハンチントン病	4	100 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1
9	神経有棘赤血球症	1	101 神經軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	8	102 前頭側頭葉変性症	1
11	重症筋無力症	109	103 限局性皮質異形成	2
12	多発性硬化症／視神経脊髄炎	185	104 先天性大脳白質形成不全症	1
13	慢性炎症性脱髓性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	18	105 ドラベ症候群	1
14	封入体筋炎	9	106 レノックス・ガストー症候群	15
15	クロウ・深瀬症候群	4	107 ウエスト症候群	5
16	多系統萎縮症	28	108 ラスマッセン脳炎	2
17	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	188	109 結節性硬化症	14
18	ライソゾーム病	14	110 先天性魚鱗癬	7
19	副腎白質ジストロフィー	2	111 家族性良性慢性天疱瘡	1
20	ミトコンドリア病	21	112 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	65
21	もやもや病	162	113 特発性後天性全身性無汗症	13
22	プリオント病	2	114 弾性線維性仮性黄色腫	1
23	HTLV-1関連脊髄症	5	115 マルファン症候群	12
24	特発性基底核石灰化症	1	116 エーラス・ダンロス症候群	4
25	全身性アミロイドーシス	62	117 ウィルソン病	11
26	遠位型ミオパチー	2	118 ジュベール症候群関連疾患	1
27	自己貪食空胞性ミオパチー	1	119 クルーゾン症候群	1
28	神経線維腫症	43	120 歌舞伎症候群	2
29	天疱瘡	89	121 無脾症候群	3
30	表皮水疱症	13	122 ウエルナー症候群	1
31	膿疱性乾癬(汎発型)	18	123 プラダー・ウイリ症候群	1
32	ステイーヴンス・ジョンソン症候群	3	124 4p欠失症候群	1
33	中毒性表皮壊死症	1	125 アンジェルマン症候群	2
34	高安動脈炎	45	126 22q11.2欠失症候群	1
35	巨細胞性動脈炎	25	127 修正大血管転位症	4
36	結節性多発動脈炎	23	128 完全大血管転位症	1
37	顕微鏡的多発血管炎	77	129 単心室症	10
38	多発血管炎性肉芽腫症	34	130 左心低形成症候群	3
39	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	54	131 三尖弁閉鎖症	6
40	悪性関節リウマチ	18	132 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	4
41	バージャー病	4	133 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1
42	原発性抗リン脂質抗体症候群	24	134 ファロー四徴症	12
43	全身性エリテマトーデス	591	135 両大血管右室起始症	5
44	皮膚筋炎／多発性筋炎	247	136 アルポート症候群	4
45	全身性強皮症	139	137 急速進行性糸球体腎炎	9
46	混合性結合組織病	51	138 抗糸球体基底膜腎炎	2
47	シェーグレン症候群	412	139 一次性ネフローゼ症候群	80
48	成人スチル病	33	140 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	4
49	再発性多発軟骨炎	10	141 紫斑病性腎炎	10
50	ペーチェット病	186	142 先天性腎性尿崩症	1
51	特発性拡張型心筋症	119	143 間質性膀胱炎(ハンナ型)	13
52	肥大型心筋症	69	144 オスラー病	40
53	再生不良性貧血	42	145 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	4
54	自己免疫性溶血性貧血	14	146 α1-アンチトリプシン欠乏症	1
55	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	147 副甲状腺機能低下症	2
56	特発性血小板減少性紫斑病	78	148 偽性副甲状腺機能低下症	2
57	原発性免疫不全症候群	43	149 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	10
58	IgA腎症	79	150 メチルマロン酸血症	1
59	多発性囊胞腎	203	151 グルタル酸血症1型	2
60	黄色靭帯骨化症	8	152 尿素サイクル異常症	1
61	後縦靭帯骨化症	152	153 リジン尿性蛋白不耐症	1
62	広範脊柱管狭窄症	10	154 原発性高カイロミクロン血症	1
63	特発性大腿骨頭壞死症	183	155 家族性地中海熱	32
64	下垂体性ADH分泌異常症	55	156 強直性脊椎炎	39
65	下垂体性TSH分泌亢進症	7	157 軟骨無形成症	1
66	下垂体性PRL分泌亢進症	18	158 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

67	クッシング病	39	159	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
68	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	86	160	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	5
69	下垂体前葉機能低下症	358	161	後天性赤芽球癆	4
70	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	4	162	エプスタイン症候群	1
71	先天性副腎皮質酵素欠損症	35	163	クロンカイト・カナダ症候群	4
72	先天性副腎低形成症	2	164	非特異性多発性小腸潰瘍症	2
73	アジソン病	4	165	総排泄腔遺残	1
74	サルコイドーシス	238	166	胆道閉鎖症	8
75	特発性間質性肺炎	81	167	アラジール症候群	1
76	肺動脈性肺高血圧症	71	168	IgG4関連疾患	21
77	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	2	169	黄斑ジストロフィー	2
78	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	74	170	レーベル遺伝性視神経症	1
79	リンパ脈管筋腫症	25	171	アッシャー症候群	1
80	網膜色素変性症	31	172	若年発症型両側性感音難聴	2
81	バッド・キアリ症候群	2	173	好酸球性副鼻腔炎	72
82	特発性門脈圧亢進症	4	174	先天性肺静脈狭窄症	1
83	原発性胆汁性胆管炎	87	175	三頭酵素欠損症	1
84	原発性硬化性胆管炎	18	176	シトリン欠損症	1
85	自己免疫性肝炎	52	177	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	1
86	クローン病	214	178	遺伝性自己炎症疾患	3
87	潰瘍性大腸炎	360	179	大理石骨病	1
88	好酸球性消化管疾患	7	180	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	15
89	慢性特発性偽性腸閉塞症	2	181	特発性多中心性キャッスルマン病	10
90	腸管神経節細胞僅少症	1	182	ホモシスチン尿症	1
91	ルビンシュタイン・ティビ症候群	1	183	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	1
92	CFC症候群	1	184		

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	183
合計患者数(人)	6895

## 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた初診 情報通信機器を用いた再診(外来診療料)	・医療安全対策加算1
・特定機能病院入院基本料 1.一般病棟の場合 イ.7対1入院基本料	・感染対策向上加算1
・特定機能病院入院基本料 3.精神病棟の場合 ハ.13対1入院基本料	・指導強化加算
・入院栄養管理体制加算	・抗菌薬適正使用体制加算
・臨床研修病院入院診療加算 1 基幹型	・患者サポート体制充実加算
・超急性期脳卒中加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・診療録管理体制加算1	・ハイリスク妊娠管理加算
・医師事務作業補助体制加算1 ロ:20対1	・ハイリスク分娩管理加算
・急性期看護補助者体制加算1 25対1(看護補助者5割以上)	・呼吸ケアチーム加算
・夜間100対1急性期看護補助体制加算	・後発医薬品使用体制加算1
・夜間看護体制加算	・病棟薬剤業務実施加算1・2
・看護補助体制充実加算1	・データ提出加算2イ
・看護職員夜間配置加算1 12対1	・入退院支援加算1イ
・看護補助加算2	・入退院支援加算3
・療養環境加算	・入院時支援加算2
・重症者等療養環境特別加算	・認知症ケア加算2
・無菌治療室管理加算1・2	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・放射線治療病室管理加算 1治療用放射性同位元素による治療の場合	・精神疾患診療体制加算
・緩和ケア診療加算	・精神科急性期医師配置加算2イ
・個別栄養食事管理加算	・排尿自立支援加算
・小児緩和ケア診療加算	・地域医療体制確保加算
・精神科応急入院施設管理加算	・救命救急入院料1(ER)
・精神科身体合併症管理加算	・精神疾患診断治療初回加算イ
・精神科リエゾンチーム加算	・救急体制充実加算2
・摂食障害入院医療管理加算	・小児加算(ER)
・栄養サポートチーム加算	・早期離床・リハビリテーション加算(ER)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

## 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

## 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<p>1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。</p> <p>2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。</p>	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理部:226件 検査・輸血部:129件(超音波センタ一分:117件含む)	
剖 檢 の 状 況	剖検症例数(例)	15
	剖検率(%)	2.2

1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で印を付)。

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
マルチオミクス解析を用いた細胞間相互作用に注目した精神神経ループスの病態解明	河野 通仁	リウマチ・腎臓内科	5,000,000	補助 委託
外分泌機能推定による肺がん悪性化リスク層別化に有用な血液バイオマーカーの臨床開発	須藤 英毅	整形外科	65,000,000	補助 委託
細胞内代謝に注目した関節リウマチにおける滑膜線維芽細胞の病態関与	河野 通仁	リウマチ・腎臓内科	62,000,000	補助 委託
脳神経科学の研究成果を医療と社会のニーズに沿って社会実装するための実用化支援プロジェクト	佐藤 典宏	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	1,000,000	補助 委託
進行固形悪性腫瘍患者に対するAIマルチオミクスを活用したバイオマーカー開発の多施設共同研究	小松 嘉人	腫瘍センター	2,092,308	補助 委託
肺癌患者における個別パネルを用いた血液循環腫瘍DNA検査に関する多施設共同研究ARTEMIS-PC研究	小松 嘉人	腫瘍センター	76,923	補助 委託
生体直交反応を利用した3Dプリンター用次世代バイオインクの開発	松岡 正剛	整形外科	2,100,000	補助 委託
上皮幹細胞記憶による皮膚疾患の統合理解	渡邊 美佳	皮膚科	3,170,000	補助 委託
移植登録一元管理プログラムおよび二次調査を用いた小児造血細胞移植における類洞閉塞症候群の予防・診断・治療に関する後方視的解析	平林 真介	小児科	146,154	補助 委託
希少がんに対する遺伝子プロファイリングと標的治療に関する前向きレジストリ臨床研究(MASTER KEY Project)	木下 一郎	がん遺伝子診断部	6,653,846	補助 委託
希少造血器腫瘍に対する遺伝子プロファイリングと標的治療に関する前向きレジストリ臨床研究(MASTER KEY Project: NCCH-1812)	小野澤 真弘	臨床研修センター	500,000	補助 委託

札幌市児童精神科医療連携体制構築・運用に関する共同研究事業	齊藤 卓弥	精神科神経科	2,300,000	補委	札幌市
札幌市における児童生徒等の自殺対策強化に関する共同研究事業	齊藤 卓弥	精神科神経科	3,484,800	補委	札幌市
SCRUM-Japan疾患レジストリ構築のための多施設共同研究	小松 嘉人	腫瘍センター	346,154	補委	国立研究開発法人国立がん研究センター
超高純度幹細胞・バイオマテリアルによる椎間板再生メカニズムの包括的解明	須藤 英毅	整形外科	7,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Inflammagingにおける炎症・老化細胞の解析とバイオマーカーへの展開	外丸 詩野	病理診断科	2,359,468	補委	独立行政法人日本学術振興会
水素の同位体効果をツールとした肝灌流修復法の開発	嶋村 剛	臓器移植医療部	1,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
リネゾリドによる低ナトリウム血症発現の因果関係およびそのリスク因子の検討	堤 竹藏	薬剤部	450,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
抗てんかん薬ラコサミドの胎盤透過性および乳汁移行性評価に関する研究	西村 あや子	薬剤部	470,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Inflammagingにおける炎症・老化細胞の解析とバイオマーカーへの展開	外丸 詩野	病理診断科	2,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
一軸配向化合成コラーゲン線維が誘導する骨髄幹細胞の分化と基質産生促進機序の解明	近藤 英司	スポーツ医学診療センター	3,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ミクログリアに注目した抗リン脂質抗体による中枢神経障害の病態解明	渥美 達也	病院長	4,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
水素の同位体効果をツールとした肝灌流修復法の開発	嶋村 �剛	臓器移植医療部	4,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
敗血症におけるplasminogen activator inhibitor-1阻害の効果検証	早川 峰司	救急科	9,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

多次元先端映像解析を駆使した 顕微鏡手術「複雑性」の解明	杉山 拓	脳神経外科	700,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
障害児・者の歯科治療時における ストレスモニターとしての自律神経 活動の測定	大島 昇平	小児・障がい者歯科	600,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
動脈硬化制御作用をもつ新規血管 作動性物質による虚血性心疾 患バイオマーカーの創出	佐藤 健吾	検査・輸血部	900,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
がん特異的糖鎖抗原を用いた小 児がんに対する近赤外光線免疫 療法の確立:前臨床モデル	長 祐子	小児成人移行期医療 支援センター	900,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
ドラベ症候群における $\alpha$ 2サブユ ニット選択性GABA(A)受容体賦活 薬の有効性検証	江川 潔	小児科	900,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
ゲル化されたMSC由来エクソソーム の内視鏡的粘膜下層剥離術後 食道狭窄に対する効果	小野 尚子	光学医療診療部	1,300,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
肝癌幹細胞におけるPARP阻害剤 耐性メカニズムの解明およびその 克服	小松 嘉人	腫瘍センター	800,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
深層学習を活用した多面的病理 学的検討による、小児期発症肺高 血圧症の病態解明	永井 礼子	小児科	800,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
ヒト化マウスによる非アルコール性 脂肪肝炎発症、肝移植後再発の 免疫学的機序解明	後藤 了一	消化器外科 I	600,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
胆道癌におけるChemokineによる 悪性度進行機構の解明	中西 喜嗣	消化器外科 II	900,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
術後認知機能障害病理における 統合的ストレス応答の果たす役割	内田 洋介	手術部	700,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
脂質ラフトのバイオイメージングと 電気生理学的手法による全身麻 酔薬の作用機序研究	長谷 由理	歯科麻酔科	300,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
好中球の異質性が関与する外傷 後二次性感染症の病態解明と治 療法開発に向けた基盤研究	斎藤 智誉	救急科	1,300,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
尿中エクソソーム内のmRNAに基 づく新たな膀胱がん診断法の開発	大澤 崇宏	泌尿器科	900,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
血中環状RNAを用いた子宮頸癌 の早期診断マーカーと治療標的の 網羅的探索	金野 陽輔	婦人科	1,000,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
Notchシグナル伝達機構を軸とした 後天性中耳真珠腫の病態生理 の解明	福田 篤	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	900,000	○ 補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

抗菌加工根面を実現！～バイオミメティック法を応用した新規歯周病治療法の開発～	田中 佐織	口腔ケア連携センター	800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
日中覚醒時ブラキシズムと発話時咀嚼筋活動の識別アルゴリズム構築への挑戦	後藤田 章人	高次口腔医療センター(頸関節)	900,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
高齢者におけるレミマゾラムの麻酔導入時血圧変動への影響－ランダム化比較試験－	北條 敬之	歯科麻酔科	800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
XR技術を応用した患者－医療者双方に対するストレスフリーな歯科治療の確立	下地 伸司	歯周病科	700,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
『一般外科医のための外傷診療DCRトレーニングコース』開発における有用性の証明	村上 壮一	先端医療技術教育研究開発センター	800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
鎖肛術後排便障害に対するスマートフォンを用いたバイオフィードバック装置の開発	荒 桃子	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	500,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
可視化・定量化・ウイルス解析によるサージカルスマーケの多角的解析研究	渡邊 祐介	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	600,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
北海道の小児がん患者における遺伝性素因の研究	寺下 友佳代	小児科	1,300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
腎癌細胞および癌関連線維芽細胞を標的とした内視鏡的二重光線免疫療法の開発	栗谷 将城	消化器内科	1,300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
慢性肺血栓塞栓性肺高血圧症の呼吸困難に関する検討	佐藤 隆博	呼吸器内科	900,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
NUP98::NSD1白血病の治療抵抗性の解明と新規治療法の開発	松川 敏大	HIV診療支援センター	1,200,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
ハイドロゲルを用いた白血病幹細誘導法の開発と代謝特性の解明	齋藤 祐介	がん遺伝子診断部	1,400,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
全身性エリテマトーデスにおける慢性炎症・疼痛と脳機能の相互連関	藤枝 雄一郎	リウマチ・腎臓内科	1,000,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
小児骨端線損傷後におけるケモカイン受容体CCR7を介した新規薬物治療法の探索	松岡 正剛	整形外科	1,400,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
抗炎症型マクロファージ移植による骨折治癒促進効果に関する研究	高橋 大介	整形外科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
超高純度間葉系幹細胞とソフトバイオマテリアルによる椎間板性疼痛の制御	山田 勝久	整形外科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会

特発性大腿骨頭壞死症における多発骨壊死発生とマイクロバイオーム異常の関連性	清水 智弘	整形外科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
難治性中耳炎における好中球および好酸球細胞外トラップの形成-分解経路の解明と応用	森田 真也	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
自己免疫性網膜症における抗網膜抗体の解析と病態の解明	安藤 亮	眼科	1,200,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
骨吸収抑制剤による血管系を介した骨代謝調節機構の解明	関口 珠希	口腔外科	1,300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
マイクロ・ナノパターンを用いて歯髄幹細胞より誘導する歯牙および歯周組織再生の試み	飯田 俊二	口腔総合治療部	1,300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
rTMSとBMIの併用による強化型ニューロモジュレーションプログラムの効果検証	向野 雅彦	リハビリテーション科	800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
深層学習による画像領域検出技術を用いた眼底画像の網膜血管変化の解析	齋藤 理幸	眼科	800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
唾液中薬物濃度モニタリングが適用可能な薬物の選択方法の確立	武隈 洋	薬剤部	1,500,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
膵癌における腫瘍内細菌叢と腫瘍免疫逃避機構の解明	結城 敏志	消化器内科	800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
神経性やせ症の病態形成に関与する生物学的基盤の解明と新規治療法の探索	石川 修平	精神科神経科	1,200,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
核医学治療の空間線量率を利用した新たな線量評価技術の開発	渡邊 史郎	核医学診療科	2,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
肝癌のFGFR4-CXCL9 axis を介した免疫チェックポイント阻害剤耐性化機構の解析	莊 拓也	消化器内科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
常染色体顕性多発性囊胞腎のアミノ酸吸収抑制による治療法の開発	西尾 妙織	血液浄化部	1,600,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
NINJ1を標的としたANCA関連血管炎の治療開発	中沢 大悟	リウマチ・腎臓内科	1,400,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
細胞内代謝を標的としたT細胞関連自己免疫性疾患の新規治療開発	河野 通仁	リウマチ・腎臓内科	700,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
新規Shock and Kill戦略によるHIVリザーバー減少効果の解析	遠藤 知之	血液内科	1,600,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会

免疫関連因子CD73のトリプルネガティブ乳癌周術期治療効果・有害事象との関連性の検討	高橋 将人	乳腺外科	1,200,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
冬眠動物がもつ体温変化に応じた血栓回避の抗凝固メカニズム解明と新規抗凝固薬の開発	高氏 修平	救急科	1,600,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
ECMOによるvon Willebrand 因子への影響	早水 真理子	救急科	1,800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
もやもや病くも膜の血管新生・側副路発達を促進するエピゲノム制御分子パスウェイ解析	伊東 雅基	脳神経外科	1,300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
網膜ミュラー細胞のグリア間葉移行におけるアルファBクリスタリンの関与	加瀬 諭	眼科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
幹細胞によるM1/M2マクロファージ調整作用はリンパ浮腫線維化を抑制しうるか?	前田 拓	形成外科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
唾液中亜鉛マーカー酵素を新規指標とした亜鉛補充療法の確立、フレイル予防を目指して	坂田 健一郎	口腔内科	1,900,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔扁平上皮癌における頸部リンパ節後発転移予測システムの構築	吉川 和人	口腔内科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
振動解析とCT osteoabsorptiometryによる下顎頭位置付けの挑戦-下顎枝矢状分割術にて-	松下 和裕	高次口腔医療センター(顎口腔)	2,200,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
医療資源の少ない遠隔地におけるゲノム医療展開に関する課題抽出と解決戦略の解明	山田 崇弘	臨床遺伝子診療部	900,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
脾頭部微細解剖profileによる3D platformを用いた臓器温存手術のための教育toolの開発	松井 あや	消化器外科Ⅱ	1,600,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
特発性膝骨壊死の発生と関節内応力分布及び骨代謝状態の関連	佐藤 大	整形外科	300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
Bassoon proteinopathyの病理学的解析	野村 太一	脳神経内科	700,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
肺癌の再放射線治療後のリンパ球減少症予測モデル構築	金平 孝博	医学物理部	600,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
カテーテル選択支援AIを用いたVascular IVRの開発	森田 亮	放射線部	300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
腸管滅菌/プロバイオティクスによる難治性腹水に対する新規治療方法の探索	中井 正人	消化器内科	800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会

肝筋連関を介したサルコペニア及び肝線維化改善に係る因子の同定	大原 正嗣	消化器内科	1,000,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
プラチナ製剤耐性肺癌に対する免疫プロテアソーム阻害剤治療の検討	庄司 哲明	呼吸器内科	700,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
遺伝子異常・発現から捉えた若年乳癌の発症や進展機序の解明と臨床的意義の検討	萩尾 加奈子	がん遺伝子診断部	1,500,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
肝細胞癌におけるEB1とOATP1B3の分子病理学的関連性の解明	相山 健	消化器外科 I	1,400,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
椎間板障害に対するexosomeを用いた低侵襲治療法の開発	大西 貴士	整形外科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
骨髓濃縮液を用いた椎間板再生治療法における液性因子に基づいた再生メカニズムの解明	笠場 大介	整形外科	1,200,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
子宮頸癌患者由来オルガノイドの樹立方法の検討と薬剤スクリーニング	朝野 拓史	産科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
睡眠時無呼吸症候群用口腔内装装置装着が睡眠時咀嚼筋活動に及ぼす影響の実態解明	水野 麻梨子	クラウン・ブリッジ歯科	800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
口唇・顔面皮膚の運動解析による睡眠時プラキシズム時の顎運動パターン評価への挑戦	前田 正名	クラウン・ブリッジ歯科	200,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
新たな歯科矯正用解体性接着材の開発(温度応答性)	松本 愛子	矯正歯科	700,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
精神疾患患者の精神的予後改善に向けた生活習慣の影響解明と新規介入法開発	大久保 亮	精神科神経科	300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
鍼灸治療をはじめとする代替医療の作用機序解明:セルフリーDNAを用いた検査手法開発	医学物理部	周産母子センター	1,300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
達成確率を用いた最適化手法による新しいロバスト治療計画方式の開発	横川 航平	光学医療診療部	1,400,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
内視鏡治療後創部に対するMSC由来エクソソームを含むハイドログルの効果	大野 正芳	光学医療診療部	2,000,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
神経ペプチドY(NPY)に着目した虚血性心不全による心室性不整脈機序の新展開	天満 太郎	循環器内科	1,400,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
ヒト皮膚創傷治癒を制御するエピジェネティクス因子の探索	渡邊 美佳	皮膚科	1,800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会

大腸癌切除による免疫状態の変化と予後に関する検討	市川 伸樹	消化器外科 I	2,200,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
腸管虚血・炎症疾患における新規治療標的の探索	柴田 賢吾	消化器外科 I	1,400,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
新規体幹部ブロックM-TAPAのメカニズム検証と、術後回復強化プログラムへの展開	相川 勝洋	麻酔科	1,400,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
老化マクロファージによる変形性膝関節症進行機序の解明研究	江畑 拓	整形外科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
鼻粘膜概日リズムの恒常性は上皮バリア機能を介して2型炎症反応を制御するか	本間 あや	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
肥満2型糖尿病モデル動物を用いた糖尿病網膜症早期における新規分子標的の探索	菊地 香澄	眼科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
NPWTがもたらす新たな術後合併症ゼロの世界～皮膚・深部組織への効果を探る	三浦 隆洋	形成外科	1,900,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
UV222nm照射と過酸化水素を併用した殺菌性の高い歯周病光治療	金本 佑生実	歯周病科	1,300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
肝細胞癌におけるLSECtin/LAG-3 axisとがん微小環境の関連性の検討と臨床応用	北潟谷 隆	消化器内科	1,200,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
交感神経機能の急激な低下はてんかん発作を誘発するか	堀之内 徹	精神科神経科	1,700,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
前立腺癌の超寡分割照射における有害事象低減可能な治療計画技術の開発	田村 弘詞	放射線部	600,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
虚血心のコハク酸の蓄積と再灌流時の酸化制御を標的とした分子機序に基づく創薬研究	阿部 二郎	小児科	1,700,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
細菌叢/代謝物の臓器間相互作用の解析による、サルコイドーシスの病態解明	中久保 祥	感染制御部	2,800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
幼少期の創傷が幹細胞記憶と発癌に及ぼす影響	得地 景子	皮膚科	1,800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
水疱性類天疱瘡におけるシングルセル解析を用いた抗原特異的B細胞の解析	村松 憲	皮膚科	1,800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
好塩基球と表皮基底膜部自己免疫寛容の破綻: 水疱性類天疱瘡の病態解明への新視点	氏家 韻欣	皮膚科	1,800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会

DNA合成阻害剤による逆説的発がん現象の解明と応用	前田 拓哉	皮膚科	1,800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
血液脊髄閥門機能保護を介した脊髄損傷治療薬の開発	五月女 慧人	救急部	1,300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
メカノバイオロジーを基盤とした末梢神経障害の病態解明	遠藤 健	整形外科	1,600,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
混合リンパ球反応試験による慢性活動性抗体関連型拒絶反応の早期診断法の開発	岩原 直也	泌尿器科	1,400,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
ユビキチンリガーゼTRIM27による頭頸部がんの進展制御メカニズムの解明	木村 将吾	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	900,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
Tie2活性化に着目したぶどう膜炎モデル軽症化の試み	鈴木 佳代	眼科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病網膜症におけるアクロレンによる血栓形成促進機構の検討	福津 佳苗	眼科	1,600,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
超解像イメージングによる修復象牙質の刺激感受性の評価と次世代型覆歯剤創出への応用	戸井田 侑	むし歯科	1,900,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
AIの機械学習を用いたインプラント予後予測ツールの開発	古玉 明日香	義歯科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会

自然免疫機構によるNF- $\kappa$ B活性化活性化は口腔発がんおよび上皮間葉移行に関与する	義達 理恵子	口腔外科	1,400,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
抗Xa活性測定のPoint Of Care Testing装置の開発に関する研究	土田 拓見	救急科	1,800,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
ぶどう膜炎におけるリン脂質酸化物の動態と網膜障害軽症化の試み	長谷 敬太郎	眼科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
閉塞性大腸癌への金属ステント留置による癌微小環境と全身の免疫応答の変化の解明	今泉 健	消化器外科 I	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
大規模災害(千島海溝、日本海溝モデル)における小児・妊産婦の減災を目指した検討	齊藤 良玄	産科	900,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
慢性腰痛症例の体幹回旋方向の外乱に対する姿勢保持能力への運動療法による介入効果	大須賀 聰	リハビリテーション部	700,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
チョークサインより早く窒息の予兆をAIが見極める食事モニターの開発	玉田 泰嗣	高齢者歯科	700,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
肝臓GVHDにおける腸内細菌叢と肝臓免疫担当細胞とのクロストークの解明	荒 隆英	血液内科	600,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
もやもや病の病因探索;iPS細胞由来の血管内皮細胞と血管平滑筋細胞の共培養モデル	東海林 菊太郎	脳卒中・循環器病ICT 医療連携研究部門	2,000,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
ライフコースにおける口腔の健康と全身の健康との関連の解明:歯痛に着目した因果推論	山本 貴文	予防歯科	1,000,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
遊走自然リンパ球による衛生仮説の統合的理解	伊東 孝政	皮膚科	1,300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
ガスダーミンDを標的としたANCA関連血管炎の新規治療開発	楠 加奈子	血液浄化部	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
持続的抗菌性を付与した高機能化ナノカーボンの精製ならびに骨形成への影響の検討	前田 由佳利	義歯科	1,300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
Beta cell rest を目指した新たな2型糖尿病治療法の確立	中村 昭伸	ダイアベティスマネジメントセンター	700,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
心房細動におけるSKチャネル活性化の機序の解明:新規心房細動治療薬の開発に向けて	甲谷 太郎	循環器内科	1,100,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会

顆粒球細胞外トラップによる難治性副鼻腔炎の病態解明と新規バイオマーカー作成	中丸 裕爾	アレルギーセンター	1,100,000	○ 補 委	独立行政法人日本学術振興会
Type2炎症による鼻粘膜支持組織への影響	鈴木 正宣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	700,000	○ 補 委	独立行政法人日本学術振興会
脳内のエネルギー利用パターンの変化に着目した摂食障害の新規治療法の探索	石川 修平	精神科神経科	600,000	○ 補 委	独立行政法人日本学術振興会
多様な現場での国際生活機能分類(ICF)の円滑な実用化及び統計への応用に向けた研究	向野 雅彦	リハビリテーション科	2,310,000	○ 補 委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	渥美 達也	リウマチ・腎臓内科	30,970,000	○ 補 委	厚生労働省
臨床研究のさらなる適正化に向けた諸課題に係る調査研究	佐藤 典宏	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	3,254,000	○ 補 委	厚生労働省
『解剖』から医療機器開発の創出を支援する国内唯一の拠点	七戸 俊明	先端医療技術教育研究開発センター	14,758,565	○ 補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構□
超希少難治性疾患である免疫介在性小脳性運動失調症の疾患レジストリ構築および治療法確立を目的としたエビデンス創出研究	矢口 裕章	脳神経内科	7,500,000	○ 補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腹腔鏡手術における手術鉗子動態の教育利用・鉗子位置情報を用いた手術支援に関する基礎研究	安部 崇重	泌尿器科	5,700,000	○ 補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
B型肝炎培養細胞、抗ウイルス応答細胞モデルを用いた創薬シーズ化合物の大規模探索	坂本 直哉	消化器内科	47,615,385	○ 補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肝発癌におけるHBV既感染の臨床的意義と新規治療法開発を目指した発癌分子機構の解明に関する研究	武富 紹信	消化器外科 I	12,000,000	○ 補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対する標準的リンパ節郭清確立のための多施設共同臨床試験	渡利 英道	婦人科	5,375,000	○ 補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行上頸洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	本間 明宏	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	6,800,000	○ 補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肝線維化の非侵襲的評価のための血清・肝組織糖鎖バイオマーカーの探索と実用化に関する研究	坂本 直哉	消化器内科	9,500,000	○ 補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高齢心不全患者におけるフレイル自動診断を支援する新医療機器プログラムに関する研究開発	永井 利幸	循環器内科	157,816,467	○ 補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
慢性期脳出血患者に対する自家骨髓間葉系幹細胞とスキャフォールド合剤(セルザイク)の出血腔内投与の安全性・有効性に係る探索的医師主導治験	藤村 幹	脳神経外科	95,380,765	○ 補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

医療機器開発におけるカダバースタディーに関するガイドンス策定	七戸 俊明	消化器外科Ⅱ	9,200,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
T細胞性リンパ腫増殖・生存必須遺伝子に対する新規阻害剤の探索	中川 雅夫	血液内科	16,820,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
切除不能進行肺癌に対する免疫抑制経路Xの標的検証	野口 卓郎	腫瘍内科	4,545,455	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
表皮水疱症におけるリバータントスキニンの診断法確立	夏賀 健	皮膚科	12,500,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
O-17標識水を水トレーサーとして用いたMRIによる関節軟骨病変の早期診断を可能とする革新的評価法の確立と治験に向けた実用化研究	小野寺 智洋	整形外科	10,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肝細胞・肝非実質細胞・T細胞指向性lipid nanoparticleを使用した新規肝線維症治療法開発と治療薬開発プラットフォームの確立	須田 剛生	消化器内科	18,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ハイドロゲルを用いたがんの不均一性制御の医療応用基盤開発	田中 伸哉	病理診断科	21,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
安定同位体と多核種MRIによる分子イメージング基盤の創出	工藤 輿亮	放射線診断科	2,110,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
歯科的身元確認を支援する包括的歯科材料データベースとの構築-災害時応用を目指して	竹内 明子	歯科放射線科	1,800,000	補委	日本学術振興会
KRAS変異肺癌におけるKRAS特異的阻害薬の適応耐性機構の解明と新規治療法の開発	北井 秀典	呼吸器内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
肝線維化機構に関する宿主因子の網羅的探索と新規治療法の開発	坂本 直哉	消化器内科	3,900,000	補委	日本学術振興会
肝星細胞特異的糖鎖抗原を標的としたCAR-T細胞新規治療法の創出	坂本 直哉	消化器内科	2,500,000	補委	日本学術振興会
肝線維化治療標的同定とそれに基づく新規抗肝線維化治療法開発	須田 �剛生	消化器内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
消化管内視鏡基礎技術教育の現状調査と新規指導プログラムの構築	宮本 秀一	消化器内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
消化器における炎症記憶の基盤的研究	谷口 浩二	病理診断科	4,500,000	補委	日本学術振興会
新規細胞内抗体送達技術を用いた革新的抗炎症療法の開発	谷口 浩二	病理診断科	1,500,000	補委	日本学術振興会
造血幹細胞移植後の免疫寛容と組織寛容の機序の解明とその制御法の開発研究	豊嶋 崇徳	血液内科	3,200,000	補委	日本学術振興会
造血幹細胞移植後のGVHDにおける腸・皮膚幹細胞の炎症記憶	豊嶋 崇徳	血液内科	1,500,000	補委	日本学術振興会
T細胞・白血病細胞・GVHD標的組織のエピジェネティクスを標的とした新規移植法の開発	橋本 大吾	血液内科	3,600,000	補委	日本学術振興会

網羅的CRISPRスクリーニングによるNK細胞の機能解析とCAR-NK細胞への応用	中川 雅夫	血液内科	5,900,000	補委	日本学術振興会
脳MRI画像を用いた女性アスリート障害早期診断に向けたバイオマーカー探索	清水 幸衣	放射線診断科	600,000	補委	日本学術振興会
消化器がんに対するDGK $\alpha$ / $\beta$ を標的とした核酸医薬による新規免疫療法の開発研究	武富 紹信	消化器外科 I	3,900,000	補委	日本学術振興会
単一遺伝子異常による自己炎症性疾患を対象とした細胞死と炎症の関連性の解明	植木 将弘	小児科	1,600,000	補委	日本学術振興会
共有結合DNAアプタマーと増殖型レトロウイルスを応用した腫瘍免疫療法の開発	平野 聰	消化器外科 II	1,100,000	補委	日本学術振興会
脳梗塞血栓回収治療後の間葉系幹細胞由来エクソソーム局所動注による神経保護効果	栗栖 宏多	脳神経外科	1,000,000	補委	日本学術振興会
非ヒト靈長類モデルを用いた前頭連合野における記憶消去活動の成因に関する探索的研究	澤頭 亮	精神科神経科	1,700,000	補委	日本学術振興会
ショワン細胞を介した末梢神経軸索再生機構の解明	角家 健	整形外科	6,300,000	補委	日本学術振興会
機能性糖脂質分子を導入した新規軟骨再生材料の開発	小野寺 智洋	整形外科	4,500,000	補委	日本学術振興会
手術鉗子動態・映像解析を用いた腹腔鏡手術熟練者の技術の言語化と手術教育への利用	安部 崇重	泌尿器科	5,800,000	補委	日本学術振興会
膀胱癌幹細胞様細胞を標的とする免疫療法と化学・放射線療法との相乗効果の解明	宮田 遥	泌尿器科	1,100,000	補委	日本学術振興会
統合的ストレス応答が敗血症関連脳障害に果たす役割の解明	森本 裕二	麻酔科	400,000	補委	日本学術振興会
移植臓器における温度変化に伴う至適pHの探索～作用点の普遍性と特異性	深井 原	消化器外科 I	1,100,000	補委	日本学術振興会
ヒストンが関連する免疫血栓からDICへの進展機序解明に基づく新たなDIC診断基準の策定	和田 剛志	救急科	1,200,000	補委	日本学術振興会
Bassoon proteinopathy病態に関する継続的研究	矢部 一郎	脳神経内科	5,300,000	補委	日本学術振興会
抗Sez6l2抗体関連脳炎の病態解明	矢口 裕章	脳神経内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
画像とレポートの利用によるロジカルシンキング型のAI画像診断法の構築	平田 健司	核医学診療科	500,000	補委	日本学術振興会
滲出型加齢黄斑変性の網膜色素上皮障害における毒性アルデヒドアクロレインの関与	村田 美幸	眼科	1,300,000	補委	日本学術振興会
安定同位体水分子イメージングによるGlymphatic Systemの水動態解明	工藤 輿亮	放射線診断科	5,700,000	補委	日本学術振興会
表皮水疱症の創傷治癒遅延因子の同定とその克服	夏賀 健	皮膚科	4,500,000	補委	日本学術振興会
エクソソスキッピング誘導による劣性栄養障害型表皮水疱症の病態理解と治療応用	高島 翔太	皮膚科	1,800,000	補委	日本学術振興会
統合失調症、双極性障害、大うつ病性障害の社会認知機能障害の比較	橋本 直樹	精神科神経科	1,500,000	補委	日本学術振興会
小児の心筋症におけるミトコンドリア障害と心筋エネルギー代謝に関する研究	武田 充人	小児科	700,000	補委	日本学術振興会
膠芽腫における低酸素内糖代謝亢進メカニズムの検証	山口 秀	脳神経外科	1,100,000	補委	日本学術振興会
脳梗塞急性期に対する間葉系幹細胞由来細胞外小胞の経鼻的投与	川堀 真人	脳神経外科	1,200,000	補委	日本学術振興会

子宮体癌の分子分類診断システムの開発と新規治療標的の探索を志したゲノム解析研究	渡利 英道	婦人科	5,000,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞シートを用いたもやもや病の間接血行再建術における包括的研究	藤村 幹	脳神経外科	3,400,000	補委	日本学術振興会
視床下部-下垂体オルガノイドを用いた、下垂体発生におけるGPR101遺伝子の機能解明	森川 俊太郎	小児科	2,200,000	補委	日本学術振興会
肺癌に対する陽子線治療の選択基準確立に向けた心肺相互作用勘案NTCPモデル構築	青山 英史	放射線治療科	2,900,000	補委	日本学術振興会
AIを活用した小児がん陽子線照射のトリプルハイブリッド遠隔治療計画システムの開発	橋本 孝之	放射線治療科	800,000	補委	日本学術振興会
画像上同定困難な表在性腫瘍を人工知能で自動描出する技術の開発	西岡 健太郎	放射線治療科	200,000	補委	日本学術振興会
唾液中のエクソソームを用いた新規唾液腺癌診断法の開発	加納 里志	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	900,000	補委	日本学術振興会
迷走神経刺激によるぶどう膜炎抑制治療	南場 研一	眼科	900,000	補委	日本学術振興会
高機能ゲルによるゲノム制御:がん幹細胞リプログラミングの空間情報解析と治療薬開発	田中 伸哉	病理診断科	33,000,000	補委	日本学術振興会
高機能ゲルを用いたがん幹細胞ニッシェの構築と物理因子制御による治療法の創出	津田 真寿美	病理診断科	4,800,000	補委	日本学術振興会
ハイドロゲルを用いた髄膜腫幹細胞の創出と新規治療標的分子の探索	小田 義崇	病理診断科	2,100,000	補委	日本学術振興会
リキッドバイオプシーによる脈管奇形の遺伝子診断と個別化医療への応用	石川 耕資	形成外科	1,600,000	補委	日本学術振興会
生体直交クリック反応による細胞間強制結合を介したダイレクトリプログラミングの開発	岩崎 倫政	整形外科	2,500,000	補委	日本学術振興会
変形性膝関節症に対する膝周囲骨切り術に向けた、膝関節荷重分布の解析システムの確立	岩崎 浩司	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
脊椎韌帯組織における異所性骨化に関連する遺伝的要因の網羅的探索	遠藤 努	整形外科	100,000	補委	日本学術振興会
エピトープスプレディング現象に着目した水疱性類天疱瘡の病態解明	眞井 翔子	皮膚科	1,100,000	補委	日本学術振興会
表皮細胞のパターン形成に着目した新しい表皮培養の確立	眞井 洋輔	皮膚科	1,800,000	補委	日本学術振興会
オートファジー活性化と左心負荷軽減による心機能回復一ラット異所性心移植モデル	新宮 康栄	心臓血管外科	400,000	補委	日本学術振興会
新型コロナウイルス治療薬と化学療法を併用した膵癌新規治療法の開発	中村 透	消化器外科Ⅱ	1,300,000	補委	日本学術振興会
血中exosome内circRNA発現解析による膵癌の診断・予後関連マーカー探索	柿坂 達彦	消化器外科Ⅰ	1,000,000	補委	日本学術振興会
肺癌免疫療法におけるメモリー型T細胞・樹状細胞クロストークの解明	野口 卓郎	腫瘍内科	1,000,000	補委	日本学術振興会
MRI-R2'による革新的な脳酸素代謝の可視化	池辺 洋平	放射線診断科	300,000	補委	日本学術振興会
MRエラストグラフィーを用いた肝うつ血評価による心不全の非侵襲リスク層別法の開発	永井 利幸	循環器内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
抗リン脂質抗体症候群における新規治療標的の同定	久田 謙	リウマチ・腎臓内科	1,800,000	補委	日本学術振興会
慢性気道疾患のprecision medicine実現に向けたdeep phenotyping	今野 哲	呼吸器内科	4,900,000	補委	日本学術振興会

先進イメージングアプリケーションの研究	工藤 輿亮	放射線診断科	3,076,923	補 委	富士フイルムヘルスケア株式会社
ミトコンドリア・ナノメディシンによる免疫細胞機能修飾法の開発	豊嶋 崇徳	血液内科	7,650,000	補 委	ルカ・サイエンス株式会社
脊髄損傷モデルに対する羊膜幹細胞の有効性、作用機序評価	藤村 幹	脳神経外科	6,769,231	補 委	株式会社カネカ
もやもや病モデル動物に対する羊膜間葉系幹細胞の有効性評価	藤村 幹	脳神経外科	1,692,308	補 委	株式会社カネカ
Cellm-001による初発膠芽腫治療効果無作為比較対照試験に関する医師主導治験	山口 秀	脳神経外科	1,153,845	補 委	神戸大学医学部附属病院
治療後寛解期、終末期の小児がん患者における機能性食品AHCCRの免疫賦活作用及びQOL改善効果を検討する非盲検探索的臨床試験	真部 淳	小児科	50,000	補 委	株式会社アミノアップ
がん専用輸液製剤の研究に対するラット細胞およびラットモデル作製	田中 伸哉	病理診断科	500,000	補 委	株式会社大塚製薬工場
AHCCRによる肝細胞癌患者に対するレンバチニブ療法の副作用軽減効果の検討	武富 紹信	消化器外科 I	450,000	補 委	株式会社アミノアップ
温泉・温熱分野を中心とした温泉物理療法における人工知能(AI)の開発・応用	工藤 輿亮	放射線診断科	769,231	補 委	株式会社バスクリン
肺動脈性肺高血圧症の特徴を有するサブセットに注目した間質性肺疾患合併肺高血圧症の多施設前向きコホート研究	辻野 一三	呼吸器内科	6,740,125	補 委	ヤンセンファーマ株式会社
機能性食品AHCC?の尿路上皮癌における化学療法の副作用軽減効果を検討する非盲検探索的臨床研究	安部 崇重	泌尿器科	160,000	補 委	株式会社アミノアップ
FDG-PET/CTの読影レポートの自動生成AIの開発を目指した基礎的検討	平田 健司	核医学診療科	7,690,000	補 委	GE HealthCare Japan Corporation
脳出血急性期における治療法の開発	藤村 幹	脳神経外科	5,000,000	補 委	持田製薬株式会社
三次元前眼部撮影装置の臨床有用性の評価	石田 晋	眼科	3,420,000	補 委	株式会社トプコン
ドライアイモデル動物を用いたデルゴシチニブ及びトラマドールの眼疼痛への影響の検討	村田 美幸	眼科	2,000,000	補 委	ロート製薬(株)
間葉系幹細胞エクソソームを用いた中枢神経疾患治療法の開発	藤村 幹	脳神経外科	2,307,692	補 委	株式会社ダイセル
頭部MRIデータによるソフトウェアの評価及びソリューションの評価	工藤 輿亮	放射線診断科	3,076,923	補 委	富士フイルム株式会社
RI排水管の水漏れ予測システムの開発	工藤 輿亮	放射線診断科	800,000	補 委	積水化学工業株式会社

免疫温存放射線治療の確立に向けた研究	青山 英史	放射線治療科	2,961,538	補 委	株式会社 日立製作所
中枢神経損傷に対する細胞シートの開発・応用研究	藤村 幹	脳神経外科	5,570,000	補 委	株式会社 セルシード
統合失調症の認知機能障害の新規スクリーニング質問票に関する調査研究	橋本 直樹	精神科神経科	2,200,000	補 委	国立研究 開発法人 国立精神・ 神経医療 研究セン
脊髄損傷治療薬の開発	角家 健	整形外科	1,000,000	補 委	株式会社 ティムス
東日本における強皮症関連肺高血圧症コホート研究:HAPPINESS study (A cohort study in HigAshi-nippon of Pulmonary hyPertensiOn in systEmic SclerosiS)	久田 謙	リウマチ・腎臓内科	448,033	補 委	ヤンセン ファーマ株 式会社
運動障害疾患に関する画像バイオマーカー開発のための観察研究(多機関共同)	矢部 一郎	脳神経内科	384,615	補 委	株式会社 Splink
急性期DIC診断基準によるDIC離脱判断の有用性に関する検討	和田 剛志	救急科	100,000	補 委	一般社団 法人 日本 血液製剤 機構
人工知能を用いた医用画像解析による放射線治療の質と改善に向けた基礎研究	青山 英史	放射線治療科	500,000	補 委	アイラト株 式会社
産業創出分野:運動器先端医学分野	角家 健	整形外科	17,399,623	補 委	株式会社 日立ハイテク
産業創出分野:膝関節機能再建分野	岩崎 浩司	整形外科	12,743,246	補 委	オリンパス テルモバイ オマテリアル株 式会社
バイオマテリアル機能再生分野	岩崎 倫政	整形外科	8,332,913	補 委	持田製薬 株式会社
単眼カメラ筋骨格解析を用いた変形性膝関節症の検出	岩崎 倫政	整形外科	500,000	補 委	オリンパス テルモバイ オマテリアル株 式会社/株式会 社
177Lu除去装置(BSL177)の性能及び有効性の評価	平田 健司	核医学診療科	600,000	補 委	AMS企画 株式会社
胸部CT肺結節検出のためのオートエンコーダモデルおよび模擬病変の有効性に関する共同研究	工藤 輿亮	放射線診断科	3,000,000	補 委	株式会社 ジェイマックス
造影MRIにおける脳転移検出と自動レポート作成に関する共同研究	工藤 輿亮	放射線診断科	3,000,000	補 委	株式会社 ジェイマックス
白除フィルターから、PLを調製する手法の生産技術検討及び効率化に関する研究	藤村 幹	脳神経外科	3,000,000	補 委	コーリンバ イオ株式会 社
献体(Cadaver,以下「カダバー」という)を用いた心臓血管外	若狭 哲	心臓血管外科	2,700,000	補 委	オリンパス メディカル システムズ 株式会社
細胞架橋技術を用いた3Dプリンター用バイオインクの開発	小野寺 智洋	整形外科	2,200,000	補 委	持田製薬 株式会社

スポーツ障害および運動器疾患に対する筋骨格モデリング技術を用いた評価手法に関する研究	遠山 晴一	リハビリテーション科	384,500	補 委	株式会社 ORG
抗好中球細胞質抗体の機能特性と血管炎の臨床指標の関連を明らかにする研究	石津 明洋	病理診断科	600,000	補 委	小野薬品 工業(株)
ANCA関連血管炎モデルラットを用いた抗IL-21アプタマーの薬効評価	石津 明洋	病理診断科	300,000	補 委	株式会社リ ボミック
好中球細胞外トラップ測定試薬の性能評価	石津 明洋	病理診断科	300,000	補 委	株式会社 医学生物 学研究所
次世代の自己抗体測定法の開発と評価	石津 明洋	病理診断科	18,400,000	補 委	株式会社 医学生物 学研究所
新規酸性多糖のANCA関連血管炎に対する治療効果の確認	石津 明洋	病理診断科	3,900,000	補 委	生化学工 業株式会 社
肺高血圧症患者レジストリ Japan Pulmonary Hypertension Registry: JAPHR	辻野 一三	呼吸器内科	950,000	補 委	特定非営利活動法人Japan PH Registry
SGLT2阻害薬トホグリフロジンを用いた心保護効果のメカニズムに関する研究	安斎 俊久	循環器内科	84,615	補 委	WDBココ株 式会社
炎症記憶による腸の組織再生とがん化機構の解明	谷口 浩二	病理診断科	8,400,000	補 委	国立研究 開発法人 科学技術 振興機構
B型肝炎ウイルス再活性化予防としてのテノホビル アラフェナミドマル酸塩投与の治療効果・安全性の検討	須田 剛生	消化器内科	1,070,415	補 委	Gilead Sciences, Inc.
慢性C型肝炎・肝硬変患者に対するsofosbuvir/velpatasvir併用療法の安全性、治療効果の検討	須田 剛生	消化器内科	4,172,488	補 委	Gilead Sciences, Inc.
筋層浸潤性尿路上皮がん患者を対象としたニボルマブ術後補助療法の日本における治療実態研究(ANNIVERSARY試験)	安部 崇重	泌尿器科	211,538	補 委	メビックス株 式会社
切除不能肝細胞癌におけるアテンリズマブ+ペバシズマブ併用療法、外科的切除を用いた集学的治療の安全性、有効性を検討する多施設共同第II相臨床研究	柿坂 達彦	消化器外科 I	84,615	補 委	公益財団 法人パブ リックヘル スリサーチ センター
放射線科学関連分野での学術研究動向—AIを含めた先端イメージング技術—	工藤 輿亮	放射線診断科	1,200,000	補 委	独立行政 法人 日本 学術振興 会
病理学・腫瘍学分野に関する学術研究動向—網羅的解析の新たな潮流と展開—	谷口 浩二	病理診断科	1,200,000	補 委	独立行政 法人 日本 学術振興 会
ビスマス原薬活性 in vitro 試験	角家 健	整形外科	400,000	補 委	株式会社 ティムス
X染色体連鎖性低リン血症性くる病・骨軟化症(XLH)患者を対象としたアジア長期観察研究	森川 俊太郎	小児科	50,769	補 委	協和キリン 株式会社
出口指向の橋渡し研究支援によるアカデミア研究成果の最大化事業	岩崎 倫政	整形外科	3,944,999	補 委	独立研究 開発法人 国立がん 研究セン ター

ソフトウェア機能評価	工藤 輿亮	放射線診断科	500,000	補 委	富士ファイル ムメディカル株式会 社
11C標識メチオニンの脳腫瘍診断に関する研究－薬剤自動合成装置の医療機器承認取得を目指して－	平田 健司	核医学診療科	2,098,000	補 委	住友重機 械工業株 式会社
大規模言語モデルを用いた電子カルテの医療知識グラフ化と生成系AIによる統合	平田 健司	核医学診療科	6,200,000	補 委	国立大学 法人東北 大学 災害 科学国際 研究所
患者レジストリJapan PH Registryを利活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗IL-6受容体抗体適応拡大のための医師主導治験	辻野 一三	呼吸器内科	709,500	補 委	学校法人 国際医療 福祉大学
進行性又は転移性の日本人尿路上皮癌を対象にしたアベルマブ維持療法及びその後の治療に対する多施設共同後向き観察研究	安部 崇重	泌尿器科	1,122,000	補 委	イーピーエス株式会社
アミロイドPETと脳血流SPECTの組み合わせによるアルツハイマー病治療薬の治療効果予測	平田 健司	核医学診療科	398,800	補 委	日本メディ フィックス株式会社
日本における1型糖尿病を有する方の第一度近親者を対象とした1型糖尿病発症前のステージ分類に基づく観察研究(PREP-T1D)	森川 俊太郎	小児科	105,600	補 委	IQVIAサー ビシーズ ジャパン合 同会社
脳局所損傷に対する細胞治療医伴う技術の開発及び実用化	栗栖 宏多	脳神経外科	5,608,000	補 委	株式会社 RAINBOW
造血器腫瘍患者の臨床検体を用いた造血器腫瘍遺伝子パネル検査システムのTAT(Turn Around Time)検証及び検査不良検体の割合の確認に関する研究	豊嶋 崇徳	血液内科	550,000	補 委	大塚製薬 株式会社
エンホルツマブ ベドチンによる皮膚障害の発症様式に関する多機関共同観察研究	安部 崇重	泌尿器科	153,846	補 委	京都大学 医学部附 属病院泌 尿器科
脳卒中慢性期患者を対象にした新規再生医療等製品の研究開発	川堀 真人	脳神経外科	32,959,139	補 委	北海道経 済産業局
産科医・小児科医養成支援特別対策事業(産婦人科)	渡利 英道	婦人科	961,000	補 委	北海道
産科医・小児科医養成支援特別対策事業(小児科)	真部 淳	小児科	815,000	補 委	北海道
医学生等地域医療体験実習支援事業	高橋 誠	整形外科	3,426,000	補 委	北海道
民間企業等と連携したAI技術の開発・導入を推進する人材の養成	工藤 輿亮	放射線診断科	5,900,000	補 委	文部科学 省
地域に貢献する北海道がんプロ養成プラン	青山 英史	放射線診断科	14,615,000	補 委	文部科学 省
カチオンパイポリマー新規塞栓物質における生体血管内での挙動の確認	藤村 幹	脳神経外科	3,627,273	補 委	日本医療 研究開発 機構
新規軸索再生因子を応用した末梢神経再建方法の開発	角家 健	整形外科	3,000,000	補 委	日本医療 研究開発 機構
高度な臨床・研究能力を有する医師養成促進支援	高橋 誠	整形外科	1,384,870	補 委	文部科学 省
S-PRGナノフィラーバイオリキッドによる口腔ケア～抗バイオフィルム性能の検討	宮治 裕史	口腔総合治療部	500,000	補 委	(株)松風
アモルファス合金を使った生体親和アンカースクリューの開発	武藤 麻未	矯正歯科	400,000	補 委	(公財)北海道科学 技術総合振興セン ター(ノースティック財 團)
放射線性顎骨壊死に対する薬剤を用いた新規保存的治療の実験的研究	宮本 郁也	口腔内科	200,000	補 委	(独)日本学術 振興会

自閉スペクトラム症関連分子と体性感覚系神経回路発達に関する組織学的解析	高崎 千尋	小児・障がい者歯科	600,000	補委	(独)日本学術振興会
2段階薬剤放出性第4世代スキヤフォールドの歯周組織再生への応用	西田 紘利香	口腔総合治療部	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死に対する最適な高気圧酸素療法の確立	浅香 卓哉	口腔内科	800,000	補委	(独)日本学術振興会
多歯時代の歯周病:機械学習による将来予測とスクリーニングスコアの開発	岩崎 正則	予防歯科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
歯周病細菌の脳への移行トレース	箕輪 和行	歯科放射線科	400,000	補委	(独)日本学術振興会
睡眠時無呼吸症候群用口腔内装置装着時の顎運動経路—各種上下分離型の網羅的検証—	山田 恵子	クラウン・ブリッジ科	300,000	補委	(独)日本学術振興会
手掌線維腫症におけるIL-6アップに着目した線維化抑制効果の検討	松井 雄一郎	整形外科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
成長因子担持カーボンナノホーンコーティングチタンインプラントの開発	山本 悟	義歯科	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
ナノカーボンと近赤外光を用いたインプラント周囲炎に対する新たな光線力学療法の開発	平田 恵理	義歯科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
顎口腔と全身の機能の因果:生体データ、シミュレーション、機械学習の応用による検証	坂口 究	義歯科	400,000	補委	(独)日本学術振興会
新しいラットモデルを用いた術後痛遷延化の分子遺伝メカニズムの解明と治療戦略の開発	城戸 幹太	歯科麻酔科	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
口腔がんの悪性形質獲得に関わる口腔常在菌の解析	大廣 洋一	口腔外科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
慢性口腔顔面痛における「中枢と末梢」および「老化」の関与を解明する	佐藤 淳	口腔内科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
光再生治療～レーザーによる歯周病根面への人工セメント質構築	加藤 昭人	歯周病科	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
造影後拡散テンソル画像による真の心筋配列の画像化と肥大型心筋症の新規診断法の確立	常田 慧徳	歯科放射線科	700,000	補委	(独)日本学術振興会
口腔機能低下パターンの解明:健常からフレイル、そして要介護まで	三浦 和仁	高齢者歯科	900,000	補委	(独)日本学術振興会
Osteomacs/骨髓幹細胞連関による骨配向性低下がもたらす口腔疾患慢性・難治性機構解明	黒嶋 伸一郎	クラウン・ブリッジ科	1,900,000	補委	(独)日本学術振興会
ショウジョウバエを活用した新規口腔がん治療法の開発	木村 拓	口腔内科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
ビッグデータを用いたダウン症等に対するスペシャルニーズ歯科医療提供体制の実態把握	佐藤 美寿々	予防歯科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
オーラルフレイルに関する高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に関する研究	渡邊 裕	高齢者歯科	2,500,000	補委	(独)日本学術振興会
歯周組織発生過程の模倣を基盤とするハイブリッド構造体の創成と歯周組織再生への応用	友清 淳	むし歯科	2,300,000	補委	(独)日本学術振興会
マクロファージのヒエラルキー決定によるMRONJ病因解明と新規治療法開発基盤構築	黒嶋 伸一郎	クラウン・ブリッジ科	2,600,000	補委	(独)日本学術振興会
簡便化学処理による高耐久アバタイト処理ジルコニアのインプラント治療応用への挑戦	伊藤 達郎	義歯科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
複合現実を活用した光免疫療法におけるガイドカテーテル穿刺支援システムの開発	足利 雄一	口腔外科	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
複雑な乳歯根管系の制御—歯根外部吸収部の再生—	八若 保孝	小児・障がい者歯科	1,600,000	補委	(独)日本学術振興会
開口速度計を用いた嚥下機能の評価	奥村 拓真	高齢者歯科	1,900,000	補委	(独)日本学術振興会
ビッグデータを用いた障がい者における歯科医療提供体制の見える化と潜在需要の推計	佐藤 美寿々	予防歯科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
自閉症モデルマウスの島皮質における顔面痛の情報処理メカニズムの解明	工藤 葉子	歯科麻酔科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kosaka N, Uchiyama T, Onozawa M, et al	臨床研修センター	Acute Onset of Constrictive Pericarditis Due to Acute Myelomonocytic Leukemia: A Case and Literature Review.	Intern Med. 2024 Dec 15;63(24):3359–3365.	Original Article
2	Yamamoto T, Abbas H, Cooray U, et al	予防歯科	Estimating the Prevalence of and Clarifying Factors Associated With Multiple Tobacco Product Use in Japan: A Cross-sectional Study in 2022.	J Epidemiol. 2025 May 5;35(5):222–229.	Original Article
3	Yamamoto T, Cooray U, Kusama T, et al	予防歯科	Childhood Socioeconomic Status Affects Dental Pain in Later Life.	JDR Clin Trans Res. 2025 Apr;10(2):135–145.	Original Article
4	Iwasaki M, Ohta Y, Furusho N, et al	予防歯科	Association between oral frailty and nutritional status among hemodialysis patients aged a?¥50a?years.	Geriatr Gerontol Int. 2024 Sep;24(9):891–897.	Original Article
5	Iwasaki M, Shirobe M, Motokawa K, et al	予防歯科	Response to the Letter to the Editor, "Is oral frailty a cause or a consequence?".	Geriatr Gerontol Int. 2025 Apr;25(4):640–641.	Letter
6	Yamaguchi A, Saito Y, Okamoto K, et al	薬剤部	Association Between Multisystem Immune-related Adverse Events and Progression-free Survivals in PD-1/PD-L1 Inhibitor Monotherapy.	In Vivo. 2024 Nov-Dec;38(6):2886–2896.	Original Article
7	Mikami R, Imai S, Hayakawa M, et al	薬剤部	Development and validation of the prediction score for augmented renal clearance in critically ill Japanese adults.	J Pharm Health Care Sci. 2024 Nov 6;10(1):69. (オンライン)	Original Article
8	Yamagami A, Narumi K, Saito Y, et al	薬剤部	Reply to Accurate Risk Prediction Model for Surgical Site Infection After Lower Third Molar Surgery.	Oral Dis. 2025 Apr;31(4):1374–1375.	Letter
9	Taniguchi O, Saito Y, Yamaguchi Y, et al	薬剤部	Severe Hypomagnesemia in a Patient Treated Using Carboplatin Co-administered with Vonoprazan.	Case Rep Oncol. 2025 Jan 3;18(1):151–158. (オンライン)	Case Report

10	Yamaguchi A, Hirabayashi S, Niki K, et al	薬剤部	Comparison of busulfan pharmacokinetics between four-times-daily and once-daily administration in pediatric patients: a preliminary prospective observational trial.	Int J Hematol. 2025 Feb;121(2):244-251.	Original Article
11	Sakamoto T, Kado M, Saito Y, et al	薬剤部	Evaluation of Efficacy of Adding Aprepitant to Palonosetron and Dexamethasone in Carboplatin and Etoposide Therapy.	Biol Pharm Bull. 2024;47(6):1189-1195.	Original Article
12	Niinuma Y, Kagami K, Sugawara M, et al	薬剤部	The crucial relationship between vancomycin minimum inhibitory concentration and therapeutic efficacy against methicillin-resistant coagulase-negative staphylococci.	J Chemother. 2024 Aug 26:1-8.	Original Article
13	Saito Y, Takekuma Y, Sakakibara-Konishi J, et al	薬剤部	Effect of baseline anemia on the efficacy of docetaxel and ramucirumab for advanced non-small cell lung cancer treatment.	BMC Cancer. 2024 Oct 21;24(1):1301. (オンライン)	Original Article
14	Nishimura A, Furugen A, Kobayashi M, et al	薬剤部	Effects of famotidine use during pregnancy: an observational cohort study.	J Pharm Health Care Sci. 2024 Nov 8;10(1):70. (オンライン)	Original Article
15	Yamagami A, Narumi K, Saito Y, et al	薬剤部	Validity and Utility of a Risk Prediction Model for Wound Infection After Lower Third Molar Surgery.	Oral Dis. 2025 Jan 10.	Original Article
16	Takezo Tsutsumi, Shungo Imai, Kenji Momoi, Hitoshi Kashiwagi, Yuki Sato, Mitsu Sugawara, Yoh Takekuma	薬剤部	Comparison of the incidence of nausea and vomiting between linezolid and vancomycin using claims database: a retrospective cohort study	Int J Clin Pharm. 2024 Apr;46(2):421-428. doi: 10.1007/s11096-023-01668-9. Epub 2023 Dec 29.	Original Article
17	Takuya Watanabe, Yoshitaka Saito, Yoh Takekuma, Yasushi Shimizu, Ichiro Kinoshita, Yoshito Komatsu, Mitsuru Sugawara	薬剤部	Evaluation of the risk factors for the failure of a single prophylactic dose of anticholinergic drugs for irinotecan-induced cholinergic symptoms	Int J Clin Pharmacol Ther. 2024 May;62(5):213-221. doi: 10.5414/CP204531.	Original Article
18	Akira Yamagami, Katsuya Narumi, Yoshitaka Saito, Ayako Furugen, Shungo Imai, Yoshimasa Kitagawa, Yoichi Ohiro, Ryo Takagi, Yoh Takekuma, Mitsuru Sugawara, Masaki Kobayashi	薬剤部	Development of a risk prediction model for surgical site infection after lower third molar surgery	Oral Diseases 2024 Jul;30(5):3202-3211. doi: 10.1111/odi.14747. Epub 2023 Sep 27.	Original Article
19	Uchinami Y, Fujita N, Mizunoya K, et al	麻酔科	McGRATH(a?¢) MAC size 1 vs. 2 blades: infant intubation time.	J Anesth. 2024 Dec;38(6):886-888.	Letter

20	Toki T, Mizunoya K, Itabashi M, et al	麻酔科	Acute decompensated right heart failure potentially triggered by multiple factors including pulmonary vasodilator removal during plasma exchange: a case report.	JA Clin Rep. 2025 Jan 27;11(1):5. (オンライン)	Original Article
21	Takeda Y, Hoshino K, Yamamoto M, et al	麻酔科	Changes in Cerebral Hemodynamics During Pediatric Cardiac Surgery with Cardiopulmonary Bypass for Congenital Heart Disease.	Pediatr Cardiol. 2024 Dec 11.	Original Article
22	Akiko Takeuchi, Shigeki Jin, Manabu Murakami, Kotaro Matoba	北海道大学病院 歯科放射線科 / 北 海道大学医学部 法医学教室	Factors that hinder critical thinking and their resolution: Is active learning the key?	Pak J Med Sci, 40(6): 1313–1314, 2024 Jul.	Original Article
23	Naoya Kinoto , Hiroyuki Kameda , Bai Xiawei , Takaaki Fujii , Daisuke Kato , Bunya Takahashi , Ryo Morita , Daisuke Abo , Ryusei Majima , Hiroshi Ishii , Kazuyuki Minowa , Kohsuke Kudo	北海道大学大学院医学研究科 画像 診断学分野 / 北海道大学病院 放射 線診断科 / 北海道大学病院 歯科放 射線科 / 札幌市立病院 放射線診斷 科 / 帯広こども病院 放射線科 / 北 海道大学医学部付属グローバル生命医 理工学センター	Blockage of CSF Outflow in Rats after Deep Cervical Lymph Node Ligation Observed Using Gd-based MR Imaging.	Magn Reson Med Sci. 2024 Oct 1;23(4):449–459. doi: 10.2463/mrms.mp.2023–0023. Epub 2023 May 30.	Original Article
24	Shingu Y, Yokota I, Shichinohe T, Murakami S, Ebihara Y, Kurashima Y, Hirano S, Wakasa S	北海道大学心臓血管外科学教室	Incidence of atrial fibrillation after esophageal cancer surgery with L-carnitine use: a preliminary single-group interventional study	Surgery Today 54(8):892–898	Original Article
25	Wakasa S, Shingu Y	北海道大学心臓血管外科学教室	Rough-zone suspension with mitral valve replacement for ventricular functional mitral regurgitation	General Thoracic and Cardiovascular Surgery 72:247–249	Others
26	Morita R, Abo D, Fujii T, et al	放射線診断科	Patient-specific vascular models for optimal catheter selection: Two aneurysm embolization cases.	Radiol Case Rep. 2025 Mar 18;20(6):2813–2819. (オンライン)	Case Report
27	Fujima N, Shimizu Y, Ikebe Y, et al	放射線診断科	Dual-type deep learning-based image reconstruction for advanced denoising and super-resolution processing in head and neck T2-weighted imaging.	Jpn J Radiol. 2025 Mar 5.	Original Article
28	Morita R, Kurashima Y, Soyama T, et al	放射線診断科	Effect of a Training System Utilizing 3-Dimensionally Printed Patient-Specific Vascular Models on Endovascular Catheterization Performance.	J Vasc Interv Radiol. 2025 May;36(5):901–907.e2.	Original Article
29	Nishioka N, Shimizu Y, Kaneko Y, et al	放射線診断科	Accelerating FLAIR imaging via deep learning reconstruction: potential for evaluating white matter hyperintensities.	Jpn J Radiol. 2025 Feb;43(2):200–209.	Original Article

30	Nishioka N, Fujima N, Tsuneta S, et al	放射線診断科	Enhancing the image quality of prostate diffusion-weighted imaging in patients with prostate cancer through model-based deep learning reconstruction.	Eur J Radiol Open. 2024 Jul 5;13:100588. (オンライン)	Original Article
31	Kato D, Kameda H, Kinota N, et al	放射線診断科	Loss of aquaporin-4 impairs cerebrospinal fluid solute clearance through cerebrospinal fluid drainage pathways.	Sci Rep. 2024 Nov 14;14(1):27982. (オンライン)	Original Article
32	Hirata K, Matsui Y, Yamada A, et al	放射線診断科	Generative AI and large language models in nuclear medicine: current status and future prospects.	Ann Nucl Med. 2024 Nov;38(11):853-864.	Original Article
33	Kurokawa M, Kurokawa R, Baba A, et al	放射線診断科	Neuroimaging Features of Cytokine-related Diseases.	Radiographics. 2024 Jun;44(6):e230069.	Original Article
34	Tang M, Sugiyama T, Takahari R, et al	放射線診断科	Assessment of changes in vessel area during needle manipulation in microvascular anastomosis using a deep learning-based semantic segmentation algorithm: A pilot study.	Neurosurg Rev. 2024 May 9;47(1):200. (オンライン)	Original Article
35	Takenaka J, Watanabe S, Abe T, et al	放射線診断科	Urinary Dopamine Levels Can Predict the Avidity of Post-Therapy [(131)I]MIBG Scintigraphy in Unresectable or Metastatic Pheochromocytomas and Paragangliomas: A Preliminary Clinical Study.	Pharmaceuticals (Basel). 2025 Jan 26;18(2):165. (オンライン)	Original Article
36	Fujima N, Nakagawa J, Ikebe Y, Kameda H, Harada T, Shimizu Y, Tsushima N, Kano S, Homma A, Kwon J, Yoneyama M, Kudo K	放射線診断科	Improved image quality in contrast-enhanced 3D-T1 weighted sequence by compressed sensing-based deep-learning reconstruction for the evaluation of head and neck	Magn Reson Imaging. 2024 May; 108:111-115	Original Article
37	Nakagawa J, Fujima N, Hirata K, Harada T, Wakabayashi N, Takano Y, Homma A, Kano S, Minowa K, Kudo K	放射線診断科	Diagnosis of skull-base invasion by nasopharyngeal tumors on CT with a deep-learning approach	Jpn J Radiol. 2024 May;42(5):450-459	Original Article
38	Fujima N, Nakagawa J, Kameda H, Ikebe Y, Harada T, Shimizu Y, Tsushima N, Kano S, Homma A, Kwon J, Yoneyama M, Kudo K	放射線診断科	Improvement of image quality in diffusion-weighted imaging with model-based deep learning reconstruction for evaluations of the head and neck	MAGMA. 2024 Jul;37(3):439-447	Original Article
39	Takenaka J, Watanabe S, Abe T, Tsuchikawa T, Takeuchi S, Hirata K, Kimura R, Wakabayashi N, Shinohara N, Kudo K	放射線診断科	Predictive Factors of Early 18F-Fluorodeoxyglucose-Positron Emission Tomography Response to [131I] Metaiodobenzylguanidine Treatment for Unresectable or Metastatic Pheochromocytomas and Paragangliomas	Neuroendocrinology. 2024;114(9):816-826	Original Article

40	Kinota N, Kameda H, Xiawei B, Fujii T, Kato D, Takahashi B, Morita R, Abo D, Majima R, Ishii H, Minowa K, Kudo K	放射線診断科	Blockage of CSF Outflow in Rats after Deep Cervical Lymph Node Ligation Observed Using Gd-based MR Imaging	Magn Reson Med Sci. 2024 Oct 1;23(4):449–459	Original Article
41	Bito Y, Ochi H, Shirase R, Yokohama W, Harada K, Kudo K	放射線診断科	Low b-value Diffusion Tensor Imaging to Analyze the Dynamics of Cerebrospinal Fluid: Resolving Intravoxel Pseudorandom Motion into Ordered and Disordered Motions	Magn Reson Med Sci. 2025 Jan 1;24(1):46–57	Original Article
42	Yasuda K, Kiyota N, Matsuura K, et al	放射線治療科	Indications for chemoradiotherapy in older patients with locally advanced head and neck cancer in Japan: a questionnaire survey in the JCOG head and neck cancer study group.	Front Oncol. 2025 Jan 8;14:1441056. (オンライン)	Original Article
43	Uchinami Y, Dasgupta A, Nishioka K, et al	放射線治療科	Patterns of Care for Brain Metastases in Asia: A Real-World Survey Conducted by the Federation of Asian Organizations for Radiation Oncology.	JCO Glob Oncol. 2024 Oct;10:e2400222.	Original Article
44	Koizumi F, Katoh N, Kanehira T, et al	放射線治療科	Normal tissue complication probability model for severe radiation-induced lymphopenia in patients with pancreatic cancer treated with concurrent chemoradiotherapy.	Phys Imaging Radiat Oncol. 2024 Dec 22;33:100690. (オンライン)	Original Article
45	Hirano Y, Ishizaka K, Sugimori H, et al	放射線部	Assessment of accuracy and repeatability of quantitative parameter mapping in MRI.	Radiol Phys Technol. 2024 Dec;17(4):918–928.	Original Article
46	Hirano Y, Fujima N, Kameda H, et al	放射線部	High Resolution TOF-MRA Using Compressed Sensing-based Deep Learning Image Reconstruction for the Visualization of Lenticulostriate Arteries: A Preliminary Study.	Magn Reson Med Sci. 2024 Jul 20.	Original Article
47	Ishii Y, Fukui- Miyazaki A, Iwasaki S, et al	病理部	Impaired immunoproteasomal function exacerbates renal ischemia-reperfusion injury.	Exp Mol Pathol. 2024 Dec;140:104939.	Original Article
48	Nakazato S, Takashima S, Matsukawa T, et al	病理診断科	Psoriasiform graft-versus-host disease with distal sweat duct involvement as the diagnostic histopathological feature.	J Dermatol. 2025 May;52(5):e339–e340.	Letter
49	Seo T, Shiiya C, Kosumi H, et al	皮膚科	A Case of Distal Nail Embedding Successfully Treated With a Slit-Tape Strap Taping Method.	Cureus. 2025 Feb 14;17(2):e79018. (オンライン)	Case Report

50	Katayama S, Izumi K, Ujiie I, et al	皮膚科	A case of rapidly progressive hair loss due to azathioprine, and the prevalence of NUDT15 variants among Japanese patients with autoimmune blistering diseases: A single-center retrospective observational study.	J Dermatol. 2025 Feb;52(2):363–366.	Case Report
51	Yoshimoto N, Muramatsu K, Ito T, et al	皮膚科	Type XVII Collagen-Specific CD4(+) T Cells Induce Bullous Pemphigoid by Producing IL-5.	J Invest Dermatol. 2025 May;145(5):1092–1104.e3.	Original Article
52	Miura G, Watanabe M, Kosumi H, et al	皮膚科	Blaschkoid granulomatous pigmented purpuric dermatosis in childhood.	J Dermatol. 2025 Jan;52(1):e10–e11.	Letter
53	Miura G, Maeda T, Ujiie H	皮膚科	Dermoscopic findings in two cases of trichogerminoma.	J Dermatol. 2025 Apr;52(4):730–734.	Case Report
54	Inoue S, Mai Y, Watanabe M	皮膚科	Visualization of Patient Discomfort: Starch-Iodine Test for Anhidrosis in Horner Syndrome.	Am J Med. 2025 May;138(5):e85–e86.	Case Report
55	Inamura E, Fujita Y, Hirano Y, et al	皮膚科	A case of xanthogranuloma that developed in scar tissue following treatment for diffuse large B-cell lymphoma.	J Dermatol. 2025 Apr;52(4):e276–e277.	Letter
56	Ujiie H	皮膚科	Eosinophils promote the production of autoantibodies in bullous pemphigoid.	J Allergy Clin Immunol. 2025 Apr;155(4):1208–1210.	Original Article
57	Natsuga K	皮膚科	Advanced phasing techniques in congenital skin diseases.	J Dermatol. 2025 Mar;52(3):392–399.	Original Article
58	Kimura A, Ito T, Abe R, et al	皮膚科	Toxic epidermal necrolysis resulting in lip synechiae.	J Dermatol. 2025 Mar 26.	Letter
59	Itamoto S, Natsuga K, Seo T, et al	皮膚科	Multiple Acantholytic Acanthomas in Junctional Epidermolysis Bullosa.	Acta Derm Venereol. 2024 Nov 19;104:adv42258. (オンライン)	Original Article

60	Hase T, Muramatsu K, Shiiya C, et al	皮膚科	Klebsiella pneumoniae bacteremic cellulitis following tocilizumab administration for COVID-19.	J Dermatol. 2025 Feb 6.	Letter
61	Inoue S, Mai Y, Youh J, et al	皮膚科	Exacerbation of dipeptidyl peptidase-IV inhibitor-associated bullous pemphigoid by the immune checkpoint inhibitors durvalumab and tremelimumab.	J Dermatol. 2025 Feb 14.	Letter
62	Itamoto S, Miyazawa H, Natsuga K, et al	皮膚科	Association between nail psoriasis and obesity: A cross-sectional study at a single institution.	J Dermatol. 2025 Mar;52(3):e227-e228.	Letter
63	Hikichi S, Yanagi T, Kitamura S, et al	皮膚科	Spontaneous regression of Merkel cell carcinoma: A case report with pathological and genetic analyses.	J Dermatol. 2025 Apr;52(4):e299-e301.	Letter
64	Itamoto S, Natsuga K, Takashima S, et al	皮膚科	Atypical manifestations of hemangiomas in epidermolysis bullosa.	J Dermatol. 2024 Dec;51(12):e419-e420.	Letter
65	Izumi K, Nishie W, Yamaguchi Y, et al	皮膚科	Autologous sweat-induced anaphylaxis and basophil activation test.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2024 Nov;38(11):e973-e975.	Letter
66	Hsu CY, Yanagi T, Maeda T, et al	皮膚科	Establishment of a trastuzumab-resistant extramammary Paget disease model: loss of PTEN as a potential mechanism.	Br J Cancer. 2024 Sep;131(5):944-953.	Original Article
67	Ujiiie I, Katayama S, Mai Y, et al	皮膚科	Clinical characteristics and outcomes of dipeptidyl peptidase-4 inhibitor- associated bullous pemphigoid patients: AA?retrospective study.	J Am Acad Dermatol. 2025 Mar;92(3):561-564.	Original Article
68	Mai Y, Kobayashi Y, Kitahata H, et al	皮膚科	Patterning in stratified epithelia depends on cell-cell adhesion.	Life Sci Alliance. 2024 Jul 18;7(9):e202402893. (オンライン)	Original Article
69	Naruse S, Natsuga K, Itamoto S, et al	皮膚科	Intracellular glycogen accumulation in pyodermitis-pyostomatitis vegetans.	J Dermatol. 2025 Apr;52(4):e313-e315.	Letter

70	Inamura E, Fujita Y*, Hirano Y, Shimano M, Natsuga K, Yamamoto S, Tsuji T, Shimizu S	皮膚科	A case of xanthogranuloma that developed in scar tissue following treatment for diffuse large B-cell lymphoma	J Dermatol 2024;7	Letter
71	Maeda T, Yanagi T, Kitamura S, Nishihara H, Ono Y, Mizukami Y, Tanaka S, Ujiiie H	皮膚科	A familial case of extramammary Paget disease: Analysis of whole-exome sequencing	EJC Skin Cancer 2:100025, 2024	Original Article
72	Takashima S, Sun W, Otten ABC, Cai P, Peng SI, Tong E, Bui J, Mai M, Amarbayar O, Cheng B Tong E, Li Z, Qu K, Sun BK	皮膚科	Alternative mRNA splicing events and regulators in epidermal differentiation	Cell Rep 43:113814, 2024	Others
73	Itamoto S, Miyazawa H, Natsuga K, Yamaga M, Iwata H, Watanabe M, Ujiiie H	皮膚科	Association between nail psoriasis and obesity: A cross-sectional study at a single institution	J Dermatol 2024	Letter
74	Tanaka A, Miyazawa H, Yanagi T, Maeda T, Kitamura S, Ujiiie H	皮膚科	Association between weight loss and death in patients with malignant melanoma: A retrospective study of 28 cases	J Dermatol 51:463–466, 2024	Original Article
75	Youh J, Yamaguchi Y, Hiraguchi E	皮膚科	Centrifugally Spreading Annular Erythema as a Dermatological Indicator of Metastatic Breast Carcinoma	Cureus 16:e51641, 2024.	Case Report
76	Tokuchi K, Yanagi T*, Inamura E, Kawamura T, Seo T, Fujita Y, Nakagawa M, Kasahara I, Matsuno Y, Ujiiie H	皮膚科	Morphea-like subcutaneous panniculitis-like T-cell lymphoma	JAAD Case Rep 46:27–29, 2024	Case Report
77	Fujita Y, Yoshimoto N, Yamaga M, Shimizu S	皮膚科	Cutaneous methotrexate-related lymphoproliferative disorder mimicking nodular lymphangitis	J Dtsch Dermatol Ges 2024.	Letter
78	Hoshina D, Kimura A	皮膚科	Cutaneous T-cell pseudolymphoma successfully treated with topical delgocitinib	Int J Dermatol 63:1610–1611, 2024	Letter
79	Inoue S, Maeda T, Nagata Y, Yanagi T*, Ujiiie H	皮膚科	Dermoscopic Features of Heterotopic Salivary Gland Tissue in the Neck: Report of a Case	Case Rep Dermatol 16:17–20, 2024.8	Case Report

80	Maeda T, Yanagi T, Tokuchi K, Funakoshi T, Horie N, Isoe T, Ito YM, Sato N, Ujiie H	皮膚科	Eribulin for patients with metastatic extramammary Paget disease: Study protocol for a single-arm phase II trial	Exp Dermatol 33: e14993, 2024	Original Article
81	Naruse S, Natsuga K, Itamoto S, Watanabe M, Yanagi T, Nakamaru Y, Ujiie H	皮膚科	Intracellular glycogen accumulation in pyodermititis-pyostomatitis vegetans	J Dermatol 2024	Letter
82	Youh J, Iwata H, Kitamura S, Ujiie H	皮膚科	Lichen planus pigmentosus inversus presenting with clinical features mimicking acanthosis nigricans	Dermatology Online Journal 30:6, 2024	Case Report
83	Tokuchi K, Yanagi T, Inamura E, Kawamura T, Seo T, Fujita Y, Nakagawa M, Kasahara I, Matsuno Y, Ujiie H	皮膚科	Morphea-like subcutaneous panniculitis- like T-cell lymphoma	JAAD Case Rep 46:27-29, 2024	Case Report
84	Itamoto S, Natsuga K, Seo T, Takashima S, Ujiie H	皮膚科	Multiple Acantholytic Acanthomas in Junctional Epidermolysis Bullosa	Acta Derm Venereol 104: adv42258, 2024	Original Article
85	Imafuku K, Yanagi T, Yoshimoto N, Miyazawa H, Iwata H, Ujiie H	皮膚科	Multiple courses of steroid pulse therapy are required in treating acquired idiopathic generalized anhidrosis patients with a large anhidrotic area: A retrospective study of 28 cases	Australas J Dermatol 65:55-58, 2024	Original Article
86	Hoshina D, Nagata Y	皮膚科	Mycosis fungoides-like eruptions associated with abatacept	Australas J Dermatol 65: e77-e78, 2024	Case Report
87	Mai S, Izumi K, Itamoto S, Kurosawa S, Nagata Y, Hikichi S, Miyazawa H, Tokuchi K, Imafuku K, Yanagi T, Tsutsui M, Ujiie H	皮膚科	Native collagen XVII complex ELISA: An approach for diagnosis and monitoring of anti-integrin $\beta$ 4 mucous membrane pemphigoid	J Eur Acad Dermatol Venereol 38: e385-e387, 2024	Letter
88	Youh J, Mizukami T, Nagata Y, Ito K	皮膚科	Resolution of Bullous Pemphigoid Following Lung Cancer Resection: A Case of Paraneoplastic Pemphigoid	Cureus 16:e73485, 2024	Case Report
89	Hikichi S, Yanagi T, Kitamura S, Nishihara H, Miyamoto K, Mai S, Tokuchi K, Maeda T, Imafuku K, Ujiie H	皮膚科	Spontaneous regression of Merkel cell carcinoma: A case report with pathological and genetic analyses	J Dermatol 2024	Letter

90	Youh J, Mizukami T, Nagata Y, Ito K	皮膚科	Subcutaneous Sweet's Syndrome Presenting With a Single Cutaneous Lesion on the Thigh	Cureus 16: e67466, 2024	Case Report
91	Naruse S, Takashima S, Fujita Y, Kataoka H, Kawamura N, Natsuga K, Ujije H	皮膚科	Successful treatment of multicentric Castleman's disease associated with dystrophic epidermolysis bullosa using anti-interleukin-6 receptor antibody	J Dermatol 51:e268-e269, 2024	Letter
92	Inoue S, Mai Y, Watanabe M	皮膚科	Visualization of patient discomfort: starch-iodine test for anhidrosis in Horner syndrome	Am J Med 2024	Case Report
93	Hsu CY, Yanagi T, Maeda T, Nishihara H, Funakoshi T, Miyamoto K, Iwamoto R, Takahashi K, Ujije H	皮膚科	Establishment of a trastuzumab-resistant extramammary Paget disease model: loss of PTEN as a potential mechanism.	Br J Cancer 131:944-953, 2024	Original Article
94	Orita A, Takashima S, Yoshimoto N, Narahira A, Mai Y, Arita K, Kase S, Nishie W, Ujije H	皮膚科	Pseudolymphoma on the face involving the conjunctiva	Clin Exp Dermatol 49:521- 523, 2024	Case Report
95	Shirai S, Mizushima K, Shibata Y, et al	脳神経内科	CAG Repeat Expansion in THAP11 Is Not Detected in a Cohort with Spinocerebellar Ataxia from Hokkaido, the Northernmost Island of Japan.	Mov Disord. 2024 Sep;39(9):1657-1658.	Letter
96	Fuji S, Takahashi- Iwata I, Oshima Y, et al	脳神経内科	Amyloid-beta pathology in a case with dementia with Lewy bodies with a rapidly progressive clinical course similar to Creutzfeldt-Jacob disease.	Neuropathology. 2024 Dec 1.	Case Report
97	Nomura T, Iwata I, Kimura S, et al	脳神経内科	Pembrolizumab-induced Immune-related Bilateral Vocal Cord Paralysis.	Intern Med. 2024;63(22):3115-3116.	Original Article
98	Wakita M, Yaguchi H, Otuski M, et al	脳神経内科	Pathological study of progressive supranuclear palsy the cases with mutations in Bassoon.	Neuropathology. 2025 Apr;45(2):140-152.	Case Report
99	Eguchi K, Yaguchi H, Uwatoko H, et al	脳神経内科	Gait Video-Based Prediction of Severity of Cerebellar Ataxia Using Deep Neural Networks.	Mov Disord. 2025 Apr;40(4):752-758.	Original Article

100	Fuji S, Yaguchi H, Kudo A, et al	脳神経内科	Autoimmune cerebellar ataxia with Kelch-like protein 11 antibodies in a large cohort study.	J Neurol. 2025 Mar 22;272(4):282. (オンライン)	Letter
101	Fuji S, Yaguchi H, Takahashi-Iwata I, et al	脳神経内科	Anti-Tr/DNER Antibody-associated Paraneoplastic Neurological Syndrome Presenting Limbic Encephalitis with Anaplastic Large Cell Lymphoma: A Case Report.	Intern Med. 2024 Dec 12.	Original Article
102	Nomura T, Muramatsu K, Yaguchi H, et al	脳神経内科	Three cases of multiple sclerosis presenting with palmoplantar pustulosis while receiving ofatumumab.	J Neurol Sci. 2024 Dec 15;467:123315.	Letter
103	Yamada K, Yaguchi H, Ishikawa K, et al	脳神経内科	Pretreatment pathology study in anti-LGI1 encephalitis.	J Neurol Sci. 2024 Nov 15;466:123258.	Letter
104	Takeishi Y, Yaguchi H, Kudo A, et al	脳神経内科	The importance of early immunotherapy in anti-GluK2 antibody-positive autoimmune cerebellar ataxia: A case report.	J Neurol Sci. 2024 Dec 15;467:123306.	Letter
105	Eguchi K, Yaguchi H, Uwatoko H, et al	脳神経内科	Feasibility of differentiating gait in Parkinson's disease and spinocerebellar degeneration using a pose estimation algorithm in two-dimensional video.	J Neurol Sci. 2024 Sep 15;464:123158.	Original Article
106	Nomura T, Iwata I, Eguchi K, et al	脳神経内科	Requirement of Repeated Serum VEGF Measurements in POEMS Syndrome.	Intern Med. 2025 Mar 1;64(5):769–773.	Case Report
107	Tanaka D, Yaguchi H, Yoshizaki K, et al	脳神経内科	Behavioral and histological analyses of the mouse Bassoon p.P3882A mutation corresponding to the human BSN p.P3866A mutation.	Front Neurosci. 2024 Jul 26;18:1414145. (オンライン)	Original Article
108	Abumiya T, Fujimura M	脳神経外科	Moyamoya Vasculopathy and Moyamoya-Related Systemic Vasculopathy: A Review With Histopathological and Genetic Viewpoints.	Stroke. 2024 Jun;55(6):1699–1706.	Original Article
109	Okamoto M, Yamaguchi S, Sawaya R, et al	脳神経外科	Long-Term Outcome and Social-Intellectual Ability of Patients With Basal Ganglia Germinoma.	Pediatr Neurol. 2025 Apr;165:16–21.	Original Article

110	Sugiyama T, Sugimori H, Tang M, et al	脳神経外科	Artificial Intelligence for Patient Safety and Surgical Education in Neurosurgery.	JMA J. 2025 Jan 15;8(1):76–85.	Original Article
111	Lin TC, Uchino H, Ito M, et al	脳神経外科	Moyamoya syndrome after proton beam therapy in a pediatric patient with a pineal germ cell tumor and a germline polymorphism in RNF213.	Childs Nerv Syst. 2024 Nov;40(11):3873–3878.	Case Report
112	Kawabori M, Karasawa Y, Suenaga J, et al	脳神経外科	Relationship Between Location of Cell Transplantation and Recovery for Intracerebral Stem Cell Transplantation for Chronic Traumatic Brain Injury: Post-hoc Analysis of STEMTRA Trial.	Neurotrauma Rep. 2025 Jan 28;6(1):106–114. (オンライン)	Original Article
113	Takamiya S, Oura D, Ihara R, et al	脳神経外科	The time threshold to reperfusion for DWI reversal in acute ischemic stroke depends on pre-interventional ADC value.	Neuroradiology. 2024 Dec;66(12):2205–2213.	Original Article
114	Yamamoto T, Uchino H, Ito M, et al	脳神経外科	Systemic Immune-inflammation Index Is Associated with Symptomatic Cerebral Hyperperfusion after Revascularization Surgery in Moyamoya Disease.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2025 Mar 15;65(3):120–125.	Original Article
115	Ohmae K, Iwasaki M, Koyanagi I, et al	脳神経外科	A Case of Surgically Treated Adult Split Cord Malformation Type 2 with Tethered Cord Syndrome.	NMC Case Rep J. 2025 Jan 28;12:1–5. (オンライン)	Case Report
116	Iwasaki M, Echizenya I, Fujimura M	脳神経外科	A Case of Rivaroxaban-induced Hematomyelia of Thoracic Spinal Cord in Patient with Acute Renal Failure.	NMC Case Rep J. 2024 Jul 27;11:207–211. (オンライン)	Case Report
117	Lin TC, Huang CY, Li YL, et al	脳神経外科	Association between high-density lipoprotein and functional outcome of ischemic stroke patients in a Taiwanese population.	Lipids Health Dis. 2024 Aug 29;23(1):275. (オンライン)	Original Article
118	Gotoh S, Kawabori M, Yamaguchi S, et al	脳神経外科	Intranasal administration of stem cell-derived exosome alleviates cognitive impairment against subarachnoid hemorrhage.	Exp Neurol. 2025 Apr;386:115143.	Original Article
119	Ito M, Uchino H, Fujimura M	脳神経外科	Intraoperative Cortical Indocyanine Green Extravasation as a Predictor of Cerebral Hyperperfusion following Direct Revascularization for Moyamoya Disease: Impact of Prolonged Observations of Indocyanine Green Videoangiography.	Cerebrovasc Dis. 2025 Mar 20:1–8.	Original Article

120	Takamiya S, Echizenya I, Yamazaki K, et al	脳神経外科	Preoperative Predictors of Foramen Magnum Decompression with Dural Splitting for Amelioration of Syringomyelia Associated with Chiari Type 1 Malformation.	World Neurosurg. 2024 Nov;191:e567-e574.	Original Article
121	Kurisu K, Osanai T, Morishima Y, et al	脳神経外科	Systemic immune-inflammation index in dural arteriovenous fistula: a feasible biomarker reflecting its clinical characteristics.	Acta Neurochir (Wien). 2024 Apr 16;166(1):180. (オンライン)	Original Article
122	Mizushima M, Ito M, Uchino H, et al	脳神経外科	Impact of RNF213 p.R4810K variant on postoperative temporal muscle swelling used in encephalo-myo-synangiosis after combined revascularization for Moyamoya disease.	Neurosurg Rev. 2024 Dec 31;48(1):15. (オンライン)	Original Article
123	Uchino H, Ito M, Fujima N, et al	脳神経外科	Predictive value of the hemispheric magnetic resonance angiography score on the development of indirect pial synangiosis after combined revascularization surgery for adult moyamoya disease.	Acta Neurochir (Wien). 2024 Apr 17;166(1):181. (オンライン)	Original Article
124	Okonkwo DO, McAllister P, Achrol AS, et al	脳神経外科	Mesenchymal Stromal Cell Implants for Chronic Motor Deficits After Traumatic Brain Injury: Post Hoc Analysis of a Randomized Trial.	Neurology. 2024 Oct 8;103(7):e209797.	Original Article
125	Morishima Y, Kawabori M, Ito YM, et al	脳神経外科	Validity of E-PASS Score for Evaluating Perioperative Minor Complications Associated with Carotid Endarterectomy.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2025 Jan 15;65(1):9-14.	Original Article
126	Uchino H, Osanai T, Ito M, et al	脳神経外科	Effective Smartphone Application Use for Postoperative Management of Moyamoya Disease.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2024 Jul 15;64(7):272-277.	Original Article
127	Oki S, Yamaguchi S, Okamoto M, et al	脳神経外科	Mature teratoma with a germinoma component presenting with undetectable placental alkaline phosphatase in cerebrospinal fluid: illustrative case.	J Neurosurg Case Lessons. 2025 Feb 24(9):CASE24588. (オンライン)	Original Article
128	Kawabori M, Shichinohe H, Kahata K, et al	脳神経外科	Phase I/II trial of intracerebral transplantation of autologous bone marrow stem cells combined with recombinant peptide scaffold for patients with chronic intracerebral haemorrhage: a study protocol.	BMJ Open. 2024 Dec 2;14(12):e083959. (オンライン)	Original Article
129	Kobayashi S, Osanai T, Fujima N, et al	脳神経外科	Optimal Catheter Selection for Patients with Acute Stroke with Type III Aortic Arch Based on Magnetic Resonance Angiography Road Mapping of the Para- Aortic Transfemoral Access Route Before Mechanical Thrombectomy.	World Neurosurg. 2024 Oct;190:e153-e157.	Original Article

130	Oki S, Ishi Y, Sawaya R, et al	脳神経外科	Clinical outcome, radiological findings, and genetic features of IDH-mutant brainstem glioma in adults.	Acta Neurochir (Wien). 2024 Jun 12;166(1):263. (オンライン)	Original Article
131	Oshino T, Enda K, Shimizu H, et al	乳腺外科	Artificial intelligence can extract important features for diagnosing axillary lymph node metastasis in early breast cancer using contrast-enhanced ultrasonography.	Sci Rep. 2025 Feb 15;15(1):5648. (オンライン)	Original Article
132	Oshino T, Shikishima K, Moriya Y, et al	乳腺外科	Significant improvement in paraneoplastic neurological syndromes without identifiable anti-neuronal antibodies in patients with breast cancer after breast surgery.	Int Cancer Conf J. 2024 Apr 13;13(3):275–280. (オンライン)	Original Article
133	Miyamoto M, Nakamura A, Miya A, et al	糖尿病・内分泌内科	Normalization of impaired glucose tolerance after kidney transplantation is associated with improved I2-cell function.	Am J Physiol Endocrinol Metab. 2024 Aug 1;327(2):E194–E202.	Original Article
134	Shigesawa I, Nakamura A, Yamauchi Y, et al	糖尿病・内分泌内科	Effects of glucokinase haploinsufficiency on the pancreatic I2-cell mass and function of long-term high-fat, high-sucrose diet-fed mice.	J Diabetes Investig. 2024 Dec;15(12):1732–1742.	Original Article
135	Takahashi A, Nomoto H, Yokoyama H, et al	糖尿病・内分泌内科	Efficacy of imeglimin treatment versus metformin dose escalation on glycemic control in subjects with type 2 diabetes treated with a dipeptidyl peptidase-4 inhibitor plus low-dose metformin: A multicenter, prospective, randomized, open-label, parallel-group comparison study (MEGMI study).	Diabetes Obes Metab. 2025 Mar;27(3):1466–1476.	Original Article
136	Nomoto H, Furusawa S, Yokoyama H, et al	糖尿病・内分泌内科	Improvement of I2-Cell Function After Switching From DPP-4 Inhibitors to Oral Semaglutide: SWITCH-SEMA2 Post Hoc Analysis.	J Clin Endocrinol Metab. 2025 Feb 18;110(3):e583–e591.	Original Article
137	Furusawa S, Nomoto H, Oba-Yamamoto C, et al	糖尿病・内分泌内科	Real-world clinical evidence of oral semaglutide on metabolic abnormalities in subjects with type 2 diabetes: a multicenter retrospective observational study (the Sapporo-Oral SEMA study).	Endocr J. 2024 Jun 18;71(6):603–616.	Original Article
138	Suzuki Y, Miya A, Nakamura A, et al	糖尿病・内分泌内科	Perception of hyper-/hypoglycemia and its related factors in type 2 diabetes: a continuous glucose monitoring-based prospective observational study.	Diabetol Int. 2025 Feb 7;16(2):385–393. (オンライン)	Original Article
139	Miya A, Nakamura A, Suzuki Y, et al	糖尿病・内分泌内科	Frequency and determinants of lipid management target achievement in primary prevention of cardiovascular disease in type 2 diabetes.	Diabetol Int. 2024 Apr 2;15(3):465–473. (オンライン)	Original Article

140	Oe Y, Nomoto H, Cho KY, et al	糖尿病・内分泌内科	Efficacy and safety of oral semaglutide in older patients with type 2 diabetes: a retrospective observational study (the OTARU-SEMA study).	BMC Endocr Disord. 2024 Jul 24;24(1):124. (オンライン)	Original Article
141	Takahashi A, Nomoto H, Onishi K, et al	糖尿病・内分泌内科	A comparative study of the effects of imeglimin add-on or metformin dose escalation on glycaemic variability in subjects with type 2 diabetes treated with low-dose metformin (MEGMI-CGM study).	Diabetes Obes Metab. 2024 Aug;26(8):3471–3474.	Original Article
142	Nishino H, Murayama M, Iwano H, et al	超音波センター	Validation of Left Ventricular Filling Pressure Evaluation by Order of Tricuspid and Mitral Valve Opening in Patients With Atrial Fibrillation.	Circ Cardiovasc Imaging. 2024 Nov;17(11):e017134.	Original Article
143	Murayama M, Ishizaka S, Sakaguchi K, et al	超音波センター	Role of anatomical regurgitant orifice area of the tricuspid valve measurements in patients with beyond severe tricuspid regurgitation.	J Echocardiogr. 2024 Dec 24.	Original Article
144	Murayama M, Sugimori H, Yoshimura T, et al	超音波センター	Deep learning to assess right ventricular ejection fraction from two-dimensional echocardiograms in precapillary pulmonary hypertension.	Echocardiography. 2024 Apr;41(4):e15812.	Original Article
145	Murayama M, Kaga S, Nishino H, et al	超音波センター	Optimal Cut Plane for Tricuspid Annular Plane Systolic Excursion Measurement.	J Am Soc Echocardiogr. 2025 Jan 14:S0894–7317(25)00035–5.	Original Article
146	Murayama M, Kaga S, Onoda A, et al	超音波センター	Head-to-Head Comparison of Hepatic Vein and Superior Vena Cava Flow Velocity Waveform Analyses for Predicting Elevated Right Atrial Pressure.	Ultrasound Med Biol. 2024 Sep;50(9):1352–1360.	Original Article
147	Kudo Y, Hara K, Murayama M, et al	超音波センター	A Novel Ultrasound Finding for the Diagnosis of Giant A?Cella?Arteritis: Comparison With Temporal Artery A?Biopsy Findings.	J Clin Ultrasound. 2025 Feb;53(2):359–363.	Original Article
148	Sakakibara-Konishi J, Takahashi H, Ito K, et al	地域医療連携福祉センター	Remarkable response to low dose of selpercatinib in a patient with RET-rearranged non-small cell lung cancer.	Respir Med Case Rep. 2025 Jan 29;53:102176. (オンライン)	Case Report
149	Shimamura T, Watanabe M, Koshizuka Y, et al	臓器移植医療部	A case of simultaneous pancreateoduodenectomy and living donor liver transplantation for biliary cancer complicated with congenital biliary dilatation.	Surg Case Rep. 2024 Dec 4;10(1):274. (オンライン)	Original Article

150	Ishikawa S, Hashimoto N, Okubo R, et al	精神科神経科	Assessment of factors associated with antipsychotic-induced weight gain: A nationwide cohort study.	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2025 Jan 10;136:111231.	Original Article
151	Dat NT, Mitsui N, Asakura S, et al	精神科神経科	Enhancing self-esteem and self-compassion to mitigate suicide risk: A feasibility and acceptability study among Japanese university students.	Asian J Psychiatr. 2024 Nov;101:104207.	Original Article
152	Kimura K, Nakamura Y, Yokoyama K, et al	精神科神経科	Exacerbation of Psychogenic Non-epileptic Seizures Related to the Diagnosis and Disease Burden of Epilepsy: A Case Report.	Cureus. 2024 Sep 2;16(9):e68445. (オンライン)	Case Report
153	Ogawa T, Yokota S, Chen L, et al	整形外科	Therapeutic Potential of Targeting Ferroptosis in Periprosthetic Osteolysis Induced by Ultra-High-Molecular-Weight Polyethylene Wear Debris.	Biomedicines. 2025 Jan 13;13(1):170. (オンライン)	Original Article
154	Fukushima A, Ohnishi T, Kokabu T, et al	整形外科	Four-dimensional anatomical spinal reconstruction using pre-bent rods in thoracic adolescent idiopathic scoliosis.	Sci Rep. 2025 Jan 2;15(1):378. (オンライン)	Original Article
155	Yamaguchi J, Homan K, Onodera T, et al	整形外科	Tendon Tissue Regeneration With Cell Orientation Using an Injectable Alginate–Cell Cross-linked Gel.	Am J Sports Med. 2025 May;53(6):1336–1346.	Original Article
156	Hamasaki M, Onodera T, Furukawa J, et al	整形外科	Intra-Articular Administration of Ganglioside Sugars Protects Cartilage from Progressive Degeneration in an Instability OA Rabbit Model.	Cartilage. 2025 Jan 14:19476035241311542.	Original Article
157	Sato D, Han M, Feeley BT, et al	整形外科	Higher Posterior Tibial Slope and Lower Medial Proximal Tibial Angle of the Knee Are Associated With Delayed Graft Maturation After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Surgery With Hamstring Autograft.	Arthroscopy. 2024 Nov 7:S0749-8063(24)00885-5.	Original Article
158	Fujita R, Georgopoulos I, Vlachogiannis P, et al	整形外科	Deep Surgical Site Infection with Epidural Abscess Following Anterior Cervical Discectomy and Fusion: A Case Report and Incidence Analysis in Sweden.	Surg Infect (Larchmt). 2025 Mar 19.	Original Article
159	Fujita R, Suda K, Tanei ZI, et al	整形外科	Bilateral lumbar pedicle fracture in a patient receiving long-term bisphosphonate therapy: a case report with pathological evaluation.	Arch Osteoporos. 2024 Oct 24;19(1):103. (オンライン)	Case Report

160	Ukeba D, Ishikawa Y, Yamada K, et al	整形外科	Bone Marrow Aspirate Concentrate Combined with Ultra-Purified Alginate Bioresorbable Gel Enhances Intervertebral Disc Repair in a Canine Model: A Preclinical Proof-of-Concept Study.	Cells. 2024 Jun 5;13(11):987. (オンライン)	Original Article
161	Ukeba D, Nagahama K, Yamada K, et al	整形外科	Duckbill Release Technique for the Outside-in Method in Full-Endoscopic Spine Surgery via Transforaminal Approach: A Technical Note.	World Neurosurg. 2025 Jan;193:149–154.	Original Article
162	Takahata M, Koike Y, Endo T, et al	整形外科	Adipokine dysregulation as an underlying pathology for diffuse ectopic ossification of spinal posterior longitudinal ligament in patients with obesity.	Spine J. 2025 Jan;25(1):80–90.	Original Article
163	Fujita R, Oda I, Tanaka H, et al	整形外科	Real-world clinical accuracy of long cortical bone trajectory screw placement using a patient-specific template guide.	J Spine Surg. 2024 Sep 23;10(3):468–478.	Original Article
164	Takahata M, Masuda Y, Endo T, et al	整形外科	A patient and public involvement study to explore patient perspectives on the efficacy of treatments for pain and numbness derived from ossification of posterior longitudinal ligament of the spine.	J Orthop Sci. 2025 Mar;30(2):278–286.	Original Article
165	Sato D, Manatrakul R, Ngarmsrikam C, et al	整形外科	The Condition of the Meniscus and Cartilage of the Injured Knee on Preoperative Magnetic Resonance Imaging Is a Prognostic Factor Affecting Postoperative Outcomes Following Knee Cartilage Restoration Surgery.	Arthrosc Sports Med Rehabil. 2024 Jul 14;6(6):100973. (オンライン)	Original Article
166	Endo T, Takahata M, Koike Y, et al	整形外科	Ossification of the posterior longitudinal ligament is linked to heterotopic ossification of the ankle/foot tendons.	J Bone Miner Metab. 2024 Sep;42(5):538–550.	Original Article
167	Yamada K, Sudo H, Iwasaki N	整形外科	Reverse Translational Approach Using Biomaterials and Stem Cells for Intervertebral Disc Degeneration.	JMA J. 2024 Jul 16;7(3):423–425.	Original Article
168	Tokuhiro T, Matsumae G, Endo T, et al	整形外科	Cellular communication network factor 3 contributes to the pathological process of rheumatoid arthritis through promoting cell senescence and osteoclastogenesis in the joint.	J Autoimmun. 2024 Dec;149:103334.	Original Article
169	Kitahara K, Ebata T, Liyile C, et al	整形外科	Chondroprotective functions of neutrophil-derived extracellular vesicles by promoting the production of secreted frizzled-related protein 5 in cartilage.	Cell Commun Signal. 2024 Nov 27;22(1):569. (オンライン)	Original Article

170	Miura S, Koike Y, Endo T, et al	整形外科	Visceral fat obesity predicts ossification of the posterior longitudinal ligament: annual health examination data-based evidence.	Spine J. 2025 Jan 30:S1529-9430(25)00060-9.	Original Article
171	Yokota S, Ishizu H, Miyazaki T, et al	整形外科	Osteoporosis, Osteoarthritis, and Subchondral Insufficiency Fracture: Recent Insights.	Biomedicines. 2024 Apr 11;12(4):843. (オンライン)	Original Article
172	Nishimoto T, Shimizu H, Matsuoka M, et al	整形外科	Intervention for impending pathological fractures at proximal femur is associated with lower mortality rates in patients with intermediate-to-high risk according to the Katagiri-New score.	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Oct 22;25(1):836. (オンライン)	Original Article
173	Sugawara Y, Ishizu H, Arita K, et al	整形外科	Thoracolumbar kyphosis prognoses poor results after proximal femoral fracture: a 3-year multicenter prospective cohort study.	J Bone Miner Metab. 2025 May;43(3):237-248.	Original Article
174	Matsuoka M, Onodera T, Iwasaki K, et al	整形外科	Analysis of foot-originating malignant bone tumors: Epidemiology, characteristics, and survival outcomes.	Foot Ankle Surg. 2024 Dec;30(8):688-693.	Original Article
175	Joutoku Z, Kondo E, Muranaka Y, et al	整形外科	Clinical Outcome of Bicruciate Ligament Reconstruction in Multiple-Ligament Knee Injuries: Comparison With Bicruciate Reconstruction and Collateral Ligament Surgery.	Orthop J Sports Med. 2025 Mar 12;13(3):23259671251319532. (オンライン)	Original Article
176	Homan K, Tokuhiro T, Onodera T, et al	整形外科	Associations between glycan signature alterations and the cellular antigenic properties of passaged chondrocytes.	Front Immunol. 2024 Nov 25;15:1475473. (オンライン)	Original Article
177	Hosokawa Y, Matsuoka M, Sakai Y, et al	整形外科	Depletion of b-series ganglioside prevents limb length discrepancy after growth plate injury.	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Jul 20;25(1):565. (オンライン)	Original Article
178	Ota M, Motomiya M, Watanabe N, et al	整形外科	Clinical outcomes of perforator-based propeller flaps versus free flaps in soft tissue reconstruction for lower leg and foot trauma: a retrospective single-centre comparative study.	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Apr 16;25(1):297. (オンライン)	Original Article
179	Ota M, Motomiya M, Watanabe N, et al	整形外科	Efficacy of superficial femoral artery as a recipient in free flap reconstruction around the knee: Four case reports and a literature review.	JPRAS Open. 2024 Aug 22;42:81-96. (オンライン)	Original Article

180	Konno T, Shimizu T, Inoue M, et al	整形外科	Midterm Results of Severe Hip Dysplasia after Using a Cementless Acetabular Component with Bulk Bone Graft in Total Hip Arthroplasty: A Minimum Five-Year Follow-Up Study.	Bioengineering (Basel). 2024 Aug 19;11(8):841. (オンライン)	Original Article
181	Suzuki Y, Iwasaki K, Joutoku Z, et al	整形外科	High-concentration continuous local antibacterial perfusion therapy: safety and potential efficacy for acute and chronic periprosthetic knee joint infection.	SICOT J. 2024;10:51.	Original Article
182	Kitsuya N, Matsuoka M, Onodera T, et al	整形外科	Surgical Resection of Primary Tumor for Bone Metastatic Breast Cancer Patients at Initial Presentation.	Anticancer Res. 2024 Apr;44(4):1591–1601.	Original Article
183	Kim W, Sakai Y, Matsuoka M, et al	整形外科	CCR7 depletion alleviates bony growth imbalance following phyeal injury in mice.	Sci Rep. 2024 Oct 22;14(1):24891. (オンライン)	Original Article
184	Suzuki H, Kokabu T, Yamada K, et al	整形外科	Deep learning-based detection of lumbar spinal canal stenosis using convolutional neural networks.	Spine J. 2024 Nov;24(11):2086–2101.	Original Article
185	Suzuki Y, Kadoya K, Sotome A, et al	整形外科	CT myelography by intrathecal injection of contrast medium though percutaneous administration route visualizes compressed cervical spinal cord in a mouse.	J Neurosci Methods. 2024 Sep;409:110224.	Original Article
186	Matsuoka M, Onodera T, Iwasaki K, et al	整形外科	Radiation therapy improves survival in elderly patients with localized extremity soft tissue sarcoma.	J Orthop Sci. 2025 May;30(3):529–534.	Original Article
187	Suzuki T, Kadoya K, Endo T, et al	整形外科	GFRI±1 Promotes Axon Regeneration after Peripheral Nerve Injury by Functioning as a Ligand.	Adv Sci (Weinh). 2025 Jan;12(4):e2400812.	Original Article
188	Matsuoka M, Onodera T, Fukuda R, et al	整形外科	Evaluating the Alignment of Artificial Intelligence-Generated Recommendations With Clinical Guidelines Focused on Soft Tissue Tumors.	J Surg Oncol. 2025 Feb;131(2):285–290.	Original Article
189	Kobayashi H, Terkawi MA, Ota M, et al	整形外科	Involvement of Sglec-15 in regulating RAP1/RAC signaling in cytoskeletal remodeling in osteoclasts mediated by macrophage colony-stimulating factor.	Bone Res. 2024 Jun 7;12(1):35. (オンライン)	Original Article

190	Iwasaki N	整形外科	Research promotes advancements in the field of orthopaedic surgery.	J Orthop Sci. 2025 Mar;30(2):258.	Original Article
191	Ota M, Motomiya M, Watanabe N, et al	整形外科	Free Flap Surgery for Elbow Soft Tissue Reconstruction Using the Brachial Artery as Recipient Vessel: Evaluation of MPETS Cases and Comparative Literature Review.	Medicina (Kaunas). 2025 Feb 8;61(2):295. (オンライン)	Original Article
192	Onodera T, Iwasaki K, Matsuoka M, et al	整形外科	The alterations in nerve growth factor concentration in plasma and synovial fluid before and after total knee arthroplasty.	Sci Rep. 2024 Apr 18;14(1):8943. (オンライン)	Original Article
193	Ogawa Y, Shimizu T, Yokota S, et al	整形外科	Does Periacetabular Osteotomy Affect the Load Distribution on the Knee?	Clin Orthop Relat Res. 2025 Mar 5.	Original Article
194	Ota M, Motomiya M, Okada M, et al	整形外科	Regional anaesthesia-based free flap reconstruction for limb salvage in high-risk patients with refractory lower limb infections.	JPRAS Open. 2025 Jan 9;43:406–418. (オンライン)	Original Article
195	Shimizu H, Enda K, Koyano H, et al	整形外科	Diagnosis on Ultrasound Images for Developmental Dysplasia of the Hip with a Deep Learning-Based Model Focusing on Signal Heterogeneity in the Bone Region.	Diagnostics (Basel). 2025 Feb 7;15(4):403. (オンライン)	Original Article
196	Koike Y, Kajino T, Dobashi S, et al	整形外科	Gadolinium-Enhanced 3-Dimensional MRI for Diagnosis and Surgical Planning of Posterior Epidural Migration of Lumbar Disc Fragment: A Case Report.	JBJS Case Connect. 2024 Nov 22;14(4). (オンライン)	Case Report
197	Kaibara T, Yasuda K, Kondo E, et al	整形外科	Quantitative Technique to Precisely Fix the Tibia With a Locking Compression Plate at the Preoperatively Planned Correction Angle While Applying High Compression to the Osteotomy Site in Inverted V-Shaped High Tibial Osteotomy.	Arthros Tech. 2024 Sep 13;14(2):103229. (オンライン)	Original Article
198	Endo T, Kawamura D, Iwasaki N	整形外科	Identifying the entry point for transcapitate intramedullary implant insertion into the third metacarpal in rheumatoid and osteoarthritis.	J Hand Surg Eur Vol. 2025 Feb 8:17531934251317867.	Original Article
199	Kaibara T, Kondo E, Matsuoka M, et al	整形外科	Progressive subchondral bone cyst formation following autologous chondrocyte implantation with all-suture anchors: a Case Report with histological evaluation.	BMC Musculoskelet Disord. 2025 Feb 4;26(1):115. (オンライン)	Case Report

200	Matsuoka M, Onodera T, Iwasaki K, et al	整形外科	Survival outcomes in non-operative cases of localized extremity sarcoma.	Surg Oncol. 2025 Feb;58:102181.	Original Article
201	Hamasaki M, Kondo E, Iwasaki K, et al	整形外科	Stress Distribution Patterns of the Femorotibial Joint After Medial Closing-Wedge Distal Femoral Varus Osteotomy: An Evaluation Using Computed Tomography Osteoabsorptiometry.	Am J Sports Med. 2024 Nov;52(13):3255-3265.	Original Article
202	Shimizu H, Enda K, Koyano H, et al	整形外科	Bimodal machine learning model for unstable hips in infants: integration of radiographic images with automatically-generated clinical measurements.	Sci Rep. 2024 Aug 1;14(1):17826. (オンライン)	Original Article
203	Sugawara Y, Iwasaki K, Suzuki Y, et al	整形外科	Bone Density Distribution Pattern in the Lateral Wall of the Femoral Intercondylar Notch: Implications for the Direct Insertion of the Femoral ACL Attachment.	Orthop J Sports Med. 2024 Apr 1;12(4):23259671241236807. (オンライン)	Original Article
204	Homan K, Onodera T, Matsuoka M, et al	整形外科	Glycosphingolipids in Osteoarthritis and Cartilage-Regeneration Therapy: Mechanisms and Therapeutic Prospects Based on a Narrative Review of the Literature.	Int J Mol Sci. 2024 Apr 30;25(9):4890. (オンライン)	Original Article
205	Suzuki Y, Onodera T, Iwasaki K, et al	整形外科	Higher association of articular surface destruction with rheumatoid forefoot deformity arising from dislocation of the metatarsophalangeal joints in the lateral column.	J Orthop Sci. 2025 May;30(3):542-547.	Original Article
206	Suzuki T, Momma D, Inoue N, et al	整形外科	Effect of the SauvAc-Kapandji method on the wrist contact surface for distal radial ulnar joint disorders.	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Jul 11;25(1):532. (オンライン)	Original Article
207	Fujie Y, Iwasaki K, Hamasaki M, et al	整形外科	Paradoxical Change in Subchondral Bone Density in the Medial Compartment of the Proximal Tibial Articular Surface After High Tibial Osteotomy: A Detailed Subchondral Bone Density Analysis.	Am J Sports Med. 2024 Jul;52(9):2278-2286.	Original Article
208	Hishimura R, Iwasaki K, Suzuki Y, et al	整形外科	Elucidation of the association between additional distal femoral resection and extension angle improvement following the actual surgical steps with the Robot-TKA system.	Knee. 2024 Aug;49:36-44.	Original Article
209	Ohta K, Matsui Y, Kato H, et al	整形外科	Natural Recovery of Very Limited Elbow Flexion After Rare Lateral Humeral Condylar Fracture in a 4-Year-Old Boy: A Case Report.	JBJS Case Connect. 2024 Oct 24;14(4). (オンライン)	Case Report

210	Gao J, Shingu Y, Wakasa S	心臓血管外科	Effects of Trehalose Preconditioning on H9C2 Cell Viability and Autophagy Activation in a Model of Donation after Circulatory Death for Heart Transplantation.	Curr Issues Mol Biol. 2024 Apr 12;46(4):3353–3363. (オンライン)	Original Article
211	Shingu Y, Yokota I, Kato T, et al	心臓血管外科	L-Carnitine: A New Therapeutic Option for the Prevention of Atrial Fibrillation in Non-Cardiac Surgery—A Single-Group Interventional Pilot Study.	J Clin Med. 2024 Oct 18;13(20):6228. (オンライン)	Original Article
212	Wakasa S, Ooka T, Sato T, et al	心臓血管外科	Orthotopic heart transplantation in patient with situs inversus and pectus excavatum: a case report.	Surg Case Rep. 2024 Aug 30;10(1):202. (オンライン)	Original Article
213	Shingu Y, Saito J, Kamiya K, et al	心臓血管外科	Usefulness of the Slope of the Preload Recruitable Stroke Work Relationship for the Prediction of Rehospitalization After Transcatheter Mitral Edge-to-Edge Repair.	Circ J. 2024 Dec 25;89(1):139–144.	Original Article
214	Kuwatani M	消化器内科	Endoscopic treatment for pancreatic fluid collections: Is active intervention always the optimal option?	Dig Endosc. 2025 Apr;37(4):426–427.	Original Article
215	Furukawa R, Kuwatani M, Jiang JJ, et al	消化器内科	GGT1 is a SNP eQTL gene involved in STAT3 activation and associated with the development of Post-ERCP pancreatitis.	Sci Rep. 2024 May 28;14(1):12224. (オンライン)	Original Article
216	Oda S, Kuwatani M, Shiratori S, et al	消化器内科	Panniculitis of the Lower Extremities Caused by Acute Deterioration of Autoimmune Pancreatitis.	J Gastroenterol Hepatol. 2025 May;40(5):1042–1044.	Case Report
217	Yasuura N, Suda G, Ohara M, et al	消化器内科	Letter: Positivity of High-Sensitivity HBsAg Test Was Significantly Associated With Poorer Prognosis in Patients With Non-HBV-Related HCC—Authors' Reply.	Aliment Pharmacol Ther. 2024 Dec;60(11–12):1647–1649.	Letter
218	Yasuura N, Suda G, Ohara M, et al	消化器内科	Positivity of high-sensitivity HBsAg test, not previous HBV infection, indicates poor prognosis in patients with non-HBV-related HCC.	Aliment Pharmacol Ther. 2024 Nov;60(10):1315–1324.	Original Article
219	Yang Z, Suda G, Sho T, et al	消化器内科	Association of proteinuria with improved prognosis in unresectable hepatocellular carcinoma treated with atezolizumab and bevacizumab, and the predictive role of serum vascular endothelial growth factorA?D levels: A multicenter retrospective study.	Hepatol Res. 2025 Mar;55(3):433–443.	Original Article

220	Kohya R, Suda G, Ohara M, et al	消化器内科	Serum FGF21 as a predictor of response to atezolizumab and bevacizumab in HCC.	JHEP Rep. 2025 Feb 19;7(5):101364. (オンライン)	Original Article
221	Sugiura R, Kuwatani M, Kawakubo K, et al	消化器内科	Preoperative risk factors for skeletal muscle mass loss in patients with biliary tract cancer.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Aug;31(8):549–558.	Original Article
222	Sugiura R, Kawamoto Y, Kuwatani M, et al	消化器内科	Subcutaneous adipose tissue radiodensity as a predictor of poor prognosis in advanced biliary tract cancer.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2025 Mar;32(3):194–202.	Original Article
223	Sho T, Suda G, Ohara M, et al	消化器内科	Efficacy and Safety of Durvalumab/Tremelimumab in Unresectable Hepatocellular Carcinoma as Immune Checkpoint Inhibitor Rechallenge Following Atezolizumab/Bevacizumab Treatment.	Target Oncol. 2024 Sep;19(5):769–778.	Original Article
224	Sugiura R, Kuwatani M, Kin T, et al	消化器内科	Risk factors for recurrent biliary obstruction following endoscopic biliary stenting in patients with unresectable ampullary cancer: A multicenter retrospective study.	J Dig Dis. 2024 May;25(5):310–317.	Original Article
225	Itagaki Y, Sato N, Ohmine R, et al	消化器外科Ⅱ	Transabdominal impalement injury by an iron pipe – A case report.	Trauma Case Rep. 2024 Apr 3;51:101010. (オンライン)	Case Report
226	Fujii M, Nakamura T, Okumura Y, et al	消化器外科Ⅱ	Projection of future demand for non-cancerous gastrointestinal surgery in Japan: challenges and workforce planning in an aging society.	Surg Today. 2025 Mar 20.	Original Article
227	Kuwabara S, Takeuchi Y, Sato O, et al	消化器外科Ⅱ	Prognostic value of combined psoas muscle mass and controlling nutritional status in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma: a retrospective cohort study.	BMC Surg. 2024 Apr 20;24(1):116. (オンライン)	Original Article
228	Noji T, Takeuchi S, Wada M, et al	消化器外科Ⅱ	Short- and Long-term Surgical Results of Extended Surgery for Widespread Gallbladder Carcinoma.	In Vivo. 2025 Mar–Apr;39(2):1022–1032.	Original Article
229	Tanaka K, Takeuchi S, Wada M, et al	消化器外科Ⅱ	Postoperative Cholangitis After Biliary Reconstruction: Risk Factors, Timing of Occurrence, and Validity of Tokyo Guidelines.	World J Surg. 2025 May;49(5):1306–1316.	Original Article

230	Wada H, Ebihara Y, Takano H, et al	消化器外科 II	Feasibility of Detecting Fluorescent Marking Clip with Novel Fluorescence Detection System in Minimally Invasive Stomach and Esophageal Surgery.	J Clin Med. 2025 Jan 23;14(3):717. (オンライン)	Original Article
231	Naito Z, Wada M, Shichinohe T, et al	消化器外科 II	Internal Hernia Beneath the Obturator Nerve After Robot-Assisted Radical Cystectomy and Pelvic Lymphadenectomy: A Case Report With Literature Review.	Asian J Endosc Surg. 2025 Jan-Dec;18(1):e70030.	Case Report
232	Aoki Y, Wang L, Tsuda M, et al	消化器外科 II	Hydrogel PCDME creates pancreatic cancer stem cells in OXPHOS metabolic state with TXNIP elevation.	Biochem Biophys Res Commun. 2025 Mar 5;751:151416.	Original Article
233	Hane Y, Tsuchikawa T, Nakamura T, et al	消化器外科 II	Survivin as a Therapeutic Target for Neuroendocrine Neoplasms.	Neuroendocrinology. 2025;115(3-4):295-307.	Original Article
234	Kiriyama K, Kurashima Y, Poudel S, et al	消化器外科 II	Enhancing surgical skills through telesimulation: A multicenter randomized controlled trial on laparoscopic inguinal hernia repair.	Surgery. 2025 Apr;180:109136.	Original Article
235	Niwa H, Nakamura T, Kushiya H, et al	消化器外科 II	Therapeutic activity of retroviral replicating vector-mediated gene therapy in combination with anti-PD-1 antibody in a murine pancreatic cancer model.	Cancer Gene Ther. 2024 Sep;31(9):1390-1401.	Original Article
236	Shirosaki T, Kawai N, Ebihara Y, et al	消化器外科 II	Aldehyde Dehydrogenase-1 High Cancer Stem-like Cells/Cancer-initiating Cells Escape from Cytotoxic T Lymphocytes due to Lower Expression of Human Leukocyte Antigen Class 1.	Anticancer Res. 2024 May;44(5):1877-1883.	Original Article
237	Ebihara Y, Hirano S, Shichinohe T, et al	消化器外科 II	Tele-robot-assisted minimally invasive esophagectomy using a double-surgeon cockpit on a cadaver.	Surg Today. 2025 Jan 6.	Original Article
238	Toji Y, Takeuchi S, Ebihara Y, et al	消化器外科 II	Perioperative chemotherapy with nivolumab for HER2-negative locally advanced gastric cancer: a case series.	Surg Case Rep. 2024 Aug 28;10(1):200. (オンライン)	Original Article
239	Ebihara Y, Kurashima Y, Shichinohe T, et al	消化器外科 II	Robotic spleen-preserving suprapancreatic and splenic hilar lymph node dissection using the preemptive retropancreatic approach in total gastrectomy for gastric cancer.	Updates Surg. 2024 Oct;76(6):2483-2487.	Original Article

240	Poudel S, Kurashima Y, Kapsampelis P, et al	消化器外科 II	What do surgical trainees and educators around the world need: a global needs assessment survey from 6 regions around the world	GLOB SURG EDUC.2024 DEC;4(1):13	Original Article
241	Fukuda J, Kosuge S, Satoh Y, Sekiya S, Yamamura R, Ooshio T, Hirata T, Sato R, Hatanaka KC, Mitsuhashi T, Nakamura T, Matsuno Y, Hatanaka Y, Hirano S, Sonoshita M	消化器外科 II	Concurrent targeting of GSK3 and MEK as a therapeutic strategy to treat pancreatic ductal adenocarcinoma.	Cancer Sci. 2024 Apr;115(4):1333–1345.	Original Article
242	Fukuda J, Shibata A, Ohashi R, Hane Y, Saito T, Nishigami K, Senmaru N, Fujita M, Hirano S	消化器外科 II	Laparoscopic Gastrectomy for Heterotopic Pancreas with Concurrent Gastroduodenal Invagination and Gastric Wall Abscess: A Case Report.	Surg Case Rep. 2025 Apr;11(1):25–0018.	Case report
243	Naito Z, Noji T, Tanaka K, Nakanishi Y, Nakajima M, Mitsuhashi T, Hirano S	消化器外科 II	Collision Tumor of Gallbladder Carcinosarcoma and Intrahepatic Cholangiocarcinoma: A Rare Case Report.	Surg Case Rep. 2025 May;11(1):24–0160.	Case report
244	Murakami S, Shichinohe T, Kurashima Y, Okada K, Tsunetoshi Y, Iizuka R, Ishii W, Kandori K, Irabu S, Shinya N, Homma H, Watanabe M, Hirano S	消化器外科 II	Validation of cadaver-based trauma surgery training for lifelong skill development.	World J Emerg Surg. 2025 May;20(1):45.	Original Article
245	Hirose K, Poudel S, Murakami S, Kurashima Y, Sato N, Tojima H, Yokota I, Okada K, Shichinohe T, Hirano S	消化器外科 II	How confident are the general surgeons in Hokkaido region in performing essential trauma skills: a cross-sectional questionnaire survey.	World J Emerg Surg. 2025 Jun;20(1):49.	Original Article
246	Itagaki Y, Takeuchi S, Noji T, Ebihara Y, Wada M, Tanaka K, Matsui A, Nakanishi Y, Asano T, Nakamura T, Hirano S	消化器外科 II	Middle Pancreatectomy for Traumatic Main Pancreatic Duct Injury with Delayed Presentation: Two Case Series.	Surg Case Rep. 2025 Jun;11(1):25–0094.	Case report
247	Ishido K, Nakashima M, Poudel S, Naito Z, Motoyoshi A, Sano K, Hirano S	消化器外科 II	Implementation of the GLIM (Global Leadership Initiative on Malnutrition) Criteria in Gastrointestinal Oncology: A Narrative Review of Systemic Impact and the Role of Dietitians.	Cureus. 2025 Jun;17(6):e86826.	Original Article
248	Umemoto K, Nakamura T, Sasaki K, Sato O, Suzuki T, Hirano S	消化器外科 II	Platelets and MMP-9 contribute to esophageal cancer invasion via CD40-CD154 interactions.	Oncol Rep. 2025 Jul;54(1):79 .	Original Article
249	Ishido K, Kiriyama K, Poudel S, Hiradate M, Kono Y, Kurashima Y, Hirano S	消化器外科 II	Differences in Preoperative Preparation Between Novice Surgeons and Experts: A Scoping Review.	J Surg Educ. 2025 Jul;82(7):103540.	Original Article

250	Ishido K, Poudel S, Hirano S	消化器外科 II	Cultural and Organizational Resistance to Surgical Education Reform: A Narrative Review.	J Surg Educ. 2025 Sep;82(9):103587.	Original Article
251	Poudel S, Ikeda Y, Tazaki T, Susumu S, Nitta T, Yoshioka S, Wakasugi M, Matsumura M, Ohnishi T, Yamamoto K, Hirano S	消化器外科 II	Patient-reported short-term results of laparoscopic groin hernia repair: A multicenter prospective observational study from Japan.	Int J Abdom Wall Hernia Surg. 2025 Jan-Mar;8(1):13-20.	Original Article
252	Furukawa S, Kato K, Susa Y, Yamabuki T, Takada M, Kinoshita Y, Anbo Y, Nakamura F, Hirano S	消化器外科 II	Is Exploratory Laparoscopy the Optimal Surgical Strategy for Small Bowel Obstruction? A Single-Center Retrospective Cohort Study With Propensity Score-Matched Analysis.	Asian J Endosc Surg. 2025 Jan-Dec;18(1):e70056.	Original Article
253	Umemoto K, Sato S, Yamamoto H, Takada M, Ambo Y, Hirano S	消化器外科 II	Enhanced Pancreatic Transection in Minimally Invasive Distal Pancreatectomy: The Synergy of Slow-Firing and Staple Line Suturing.	Asian J Endosc Surg. 2025 Jan-Dec;18(1):e70084.	Original Article
254	Ebinuma S, Nagano H, Itoshima H, et al	消化器外科 I	A retrospective comparative study of percutaneous transhepatic gallbladder drainage versus endoscopic gallbladder stenting on the clinical course of acute cholecystitis: A propensity score matching analysis using a nationwide inpatient database in Japan.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2025 Mar;32(3):203-211.	Original Article
255	Kobayashi N, Suzuki S, Sakamoto Y, et al	消化器外科 I	NEDD4-binding protein 1 suppresses hepatitis B virus replication by regulating viral RNAs.	J Gen Virol. 2025 Mar;106(3).	Original Article
256	Sakata T, Yoshio S, Yamazoe T, et al	消化器外科 I	Immunoglobulin-like transcript 2 as an impaired anti-tumor cytotoxicity marker of natural killer cells in patients with hepatocellular carcinoma.	Front Immunol. 2024 Apr 4;15:1389411. (オンライン)	Original Article
257	Orimo T, Hirakawa S, Taketomi A, et al	消化器外科 I	Risk model for morbidity and mortality following liver surgery based on a national Japanese database.	Ann Gastroenterol Surg. 2024 Apr 16;8(5):896-916. (オンライン)	Original Article
258	Ebinuma S, Kunisawa S, Fushimi K, et al	消化器外科 I	Comparative retrospective study on surgical outcomes of hand-sewn anastomosis versus stapling anastomosis for colectomy using a nationwide inpatient database in Japan with propensity score matching.	Ann Gastroenterol Surg. 2024 Oct 11;9(2):379-388. (オンライン)	Original Article
259	Wakizaka K, Shichi S, Aiyama T, et al	消化器外科 I	Risk Factors and Management of Portal Vein Thrombosis after Hepatectomy: A Single-Center Experience.	Ann Surg Open. 2024 Nov 12;5(4):e523. (オンライン)	Original Article

260	Nakamoto H, Shichi S, Shirakawa C, et al	消化器外科 I	Diacylglycerol kinase alpha regulates post-hepatectomy liver regeneration.	Sci Rep. 2025 Jan 2;15(1):555. (オンライン)	Original Article
261	Ebinuma S, Imanaka Y	消化器外科 I	Reply to the Letter to the Editor.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2025 Mar 18.	Letter
262	Shichi S, Sugiyama K, Asahi Y, et al	消化器外科 I	Diacylglycerol kinase alpha is a proliferation marker of intrahepatic cholangiocarcinoma associated with the prognosis.	Cancer Med. 2024 May;13(9):e7238.	Original Article
263	Hosokawa Y, Fujiyoshi S, Imaizumi K, et al	消化器外科 I	Appendiceal goblet cell adenocarcinoma with perineural invasion extending into the ileocecal lesion.	Surg Case Rep. 2024 Aug 7;10(1):183. (オンライン)	Original Article
264	Asahi Y, Kakisaka T, Kamiyama T, et al	消化器外科 I	Improved survival outcome of curative liver resection for Barcelona Clinic Liver Cancer stage C hepatocellular carcinoma in the era of tyrosine kinase inhibitors.	Hepatol Res. 2024 Jul 26.	Original Article
265	Asahi Y, Xu C, Okuno K, et al	消化器外科 I	The anticancer effects of Aronia berry extract are mediated by Chk1 and p53 in colorectal cancer.	Phytomedicine. 2024 Dec;135:156086.	Original Article
266	Ota T, Goto R, Harada T, et al	消化器外科 I	TCF1highPD-1+Ly108+CD8+ T Cells Are Associated with Graft Preservation in Sensitized Mice Treated with Non-Fc Receptor-Binding CD3 Antibodies.	Immunohorizons. 2024 Apr 1;8(4):295–306.	Original Article
267	Goto R, Shimamura T, Nakajima T, et al	消化器外科 I	Potential indications for liver transplant in Child-Pugh A and Model for End-stage Liver Disease exception for hepatocellular carcinoma in Japan.	Hepatol Res. 2025 Mar 3.	Original Article
268	Kanazawa R, Goto R, Harada T, et al	消化器外科 I	Early graft-infiltrating lymphocytes are not associated with graft rejection in a mouse model of skin transplantation.	Scand J Immunol. 2024 Oct;100(4):e13397.	Original Article
269	Fukai M, Shibata K, Sakamoto S, et al	消化器外科 I	Role of Heavy Water in Modified University of Wisconsin Solution for Extended Cold Storage of Rat Liver.	Transplant Proc. 2024 Oct;56(8):1890–1895.	Original Article

270	Forgioni A, Watanabe M, Goto R, et al	消化器外科 I	Anti-Inflammatory Effects of Ex Vivo-Generated Donor Antigen-Specific Immunomodulatory Cells on Pancreatic Islet Transplantation.	Cell Transplant. 2025 Jan-Dec;34:9636897251317887	Original Article
271	Honda S, Kawakita I, Okumura K, et al	消化器外科 I	Unusual rapid development of portopulmonary hypertension after shunt closure for congenital portosystemic shunt.	J Paediatr Child Health. 2024 Oct;60(10):606–609.	Case Report
272	Sawai S, Oda Y, Saito Y, et al	小児科	Analysis of synthetic polymer hydrogel-based generation of leukemia stem cells.	Biochem Biophys Res Commun. 2025 Jan;744:151149.	Original Article
273	Maruo Y, Shiraishi M, Hibino M, et al	小児科	Activation of Mitochondria in Mesenchymal Stem Cells by Mitochondrial Delivery of Coenzyme Q(10).	Biol Pharm Bull. 2024;47(8):1415–1421.	Original Article
274	Morikawa S, Ko HL, Ren EC, et al	小児科	Functional Analysis of a Novel HNF4A Variant Identified in a Patient With MODY1.	J Endocr Soc. 2024 May 7;8(6):bvae090. (オンライン)	Original Article
275	Hishimura N, Kaneko N, Nakamura A, et al	小児科	Skin Reaction to Leuprorelin Acetate.	JCEM Case Rep. 2025 Jan 23;3(2):luae220. (オンライン)	Case Report
276	Kobayashi S, Saijo Y, Itoh M, et al	小児科	Effects of the Maternal Work Environment on Psychological Distress During Pregnancy: A Cross-sectional Research-The Japan Environment and Children's Study.	J Occup Environ Med. 2025 Feb 1;67(2):89–99.	Original Article
277	Izumi G, Shida S, Kobayashi N, et al	小児科	Initial Holter Electrocardiogram Index to Predict the Burden of Subsequent Persistent Premature Ventricular Complex in Childhood.	Circ J. 2025 Jan 24;89(2):234–239.	Original Article
278	Terashita Y, Iguchi A, Sugiyama M, et al	小児科	Serum 5-S-cysteinyldopa as a predictive biomarker for stem cell transplantation-related complications in children and young adults.	Blood Cell Ther. 2024 Sep 13;7(4):111–117. (オンライン)	Original Article
279	Nakayama K, Kaneko N, Hishimura N, et al	小児科	Adiposity rebound and body mass index in Japanese patients with congenital hypothyroidism.	Clin Pediatr Endocrinol. 2025 Apr;34(2):121–130.	Original Article

280	Ueki M, Hirabayashi S, Honda Y, et al	小児科	Increased response to granulocyte-macrophage colony-stimulating factor in peripheral blood cells and transient manifestations mimicking juvenile myelomonocytic leukemia in a male patient with NEMO deficiency caused by a deep intronic pathogenic variant of IKBKG.	Immunol Med. 2025 Mar;48(1):94-101.	Case Report
281	Chida-Nagai A, Sato H, Yamazawa H, et al	小児科	Impact of the COVID-19 pandemic on pediatric out-of-hospital cardiac arrest outcomes in Japan.	Sci Rep. 2024 May 16;14(1):11246. (オンライン)	Original Article
282	Hiramatsu Y, Takahashi K, Shimomura M, et al	小児科	Hypothermia, bradycardia, and hypotension during glucocorticoid or cyclosporine A therapy in a boy with Kikuchi-Fujimoto disease.	Mod Rheumatol Case Rep. 2024 Jul 8;8(2):352-356.	Case Report
283	Abe J, Nasu T, Noro A, et al	小児科	An unusual case of severe asphyxia with the fetal position unexpectedly inverted in a malformed uterus: a case report.	J Med Case Rep. 2024 Apr 26;18(1):209. (オンライン)	Case Report
284	Chida-Nagai A, Akagawa H, Sawai S, et al	小児科	Identification of Prostaglandin I(2) Synthase Rare Variants in Patients With Williams Syndrome and Severe Peripheral Pulmonary Stenosis.	J Am Heart Assoc. 2024 May 7;13(9):e032872.	Original Article
285	Kobayashi S, Saijo Y, Iwata H, et al	小児科	Association Between the Occupation of Pregnant Women's Partners and Risks of Infant Low Birth Weight and Preterm Birth in a Prospective Birth Cohort: The Japan Environment and Children's Study.	J Occup Environ Med. 2025 Mar 1;67(3):161-170.	Original Article
286	Takagi K, Nakamura K, Yoshimura Y, et al	小児・障がい者歯科	Promoting Dentin Bridge Formation Through N-Acetyl-L-Cysteine Application in Rat Molar Pulpotomy: An Experimental Study.	J Funct Biomater. 2025 Mar 27;16(4):117. (オンライン)	Original Article
287	Anzai T	循環器内科	The Circulation Journal Official Impact Factor and the Most Frequently Cited Papers in 2023.	Circ J. 2024 Aug 23;88(9):1350-1353.	Original Article
288	Tamura T, Tsuneta S, Nagai T	循環器内科	Cardiac sarcoidosis with multiple intracardiac masses diagnosed by rectus femoris biopsy.	Eur Heart J. 2025 Feb 14;46(7):667.	Original Article
289	Takenaka S, Sato T, Nagai T, et al	循環器内科	Clinical Utility of Near-Infrared Spectroscopy Intravascular Ultrasound in the Assessment of Rapidly Progressive Cardiac Allograft Vasculopathy.	Circ J. 2025 Jan 24;89(2):255.	Original Article

290	Kadosaka T, Watanabe M, Nakao M, et al	循環器内科	Normalization of increasing shocking coil impedance with full output synchronized shock.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2024 Nov;35(11):2251–2253.	Case Report
291	Hagiwara H, Nagai N, Otsubo K, et al	循環器内科	Real-World Long-Term Effectiveness of Implantable Cardioverter-Defibrillators in Elderly Patients.	Circ Rep. 2024 Dec 11;7(1):15–24. (オンライン)	Original Article
292	Watanabe M, Nanbu T, Ishidoya Y, et al	循環器内科	Inappropriate Shocks in Brugada Syndrome Patients With a Subcutaneous Implantable Cardioverter Defibrillator.	Pacing Clin Electrophysiol. 2025 Feb;48(2):160–168.	Original Article
293	Hagiwara H, Katano R, Komoriyama H, et al	循環器内科	A case of persistent left superior vena cava and coronary sinus ostium in the lateral right atrium.	HeartRhythm Case Rep. 2024 Sep 25;10(12):963–966. (オンライン)	Case Report
294	Tada A, Nagai T, Anzai T	循環器内科	Is growth differentiation factor-15 a useful biomarker for chronic heart failure across body size?	Int J Cardiol. 2024 Sep 1;410:132204.	Original Article
295	Kobayashi Y, Nagai T, Kamiya K, et al	循環器内科	Chronic Active Myocarditis After Transapical Transcatheter Aortic Valve Implantation.	Circ J. 2024 May 24;88(6):1008.	Case Report
296	Konishi T, Takenaka S, Nagai T, et al	循環器内科	Venous Thromboembolism with Double Left Common Iliac Veins.	Intern Med. 2025 Mar 8.	Original Article
297	Anzai T	循環器内科	Message From the Editor-in-Chief.	Circ J. 2024 Aug 23;88(9):1349.	Original Article
298	Hagiwara H, Komoriyama H, Kato Y, et al	循環器内科	An adult case of Bland-White-Garland syndrome with Vieussens' arterial ring.	Eur Heart J Case Rep. 2024 Sep 2;8(9):ytae468. (オンライン)	Case Report
299	Kobayashi Y, Enta Y, Nakashima M, et al	循環器内科	Balloon-assisted bioprosthetic or native aortic scallop intentional laceration to prevent iatrogenic coronary artery obstruction with en face view for patients exhibiting severe calcified leaflet: a case report.	Eur Heart J Case Rep. 2024 Dec 6;8(12):ytae643. (オンライン)	Case Report

300	Konishi T, Kawakami R, Vozenilek AE, et al	循環器内科	Mechanisms of Medial Wall Thinning in Chronic Total Occlusion.	JACC Cardiovasc Interv. 2024 Jul 22;17(14):1719– 1728.	Original Article
301	Mori Y, Takenaka S, Nagai T, et al	循環器内科	Impact of snowfall on emergency medical system and mortality in patients with acute coronary syndrome.	Sci Rep. 2025 Mar 1;15(1):7262. (オンライン)	Original Article
302	Nakao M, Nagai T, Anzai T	循環器内科	Iron supplementation is a residual piece of management in Asian patients with heart failure?	Int J Cardiol. 2024 Jul 1;406:132014.	Original Article
303	Tatsuta D, Sato T, Nagai T, et al	循環器内科	Validity and reliability of the palliative care needs assessment tool in Japanese patients with heart failure.	ESC Heart Fail. 2024 Oct;11(5):2967–2976.	Original Article
304	Koya T, Nagai T, Tada A, et al	循環器内科	Differential impacts of self-care behavior on clinical outcomes in patients with and without recent heart failure hospitalization.	Int J Cardiol. 2024 Nov 15;415:132452.	Original Article
305	Nakao M, Nagai T, Tada A, et al	循環器内科	Prognostic Value of Reticulocyte Production Ability in Patients With Chronic Heart Failure.	Can J Cardiol. 2025 Feb 7:S0828–282X(25)00111– 4.	Original Article
306	Konishi T, Funayama N, Hotta D, et al	循環器内科	Acute eosinophilic myocarditis mimicking inferior myocardial infarction presenting with delayed hypereosinophilia.	Cardiol J. 2024;31(2):361– 362.	Case Report
307	Aoyagi H, Iwano H, Tamaki Y, et al	循環器内科	Non-invasive assessment of left ventricular filling pressure in aortic stenosis.	Echocardiography. 2024 Apr;41(4):e15808.	Original Article
308	Nishino K, Temma T, Natsui H, et al	循環器内科	Serum Vasoactive Intestinal Peptide as a Novel Biomarker for Low-Voltage Areas in Patients With Atrial Fibrillation.	J Am Heart Assoc. 2025 Apr;14(7):e039192.	Original Article
309	Yokota T, Kinugawa S, Fukushima A, et al	循環器内科	Efficacy and safety of the urate-lowering agent febuxostat in chronic heart failure patients with hyperuricemia: results from the LEAF-CHF study.	Heart Vessels. 2025 Feb;40(2):111–122.	Original Article

310	Noguchi T, Ariga S, Moku R, et al	腫瘍内科	Actionable Gene Alterations Identified in Patients With Malignant Melanoma by Targeted Sequencing in Japan.	JCO Precis Oncol. 2025 Jan;9:e2400437.	Original Article
311	Kawamoto Y, Morizane C, Komatsu Y, et al	腫瘍センター	Phase II trial of niraparib for BRCA-mutated biliary tract, pancreatic and other gastrointestinal cancers: NIR-B.	Future Oncol. 2024;20(26):1901–1907.	Original Article
312	Komatsu Y, Muro K, Chosa M, et al	腫瘍センター	Large-scale, prospective observational study of regorafenib in Japanese patients with advanced gastrointestinal stromal tumors in a real-world clinical setting.	Front Oncol. 2024 Jun 17;14:1412144. (オンライン)	Original Article
313	Suzuki M, Watanabe R, Nakazono A, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Can high-fidelity 3D models be a good alternative for cadaveric materials in skill assessment for endoscopic sinus surgery? A comparison study in assessment for surgical performance in 3D models and cadavers.	Front Med (Lausanne). 2024 Oct 17;11:1301511. (オンライン)	Original Article
314	Nakazono A, Motegi H, Suzuki M, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Clinical outcomes for olfactory neuroblastoma.	Front Oncol. 2024 May 2;14:1329572. (オンライン)	Original Article
315	Morita S, Nakamaru Y, Fukuda A, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Neutrophil Extracellular Trap Formation and Deoxyribonuclease I Activity in Patients with Otitis Media with Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis.	Int Arch Allergy Immunol. 2024;185(8):810–819.	Original Article
316	Fukuda A, Hoshino K, Morita S, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	A Case of Cochlear Implantation in a Deaf Patient With Eosinophilic Otitis Media in Whom Post-implantation Hearing Threshold Improved After Introduction of Dupilumab.	Cureus. 2024 Jul 21;16(7):e65059. (オンライン)	Case Report
317	Nakamaru Y, Suzuki M, Shizuki K, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Long-term results of nasolacrimal duct and inferior turbinate swing technique for inverted papilloma of the maxillary sinus.	SAGE Open Med. 2024 Aug 20;12:20503121241271877. (オンライン)	Original Article
318	Kano S, Suzuki T, Yoshida D, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Improved local control and survival outcomes with RADPLAT in T4 oropharyngeal cancer: a retrospective study.	Int J Clin Oncol. 2025 Mar 27.	Original Article
319	Fukuda A, Morita S, Hoshino K, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Validity of endoscopic ossiculoplasty immediately after its introduction for ossicular chain disruption.	BMC Surg. 2024 May 14;24(1):149. (オンライン)	Original Article

320	Fujiwara K, Morita S, Motegi H, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Post-operative vestibular function outcomes evaluated by video Head Impulse Test in patients with non-vestibular schwannoma cerebellopontine angle tumors.	Auris Nasus Larynx. 2025 Feb;52(1):50-58.	Original Article
321	Suzuki T, Kano S, Suzuki M, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	SlicerPIT: software development and implementation for planning and image-guided therapy in photoimmunotherapy.	Int J Clin Oncol. 2024 Jun;29(6):735-743.	Original Article
322	Fujiwara K, Morita S, Hoshino K, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Evaluation of Semicircular Canal Function Using Video Head Impulse Test in Patients With Peripheral Vestibular Disorders Without Nystagmus.	Cureus. 2024 Jun 20;16(6):e62786. (オンライン)	Original Article
323	Hoshino K, Fujiwara K, Morita S, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Evaluation of Semicircular Canal Function in Relapsing Polychondritis Patients With Dizziness and Sensorineural Hearing Loss Using Video Head Impulse Test.	Otol Neurotol. 2024 Oct 1;45(9):1045-1050.	Case Report
324	Homma A, Ando M, Hanai N, Harada H, Honma Y, Kanda T, Kano S, Kawakita D, Kiyota N, Kizawa Y, Nakagawa M, Ogawa T, Shinomiya H, Shinozaki T, Suzuki M, Tsuji T, Yasuda K, Zenda S, Kodaira T, Kirita T, Nibu KI	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Summary of Japanese clinical practice guidelines for head and neck cancer - 2022 update edited by the Japan society for head and neck cancer	Auris Nasus Larynx. 51(1): 174-188, 2024	Review
325	Homma A, Mikami M, Matsuura K, Onimaru R, Yoshida D, Shinomiya H, Ohkoshi A, Hayashi R, Saito Y, Tachibana H, Shiga K, Ueda T, Uemura H, Nakamura K, Fukuda H; Head and Neck Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG-HNCSG).Dose-Finding and Efficacy Confirmation Trial of the Superselective Intra-arterial Infusion of Cisplatin and Concomitant Radiation Therapy for Locally Advanced Maxillary Sinus Cancer (JCOG1212)	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Results of the Efficacy Confirmation Phase in Patients with T4aN0M0	Int J Radiat Oncol Biol Phys. 118(5): 1271-1281.2024.	Original Article
326	Fujiwara K, Morita S, Fukuda A, Hoshino K, Kobayashi M, Nakamaru Y, Furuta Y, Honma A	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Evaluation of quality of life for patients with resolved facial nerve palsy	Auris Nasus Larynx. 51(3): 456-459, 2024	Original Article
327	Fujiwara K, Morita S, Motegi H, Yamaguchi S, Ishi Y, Hoshino K, Fukuda A, Kobayashi M, Nakamaru Y, Fujimura M, Honma A	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Pre- and post-operative semicircular canal function evaluated by video Head Impulse Test in patients with vestibular schwannoma	Auris Nasus Larynx. 51(3): 542-547, 2024	Original Article

328	Tsushima N, Kano S, Hatanaka KC, Suzuki T, Hamada S, Idogawa H, Nakamaru Y, Suzuki M, Hatanaka Y, Homma A	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Targeted next-generation sequencing of Japanese patients with sinonasal mucosal melanomas identifies frequent NRAS and CTNNB1 mutations	Auris Nasus Larynx. 51(2): 313-319, 2024	Original Article
329	Honma A, Nohara M, Honma S, Homma A	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	The association between irregularity in sleep-wake rhythm and CPAP adherence	npj Biological Timing and Sleep. 1, Article number: 2 (2024): 1-8, 2024	Original Article
330	Nitta Y, Kamimura Y, Shiroshita A, et al	歯科麻酔科	Concomitant Use of Intravenous Remimazolam With Inhalation Anesthesia and Subsequent Emergence Delirium in Children: A Systematic Review and Meta-Analysis.	Cureus. 2025 Mar 4;17(3):e80044. (オンライン)	Original Article
331	Ishikawa E, Fujisawa T, Kimura Y, et al	歯科麻酔科	Effect of aromatherapy with peppermint, ginger, and lavender on postoperative nausea severity after oral surgery under general anaesthesia: A single-blind randomized controlled trial.	Complement Ther Med. 2025 Jun;90:103169.	Original Article
332	Nitta Y, Sanuki T, Sugino S, et al	歯科麻酔科	The impact of preoperative psychiatric intervention for postoperative delirium after major oral and maxillofacial surgery with free flap reconstruction.	J Stomatol Oral Maxillofac Surg. 2025 Feb;126(1):102026.	Original Article
333	Suzuka M, Jin S, Takeuchi A, et al	歯科放射線科	Influence of blood thiosulfate produced by postmortem changes for the diagnosis of hydrogen sulfide poisoning in forensic autopsy.	Asian Biomed (Res Rev News). 2024 Dec 16;18(6):281-286. (オンライン)	Original Article
334	Yamamoto R, Asano H, Tamaki R, et al	産科	Dynamics and Half-Life of Cell-Free DNA After Exercise: Insights from a Fragment Size-Specific Measurement Approach.	Diagnostics (Basel). 2025 Jan 4;15(1):109. (オンライン)	Original Article
335	Morikawa M, Matsunaga S, Makino S, et al	産科	Fresh frozen plasma, fibrinogen concentrate, and antithrombin concentrate administration for obstetrical disseminated intravascular coagulation by the Japanese previous and new criteria.	J Obstet Gynaecol Res. 2025 Feb;51(2):e16220.	Original Article
336	Dong P, Xiong Y, Yu J, et al	産科	Editorial Expression of Concern: Control of PD-L1 expression by miR-140/142/340/383 and oncogenic activation of the OCT4-miR-18a pathway in cervical cancer.	Oncogene. 2025 Mar;44(7):480.	Original Article
337	Konno Y, Mayama M, Takehara K, et al	産科	Prognostic significance of para-aortic node metastasis in endometrial cancer: Japanese Gynecologic Oncology Group Study JGOG2043 post hoc analysis.	J Gynecol Oncol. 2025 Jan 29.	Original Article

338	Konno Y, Mayama M, Takehara K, et al	産科	Prognostic impact of the number of resected pelvic nodes in endometrial cancer: Japanese Gynecologic Oncology Group Study JGOG2043 post hoc analysis.	J Gynecol Oncol. 2025 Jan;36(1):e3.	Original Article
339	Naoya Kinota , Daisuke Abo , Ryo Morita , Koji Yamasaki , Takaaki Fujii , Daisuke Kato , Tasuku Kimura , Yusuke Sakuhara , Kazufumi Okada , Isao Yokota , Tatsuya Orimo , Tatsuhiro Kakisaka , Toru Nakamura , Satoshi Hirano , Kazuyuki Minowa , Kohsuke Kudo	札幌医科大学 放射線診断科 / 国立病院機構 北海道医療センター 放射線診断科 / 斗南病院 放射線診断科 / 北海道大学病院 医療イノベー ション推進室データサイエンスセンター / 北海道大学大 学院医学研究科 消化器外科第一講座 / 北海 道大学大学院医学研究科 消化器外科第二講 座 / 北海道大学大学院歯学研究院 放射線學 教室 / 北海道大学大学院医学研究科 画像診 断学分野 / 北海道大学医学研究院 生命医理 工学グローバルセンター	Improvement of Hypoalbuminemia and Hepatic Reserve after Stent Placement For Postsurgical Portal Vein Stenosis.	Journal of Vascular and Interventional Radiology, In Press Corrected ProofPublished online: December 10, 2024	Original Article
340	Inamoto K, Ozaki K, Watanabe Y, et al	高齢者歯科	Oral Health Management by Dental Hygienists and Older Adults' Food Forms in Long-Term Care Facilities: A 1-Year Longitudinal Study.	Gerodontology. 2025 Mar 19.	Original Article
341	Nakagawa S, Miura K, Arai E, et al	高齢者歯科	Oral frailty, appetite and dietary variety in late-stage older adults: A cross-sectional study (the STudy of lAtE-stage oldeR adulTs in Tottori; START Tottori).	Geriatr Gerontol Int. 2024 Jun;24(6):626–633.	Original Article
342	Kimura C, Miura K, Watanabe Y, et al	高齢者歯科	Association between oral frailty and Prevotella percentage in the oral microbiota of community-dwelling older adults who participated in the CHEER Iwamizawa project, Japan.	J Oral Rehabil. 2024 Sep;51(9):1721–1729.	Original Article
343	Takahashi K, Watanabe Y, Okumura T, et al	高齢者歯科	Association Between Undernutrition and the Number of Molar Occlusions in Older Persons Requiring Care in Long-Term Care Insurance Facilities.	Nutrients. 2025 Feb 10;17(4):630. (オンライン)	Original Article
344	Arai E, Watanabe Y, Nakagawa S, et al	高齢者歯科	Association of oral frailty with medical expenditure in older Japanese adults: The study of late-stage older adults in Tottori (START Tottori).	Gerodontology. 2025 Mar;42(1):61–70.	Original Article
345	Kimura T, Sakata KI, Ohga N, et al	口腔内科	Salivary miRNAs as a novel therapeutic marker in a patient with advanced oral squamous cell carcinoma: A case report.	Oncol Lett. 2024 Nov 11;29(1):52. (オンライン)	Case Report
346	Okura T, Sakata KI, Itagaki T	口腔内科	Comment on Pu et al. Predicting Postoperative Lung Cancer Recurrence and Survival Using Cox Proportional Hazards Regression and Machine Learning. Cancers 2025, 17, 33.	Cancers (Basel). 2025 Feb 19;17(4):697. (オンライン)	Original Article

347	Itagaki T, Kasai M, Sakata KI, et al	口腔内科	Comment on Dorobisz et al. Assessment of Prognostic Factors, Clinical Features Including the Microbiome, and Treatment Outcomes in Patients with Cancer of Unknown Primary Site. <i>Cancers</i> 2024, 16, 3416.	Cancers (Basel). 2024 Nov 22;16(23):3911. (オンライン)	Original Article
348	Tanabe T, Kimura T, Sakata KI, et al	口腔内科	Palatal Pyogenic Granuloma Suspected of Malignant Tumor: A Case Report and Literature Review.	Cureus. 2024 Nov 23;16(11):e74284. (オンライン)	Case Report
349	Itagaki T, Nakamura K, Tanabe T, et al	口腔内科	Rikkasan's Short-Term Analgesic Effect on Burning Mouth Syndrome: A Single-Arm Cohort Study.	Biomedicines. 2024 May 4;12(5):1013. (オンライン)	Original Article
350	Itagaki T, Kobayashi H, Sakata KI, et al	口腔内科	Compositional Data and Microbiota Analysis: Imagination and Reality.	Microorganisms. 2024 Jul 20;12(7):1484. (オンライン)	Original Article
351	Nagamoto K, Nakanishi K, Akasaka T, et al	口腔内科	Investigation of a new implant surface modification using phosphorylated pullulan.	Front Bioeng Biotechnol. 2024 May 22;12:1378039. (オンライン)	Original Article
352	Kuroshima T, Kitagawa Y, Sato J, et al	口腔内科	Maximum standardized uptake value in <sup>(11)C</sup> -methionine positron emission tomography may predict the prognosis of patients with oral squamous cell carcinoma.	Odontology. 2025 Jan;113(1):372–378.	Original Article
353	Itagaki T, Sakata KI, Okura T, et al	口腔内科	Patients with Taste Disorders in a Hospital's Dental Department and Strategies for Taste Disorders.	Biomedicines. 2024 Sep 23;12(9):2160. (オンライン)	Original Article
354	Kimura T, Sakata KI, Takezaki S, et al	口腔内科	Orofacial Granulomatosis among Pediatric Patients Well Controlled by Corticosteroid Treatment: A Rare Case Series.	Case Rep Pediatr. 2024 Apr 29;2024:5685686. (オンライン)	Case Report
355	Kimura T, Kusano K, Sakata KI, et al	口腔内科	The Effectiveness of Hyperbaric Oxygen Therapy on Older Patients With Medication-Related Osteonecrosis of the Jaws: A Case Series.	Cureus. 2024 Sep 11;16(9):e69226. (オンライン)	Case Report
356	Tanabe T, Kimura T, Sakata KI, et al	口腔内科	Medication-Related Osteonecrosis Successfully Treated With Hyperbaric Oxygen Therapy and Conservative Treatment: A Case Report.	Cureus. 2025 Feb 18;17(2):e79213. (オンライン)	Case Report

357	Sakata KI, Hashimoto A, Kambe T, et al	口腔内科	Expression analysis of zinc-metabolizing enzymes in the saliva as a new method of evaluating zinc content in the body: two case reports and a review of the literature.	J Med Case Rep. 2024 Apr 4;18(1):198. (オンライン)	Case Report
358	Tanabe T, Sakata K, Asaka T, et al	口腔内科	Palatal island flap with or without hinge flap for closure of oroantral or oronasal fistula: A technical note	J ORAL MAX SURG MED. 2024 JUL;36(4):4	Original Article
359	Nakano S, Kasai M, Nakamura K, et al	口腔外科	Epithelial-mesenchymal transition in oral cancer cells induced by prolonged and persistent Fusobacterium nucleatum stimulation.	J Oral Biosci. 2024 Sep;66(3):594-604.	Original Article
360	Kakuguchi W, Ashikaga Y, Moritani Y, et al	口腔外科	Nonspecific inflammatory pseudotumor of the maxillary and temporal fossa: a study of seven cases.	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 2024 Oct;138(4):494-501.	Original Article
361	Sekiguchi- Yamada T, Matsushita K, Yoshitatsu R, et al	口腔外科	Peripheral Osteoma of the Subcondylar Region in the Mandible Treated Using the High Perimandibular Approach: A Case Report.	Case Rep Dent. 2025 Mar 15;2025:8830675. (オンライン)	Case Report
362	Ono S, Inoue M, Higashino M, et al	光学医療診療部	Linked color imaging and upper gastrointestinal neoplasia.	Dig Endosc. 2025 Apr;37(4):352-361.	Original Article
363	Ono S, Nakajima S, Owada S, et al	光学医療診療部	A Survey on Endoscopy-Related Musculoskeletal Injuries in Japanese Endoscopists Focused on Injury Sites and Risk Factors.	Dig Dis Sci. 2025 Mar 19.	Original Article
364	Yamamoto G, Tanaka K, Kamata R, et al	呼吸器内科	WEE1 confers resistance to KRAS(G12C) inhibitors in non-small cell lung cancer.	Cancer Lett. 2024 Dec 24;611:217414.	Original Article
365	Hatakeyama Y, Sakakibara- Konishi J, Tarumi M, et al	呼吸器内科	Efficacy and safety of lenvatinib in a case of thymic carcinoma complicated with interstitial lung disease and anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-positive dermatomyositis: A case report.	Respir Med Case Rep. 2025 Feb 15;54:102181. (オンライン)	Case Report
366	Ishida Y, Ikeda S, Harada T, et al	呼吸器内科	High incidence of immune checkpoint inhibitor-induced pneumonitis in patients with non-small cell lung cancer and interstitial pneumonia, regardless of honeycomb lung or forced vital capacity: results from a multicenter retrospective study.	Int J Clin Oncol. 2025 May;30(5):904-913.	Original Article

367	Furuta M, Horinouchi H, Yokota I, et al	呼吸器内科	Durvalumab after chemoradiotherapy for locoregional recurrence of completely resected non-small-cell lung cancer (NEJ056).	Cancer Sci. 2024 Nov;115(11):3705–3717.	Original Article
368	Nakakubo S	呼吸器内科	Evolving COVID-19 symptoms and the ongoing course of research.	Lancet Infect Dis. 2025 Mar;25(3):245–246.	Original Article
369	Hayashishita A, Watanabe T, Suzuki N, et al	呼吸器内科	Insulin resistance assessed by short insulin tolerance test and its association with obesity and insulin resistance-related parameters in humans: A pilot randomized trial.	PLoS One. 2024 Jun 21;19(6):e0297718. (オンライン)	Original Article
370	Wakazono M, Kimura H, Tsujino I, et al	呼吸器内科	Prevalence and clinical impact of asthma-COPD overlap in severe asthma.	Allergol Int. 2025 Apr;74(2):308–315.	Original Article
371	Morinaga D, Sakakibara-Konishi J, Kawai Y, et al	呼吸器内科	Efficacy of second line and subsequent treatments of small cell lung cancer with and without immune checkpoint inhibitor combination therapy.	Respir Investig. 2025 May;63(3):423–430.	Original Article
372	Mita A, Nakakubo S, Nishimura Y, et al	呼吸器内科	Intestinal obstruction caused by disseminated mycobacterium avium complex disease following solid organ transplantation: a case report.	BMC Infect Dis. 2025 Jan 25;25(1):120. (オンライン)	Case Report
373	Morinaga D, Hashimoto K, Asahina H, et al	呼吸器内科	Prognostic impact of oligometastasis in older patients with extensive-stage small cell lung cancer.	Respir Investig. 2025 May;63(3):373–382.	Original Article
374	Nakamura J, Tsujino I, Masaki K, et al	呼吸器内科	Cancer as an independent mortality risk in chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	J Heart Lung Transplant. 2025 Mar;44(3):339–348.	Original Article
375	Tsujino I, Kitahara K, Omura J, et al	呼吸器内科	A PrOspective Cohort Study on Interstitial Lung Disease-Associated Pulmonary Hypertension with a Particular Focus on the Subset with Pulmonary Arterial Hypertension Features (POPLAR Study).	Pulm Ther. 2024 Sep;10(3):297–313.	Original Article
376	Nakamura J, Sato T, Ohira H, et al	呼吸器内科	Prevalence, incidence, and clinical features of cardiac involvement in patients with pulmonary sarcoidosis.	Respir Med. 2025 Mar;238:107954.	Original Article

377	Shima H, Tsujino I, Nakamura J, et al	呼吸器内科	Exploratory analysis of the accuracy of echocardiographic parameters for the assessment of right ventricular function and right ventricular-pulmonary artery coupling.	Pulm Circ. 2024 Apr 21;14(2):e12368. (オンライン)	Original Article
378	Goudarzi H, Ikeda A, Bamai YA, et al	呼吸器内科	Impact of wheat sensitization on wheeze and T2 phenotypes in general population of children.	J Allergy Clin Immunol Glob. 2024 Jul 6;3(4):100300. (オンライン)	Original Article
379	Ikezawa Y, Morita R, Mizugaki H, et al	呼吸器内科	Real-world first-line treatment with pembrolizumab for non-small cell lung carcinoma with high PD-L1 expression: Updated analysis.	Cancer Med. 2024 Jul; 13(14):e70036.	Original Article
380	Ohtaka K, Otake S, Fujiwara-Kuroda A, et al	呼吸器外科	The role of the stapled interlobar fissure position for intraoperative detection and postoperative diagnosis of middle lobe torsion after right upper lobectomy.	J Thorac Dis. 2025 Mar 31;17(3):1268-1277.	Original Article
381	Ujiie H, Ebana H, Suzuki J, et al	呼吸器外科	Developing novel non-assistant help operation in dual-portal robotic-assisted thoracic surgery (neoDRATS).	JTCVS Tech. 2024 Aug 5;27:146-150. (オンライン)	Original Article
382	Otsuka S, Nagano Y, Shioya M, et al	呼吸器外科	Salvage Surgery for Epidermal Growth Factor Receptor-Mutant Lung Cancer With Osimertinib Resistance: A Case Report.	Cureus. 2025 Feb 3;17(2):e78461. (オンライン)	Case Report
383	Ohtaka K, Otake S, Ishii Y, et al	呼吸器外科	Spontaneous intercostal artery bleeding occurring simultaneously in numerous vessels during antithrombotic therapy with mechanical circulatory support: a case report.	J Med Case Rep. 2024 Jun 16;18(1):280. (オンライン)	Case Report
384	Ujiie H, Chiba R, Sasaki A, et al	呼吸器外科	Dose Optimization of Intravenous Indocyanine Green for Malignant Lung Tumor Localization.	J Clin Med. 2024 May 10;13(10):2807. (オンライン)	Original Article
385	Yamazaki G, Fujiwara-Kuroda A, Muto J, et al	呼吸器外科	Epithelioid pleural mesothelioma successfully treated with perioperative immunotherapy: a case report.	Gen Thorac Cardiovasc Surg Cases. 2024 Jun 11;3(1):31. (オンライン)	Original Article
386	Shiiya H, Nakamura T, Ujiie H, et al	呼吸器外科	Outcomes of Surgical Lung Biopsy in Pleuroparenchymal Fibroelastosis: A Single-center Retrospective Study.	Arch Bronconeumol. 2025 Mar; 61(3):176-179.	Case Report

387	Aragaki M, Inage T, Kawashima M, et al	呼吸器外科	A successful 24-hour preservation for human lung lobar transplantation leveraging 10 A° cold storage and exA?vivo lung perfusion.	JTCVS Tech. 2024 Apr 13;26:159-162. (オンライン)	Case Report
388	Shiiya H, Ujiie H, Chiba R, et al	呼吸器外科	Impact of pulmonary vein-first ligation during lobectomy on the postoperative survival and recurrence rates in patients with non-smallA?cell lung cancer: a multicenter propensity score-matched study.	Surg Today. 2024 Nov;54(11):1369-1378.	Original Article
389	Goto H, Onozawa M, Teshima T	検査・輸血部(検査)	Novel CAR T cell therapies for patients with large B cell lymphoma.	Int J Hematol. 2024 Jul;120(1):6-14.	Original Article
390	Yamamoto M, Shimizu K	検査・輸血部(検査)	Clinical interpretation of DL(CO) and K(CO): From rationale to clinical and research applications.	Respir Investig. 2025 May;63(3):358-364.	Original Article
391	Hasegawa Y, Hashimoto D, Zhang Z, et al	血液内科	GVHD targets organoid-forming bile duct stem cells in a TGF-β2-dependent manner.	Blood. 2024 Aug 22;144(8):904-913.	Original Article
392	Matsukawa T, Onozawa M, Kondo T, et al	血液内科	FLT3 inhibitors and hematopoietic cell transplantation prolong survival in patients with FLT3-ITD-positive AML.	Ann Hematol. 2024 Dec;103(12):5333-5340.	Original Article
393	Suto K, Takei N, Yokoyama K, et al	血液内科	Genome-wide CRISPR screen identifies MAD2L1BP and ANAPC15 as targets for brentuximab vedotin sensitivity in CD30+ peripheral T-cell lymphoma.	Leukemia. 2025 Jan;39(1):243-247.	Original Article
394	Matsukawa T, Sugita J, Hashimoto D, et al	血液内科	Early cardiotoxicity in post-transplant cyclophosphamide-based graft-versus-host disease prophylaxis after HLA-haploididential hematopoietic stem cell transplantation.	Int J Hematol. 2025 Mar 23.	Original Article
395	Teshima T, Onishi Y, Kato K, et al	血液内科	Ruxolitinib in steroid-refractory acute graft-vs-host disease: Japanese subgroup analysis of the randomized REACH2 trial.	Int J Hematol. 2024 Jul;120(1):106-116.	Original Article
396	Shiratori S, Fukushima K, Onishi Y, et al	血液内科	Ruxolitinib for steroid-refractory chronic graft-versus-host disease: Japanese subgroup analysis of REACH3 study.	Int J Hematol. 2024 Dec;120(6):705-716.	Original Article

397	Miyashita N, Onozawa M, Kasahara K, et al	血液内科	CML With Mutant ASXL1 Showed Decreased Sensitivity to TKI Treatment via Upregulation of the ALOX5-BLTR Signaling Pathway.	Cancer Sci. 2025 Apr;116(4):1115–1125.	Original Article
398	Goto H, Kumode T, Mishima Y, et al	血液内科	Efficacy and safety of mosunetuzumab monotherapy for Japanese patients with relapsed/refractory follicular lymphoma: FLMOON-1.	Int J Clin Oncol. 2025 Feb;30(2):389–396.	Original Article
399	Qi Y, Fan HL	血液内科	Recent Progress on Water-based Liquid Embolic Agents in Endovascular Treatment	CHEM RES CHINESE U.2024 OCT:40(5):10	Review
400	Matsuda N, Seo D, Suzuki R, et al	形成外科	Free Flap Limb Salvage and Ulcer Recurrence in Chronic Limb-threatening Ischemia.	Int J Low Extrem Wounds. 2025 Mar;24(1):66–73.	Original Article
401	Ishikawa K, Maeda T, Funayama E, et al	形成外科	Fluoroscopy- and Endoscopy-Guided Transoral Sclerotherapy Using Foamed Polidocanol for Oropharyngolaryngeal Venous Malformations in a Hybrid Operation Room: A Case Series.	J Clin Med. 2024 Apr 18;13(8):2369. (オンライン)	Original Article
402	Ishii R, Otsuka N, Anan T, et al	形成外科	A 4-year-old Boy with a Red Nodule on His Hand: A Quiz.	Acta Derm Venereol. 2025 Jan 28;105:adv41071. (オンライン)	Original Article
403	Maeda T, Tsushima N, Ishikawa K, et al	形成外科	Effective management of continuous salivary flow through a pharyngocutaneous fistula using a negative pressure wound therapy device.	JPRAS Open. 2024 Nov 1;43:74–78. (オンライン)	Case Report
404	Ishikawa K, Hoshino Y, Osawa M, et al	形成外科	Hypoxia-Inducible Factor Prolyl Hydroxylase Inhibitor Roxadustat Accelerates Wound Healing in a Mouse Hind limb Lymphedema Model.	Adv Wound Care (New Rochelle). 2025 Jan 24.	Original Article
405	Seo D, Ito R, Ishikawa K, et al	形成外科	3D scanner's potential as a novel tool for lymphedema measurement in mouse hindlimb models.	Sci Rep. 2025 Jan 30;15(1):3747. (オンライン)	Original Article
406	Maeda T, Hayashi T, Ishikawa K, et al	形成外科	Physiological and Functional Restoration of the Modiolus Using a Double Tendon Sling in Patients With Full-Thickness Oral Defects.	Ann Plast Surg. 2025 Jan 1;94(1):70–74.	Original Article

407	Matsuda N, Sato C, Ishikawa K, et al	形成外科	A novel mouse model for studies of burn wound conversion using a top hat-shaped brass template.	Burns. 2025 Mar;51(2):107348.	Original Article
408	Mitamura S, Ishikawa K, Sasaki Y, et al	形成外科	Pitfalls in Ultrasound Diagnosis of Vascular Malformations: A Retrospective Review of 14 Nonvascular Tumors Treated as Vascular Malformations.	Diagnostics (Basel). 2025 Feb 19;15(4):506. (オンライン)	Original Article
409	Ishii R, Ohnishi S, Hojo M, et al	形成外科	Hypoxic culture enhances the antimicrobial activity of amnion-derived mesenchymal stem cells, thereby reducing bacterial load and promoting wound healing in diabetic mice.	Biochem Biophys Res Commun. 2024 Dec 20;739:150903.	Original Article
410	Maeda T, Ishikawa K, Hayashi T, et al	形成外科	Comparison of leg volume ratio between inguinal lymphadenectomy and inguino-pelvic lymphadenectomy in patients with skin cancer of the lower extremity.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2024 Dec;99:397–405.	Original Article
411	Sasaki Y, Maeda T, Hojo M, et al	形成外科	Synergistic anti-tumor effects of oncolytic virus and anti-programmed cell death protein 1 antibody combination therapy: For suppression of lymph node and distant metastasis in a murine melanoma model.	Biochem Biophys Res Commun. 2024 Dec 25;740:151011.	Original Article
412	Sakakibara M, Hasegawa T, Haraguchi-Kitakamae M, et al	矯正歯科	Histochemical analysis of osteoclast and osteoblast distributions on hydroxyapatite/collagen bone-like nanocomposite embedded in rat tibiae.	J Oral Biosci. 2025 Mar;67(1):100612.	Original Article
413	Kanai T, Osawa K, Kajiwara K, et al	矯正歯科	Study of Podoplanin-Deficient Mouse Bone with Mechanical Stress.	Dent J (Basel). 2025 Jan 29;13(2):61. (オンライン)	Original Article
414	Yamagata S, Yamamoto T, Sato Y, et al	矯正歯科	Synthesis and evaluation of fluorescent resins with europium-I2-diketonate complex for orthodontic use.	Dent Mater J. 2024 Jul 31;43(4):531–538.	Original Article
415	Ko Nakanishi, Tsukasa Akasaka, Hiroshi Hayashi, Kumiko Yoshihara, Teppei Nakamura, Mariko Nakamura, Bart Van Meerbeek, Yasuhiro Yoshida	矯正歯科	From tooth adhesion to bioadhesion: development of bioabsorbable putty-like artificial bone with adhesive to bone based on the new material “phosphorylated pullulan”	Materials 17(15), 3671, July 2024	Original article
416	Nanae Yasuura, Tadashi Inui, Tomohiko Yoshizawa, Norio Sogawa, Yoshiaki Sato, Makoto Funahashi	矯正歯科	Taste preference and conditioned taste aversion of the metallothionein-1/2 null mice	Physiology & Behavior 289, 114757, February 2025.	Original article

417	Itagaki Y, Hayakawa M, Takahashi Y, et al	救命救急センター	The efficacy of coagulation factor concentrates in the management of patients with trauma-induced coagulopathy: a systematic review and meta-analysis.	Shock. 2025 May 1;63(5):695–705.	Original Article
418	Takahashi M, Takauji S, Hayakawa M	救急部	Hypothermia-associated acute pancreatitis: A multicenter prospective observational study.	Acute Med Surg. 2025 Jan 3;12(1):e70033. (オンライン)	Original Article
419	Tsuchida T, Kamiishi T, Usubuchi H, et al	救急部	Complication frequency of mechanical chest compression devices: A single-center, blinded study using retrospective data.	Resusc Plus. 2024 Sep 24;20:100786. (オンライン)	Original Article
420	Takauji S, Hayakawa M, Yamamoto R	救急科	Indications for extracorporeal membrane oxygenation in older adult patients with accidental hypothermia and hemodynamic instability.	BMC Emerg Med. 2025 Mar 13;25(1):44. (オンライン)	Original Article
421	Tsuchida T, Ono K, Takahashi M, et al	救急科	Simultaneous prognostic score validation in patients with out-of-hospital cardiac arrest by a post-hoc analysis based on national multicenter registry.	Sci Rep. 2024 Aug 13;14(1):18745. (オンライン)	Original Article
422	Tsuchida T, Makino Y, Wada T, Ushio N, Totoki T, Fujie N, Yasuo S, Matsuoka T, Koami H, Yamakawa K, Iba T:	救急科	Efficacy of antithrombin administration for patients with sepsis: A systematic review, meta-analysis, and meta-regression	Acute Med Surg/2024/4	Original Article
423	Tsuchida T, Mizugaki A, Tanaka S, Sembra A, Nakajima T, Wada T	救急科	Effect of gender on 28-day survival rates and transfusion volume in severe trauma patients: a multicenter observational study	Shock/2024/7	Original Article
424	Yao Q, Tsuboi K, Hongo H, et al	義歯科	Histochemical assessment of the femora of spontaneously diabetic torii-lepr(fa) (SDT-fa/fa) rats that mimic type II diabetes.	J Oral Biosci. 2025 Mar;67(1):100602.	Original Article
425	Konishi D, Hirata E, Takano Y, et al	義歯科	Near-infrared light-boosted antimicrobial activity of minocycline/hyaluronan/carbon nanohorn composite toward peri-implantitis treatments.	Nanoscale. 2024 Jul 18;16(28):13425–13434. (オンライン)	Original Article
426	Yoshizawa T, Funahashi M	義歯科	Dopamine release in striatal striosome compartments in response to rewards and aversive outcomes during classical conditioning in mice.	Neurosci Res. 2025 Mar;212:61–68.	Original Article

427	Yasuura N, Inui T, Yoshizawa T, et al	義歯科	Taste preference and conditioned taste aversion of the metallothionein-1/2 null mice.	Physiol Behav. 2025 Feb 1;289:114757.	Original Article
428	Saito M, Mitamura M, Yokoi K, et al	眼科	Choroidal blood flow velocity and resistance in inferior posterior staphyloma using a novel superpixel technique in laser speckle flowgraphy.	Sci Rep. 2025 Mar 26;15(1):10487. (オンライン)	Original Article
429	Mitamura M, Saito M, Fukutsu K, et al	眼科	Sex Differences in Age-Related Changes in Retinal Arteriovenous Area Based on Deep Learning Segmentation Model.	Ophthalmol Sci. 2025 Jan 28;5(3):100719. (オンライン)	Original Article
430	Ota J, Ando R, Motegi H, et al	眼科	Acute acquired comitant esotropia associated with Lhermitte-Duclos disease: a case report.	J Med Case Rep. 2024 Aug 11;18(1):365. (オンライン)	Case Report
431	Tagawa Y, Aihara Y, Ishida S	眼科	When ocular surface treatment fails: exploring neuropathic ocular pain in aqueous-deficient dry eye due to Sjögren's syndrome treated with mirogabalin: a case study.	Immunol Med. 2025 Mar 17:1-5.	Original Article
432	Mitamura M, Kase S, Suimon Y, et al	眼科	A case of uveoscleral mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma with secondary angle-closure glaucoma.	BMC Ophthalmol. 2024 Dec 27;24(1):549. (オンライン)	Case Report
433	Kase S, Suimon Y, Mitamura M, et al	眼科	Giant conjunctival melanoma with rich vascularization causing persistent bleeding.	Mol Clin Oncol. 2024 Jun 19;21(2):53. (オンライン)	Original Article
434	Saito M, Mitamura M, Fukutsu K, et al	眼科	Retinal Arteriovenous Information Improves the Prediction Accuracy of Deep Learning-Based baPWV Index From Color Fundus Photographs.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2025 Feb 3;66(2):63.	Original Article
435	Kase S, Hirooka K, Takakuwa E, et al	眼科	Pterygium-like conjunctival nevus: a clinicopathological study.	Can J Ophthalmol. 2025 Jun;60(3):e498-e501.	Letter
436	Mitamura M, Kase S, Ishida S	眼科	Multimodal Imaging, Including Laser Speckle Flowgraphy: A Case of Retinal Metastasis.	Cancer Diagn Progn. 2024 Jul 3;4(4):539-543. (オンライン)	Original Article

437	Mitamura M, Saito M, Hirooka K, et al	眼科	Differences in Artificial Intelligence-Based Macular Fluid Parameters Between Clinical Stages of Diabetic Macular Edema and Their Relationship with Visual Acuity.	J Clin Med. 2025 Feb 5;14(3):1007. (オンライン)	Original Article
438	Mitamura M, Kase S, Suimon Y, et al	眼科	A Case of Metastatic Iris Tumor from Adenocarcinoma of the Cecum Diagnosed by Combined Tumor Markers in Aqueous Humor and Fine Needle Aspiration Cytology.	Case Rep Oncol. 2024 Dec 24;18(1):29-34. (オンライン)	Case Report
439	Kase S, Chin S, Ishida S	眼科	Z-shaped incision without epithelial resection in pterygium surgery.	Int J Ophthalmol. 2024 Jul 18;17(7):1262-1266. (オンライン)	Original Article
440	Saito M, Mitamura M, Kimura M, et al	眼科	Grad-CAM-Based Investigation into Acute-Stage Fluorescein Angiography Images to Predict Long-Term Visual Prognosis of Branch Retinal Vein Occlusion.	J Clin Med. 2024 Sep 5;13(17):5271. (オンライン)	Original Article
441	Yokoi K, Saito M, Mitamura M, et al	眼科	Wide-field indocyanine green fluorescein angiography findings in inferior posterior staphyloma.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2025 Apr;263(4):1189-1192.	Original Article
442	Suimon Yuka	眼科	Clinicopathologic features of conjunctival MALT lymphomas refractory to radiation therapy	Can J Ophthalmol. 2024/10	Original Article
443	Kikuchi Kasumi	眼科	Spontaneously Diabetic Torii Fatty Rat Shows Early Stage of Diabetic Retinopathy Characterized by Capillary Changes and Inflammation	J Diabetes Res. 2025	Original Article
444	Mitamura Mizuho	眼科	A case of choroidal melanocytoma treated by transscleral resection: A clinicopathological study	Am J Ophthalmol Case Rep. 2024/06	Case report
445	Kagami K, Kitajima M, Watanabe H, et al	感染制御部	Association between confirmed COVID-19 cases at hospitals and SARS-CoV-2 levels in municipal wastewater during the pandemic and endemic phases.	Environ Int. 2025 Mar;197:109342.	Original Article
446	Ishiguro N, Morioka I, Nakano T, et al	感染制御部	Clinical and Virologic Outcomes of Baloxavir Compared with Oseltamivir in Pediatric Patients with Influenza in Japan.	Infect Dis Ther. 2025 Apr;14(4):833-846.	Original Article

447	Wakabayashi N, Watanabe S, Abe T, et al	核医学診療科	Safety and efficacy of multiple-dose versus single-dose MIBG therapy in patients with refractory pheochromocytoma and paraganglioma: a single-center retrospective analysis.	Ann Nucl Med. 2024 Jul;38(7):553-562.	Original Article
448	Yoshimura T, Morii Y, Tamori H, et al	医学物理部	Cost-effectiveness analysis for multi adverse events of proton beam therapy for pediatric medulloblastoma in Japan.	J Radiat Res. 2025 Jan 22;66(1):31-38.	Original Article
449	Yoshimura T, Kondo K, Hashimoto T, et al	医学物理部	Geometric target margin strategy of proton craniospinal irradiation for pediatric medulloblastoma.	J Radiat Res. 2024 Sep 24;65(5):676-688.	Original Article
450	Miyamoto N, Katoh N, Kanehira T, et al	医学物理部	Clinical application of real-time tumor-tracking for stereotactic volumetric modulated arc therapy for liver tumors.	Phys Imaging Radiat Oncol. 2024 Aug 5;31:100623. (オンライン)	Original Article
451	Osuka S, Takahata M, Takeda R, et al	リハビリテーション部	Cervical motion analysis using wearable inertial sensors to patients with cervical ossification of posterior longitudinal ligament.	J Orthop Res. 2025 Feb;43(2):430-440.	Original Article
452	Abe T, Inao T, Shingu Y, et al	リハビリテーション部	Associations of sarcopenia and malnutrition with 30-day in-hospital morbidity and mortality after cardiac surgery.	Eur J Cardiothorac Surg. 2024 Dec 26;67(1):ezae456.	Original Article
453	Watanabe K, Koshino Y, Nakagawa K, et al	リハビリテーション部	The relationship between joint kinematic patterns during single-leg drop landing and perceived instability in individuals with chronic ankle instability.	Clin Biomech (Bristol). 2024 Apr;114:106237.	Original Article
454	Osuka S, Sudo H, Yamada K, et al	リハビリテーション部	Posterior Correction and Fusion Using a 4D Anatomical Spinal Reconstruction Technique Improves Postural Stability Under the Eye-Closed Condition in Patients with Adolescent Idiopathic Scoliosis.	J Clin Med. 2024 Oct 24;13(21):6366. (オンライン)	Original Article
455	Abe T, Nagai T, Yuasa A, et al	リハビリテーション部	Usefulness of frailty assessment using the revised Japanese version of the Cardiovascular Health Study on the prediction of clinical outcomes in patients with severe aortic stenosis undergoing transcatheter aortic valve replacement.	Cardiovasc Interv Ther. 2025 Jan;40(1):144-151.	Original Article
456	Umemori S, Ogawa M, Yamada S, et al	リハビリテーション科	Development of a Conversion Table Linking Functional Independence Measure Scores to International Classification of Functioning, Disability, and Health Qualifiers: Insights from a Survey of Healthcare Professionals.	Healthcare (Basel). 2024 Apr 15;12(8):831. (オンライン)	Original Article

457	Moriya H, Fujieda Y, Inoue Y, et al	リウマチ・腎臓内科	Muscle vasculitis in patients with polymyalgia rheumatica; three case series.	Mod Rheumatol Case Rep. 2024 Dec 9:rxae072.	Original Article
458	Hisada R, Kono M	リウマチ・腎臓内科	Recent advances in immunometabolism in rheumatic diseases.	Curr Opin Rheumatol. 2025 Mar 1;37(2):142–148.	Original Article
459	Atsumi T, Tan JY, Chiang AP, et al	リウマチ・腎臓内科	Prevalence, patient characteristics and treatment patterns among SLE-PAH patients in real-world clinical practice: A retrospective analysis of Medical Data Vision Database in Japan.	Mod Rheumatol. 2024 Jul 6;34(4):741–749.	Original Article
460	Nakazawa D, Masuda S, Nishibata Y, et al	リウマチ・腎臓内科	Neutrophils and NETs in kidney disease.	Nat Rev Nephrol. 2025 Jun;21(6):383–398.	Original Article
461	Watanabe- Kusunoki K, Li C, Bandeira Honda TS, et al	リウマチ・腎臓内科	Gasdermin D drives focal crystalline thrombotic microangiopathy by accelerating immunothrombosis and necroinflammation.	Blood. 2024 Jul 18;144(3):308–322.	Original Article
462	Kamada K, Kono M, Atsumi T	リウマチ・腎臓内科	Subacute Finger Gangrene with Severe Raynaud's Phenomenon.	Intern Med. 2025 Mar 15.	Original Article
463	Matsuoka N, Nakazawa D, Nishio S, et al	リウマチ・腎臓内科	Effects of canagliflozin on brain natriuretic peptide levels in patients with type 2 diabetes on peritoneal dialysis in Japan: protocol for a multicentre, prospective, randomised controlled trial (CARD-PD trial).	BMJ Open. 2024 Nov 25;14(11):e084846. (オンライン)	Original Article
464	Takeyama S, Hanaoka H, Hashimoto A, et al	リウマチ・腎臓内科	A cohort study in HigAshi-nippon of Pulmonary hyPertensIoN in systEmic SclerosiS (HAPPINESS study): protocol and baseline data for an observational study.	BMC Rheumatol. 2025 Feb 26;9(1):25. (オンライン)	Original Article
465	Kudo T, Nakazawa D, Nishio S, et al	リウマチ・腎臓内科	Tubulointerstitial nephritis with IgM-positive plasma cells complicated by liver failure.	CEN Case Rep. 2025 Apr;14(2):253–260.	Case Report
466	Hisada R, Kono M	リウマチ・腎臓内科	Potential therapies targeting metabolic pathways in systemic lupus erythematosus.	Clin Immunol. 2024 Jun;263:110224.	Original Article

467	Wei J, Fujieda Y, Fujita Y, et al	リウマチ・腎臓内科	Phosphatidylserine-dependent antiprothrombin antibodies as a key predictor for systemic lupus erythematosus in patients with primary antiphospholipid syndrome: A retrospective longitudinal cohort study.	Mod Rheumatol. 2025 Feb 21;35(2):300-306.	Original Article
468	Tada M, Kudo Y, Kono M, et al	リウマチ・腎臓内科	Itaconate reduces proliferation and migration of fibroblast-like synoviocytes and ameliorates arthritis models.	Clin Immunol. 2024 Jul;264:110255.	Original Article
469	Kamada K, Fujieda Y, Watanabe M, et al	リウマチ・腎臓内科	Skin Eruption and Nerve Impairment: Eosinophil Activation Link.	J Rheumatol. 2025 Jan 15:jrheum.2024-0989.	Original Article
470	Takeyama S, Kono M, Aso K, et al	リウマチ・腎臓内科	Relation between hydroxychloroquine dose and continuation rate in patients with systemic lupus erythematosus.	Mod Rheumatol. 2024 Dec 25;35(1):110-117.	Original Article
471	Nakazawa D	リウマチ・腎臓内科	Targeting complement in kidney transplantation: Therapeutic approaches based on preclinical and experimental evidence.	Transplant Rev (Orlando). 2025 Jan;39(1):100887.	Original Article
472	Moriya H, Kato M, Hisada R, et al	リウマチ・腎臓内科	The chest CT signs for pulmonary veno-occlusive disease correlate with pulmonary haemodynamics in systemic sclerosis.	Rheumatology (Oxford). 2024 Jul 1;63(7):1868-1873.	Original Article
473	Kato M, Kiuchi Y, Atsumi T, et al	リウマチ・腎臓内科	Vertebral involvement detected by tomosynthesis in SAPHO syndrome.	Rheumatology (Oxford). 2024 May 3;63(6):e162-e163.	Case Report
474	Yago R, Kawamoto C, Wu D, et al	むし歯科	Visibility of Recurrent Caries Through Universal Shade Resin Composite Restorations.	Materials (Basel). 2024 Nov 27;17(23):5815. (オンライン)	Original Article
475	Zhang H, Yuan Y, Toida Y, et al	むし歯科	Evaluation of long-term bond strength and mechanical properties of a recently launched light-cure resin cement for veneer cementation.	Clin Oral Investig. 2025 Mar 21;29(4):199. (オンライン)	Original Article
476	Tsuchiya K, Sauro S, Sano H, et al	むし歯科	Clinical applications and classification of calcium silicate-based cements based on their history and evolution: a narrative review.	Clin Oral Investig. 2025 Mar 17;29(4):187. (オンライン)	Original Article

477	Li Y, Maeno M, Cifuentes-Jimenez CC, et al	むし歯科	Effect of Simulated Dental Pulpal Pressure Using Fetal Bovine Serum for the Bonding Performance of Contemporary Adhesive to Dentin.	Polymers (Basel). 2024 Apr 26;16(9):1219. (オンライン)	Original Article
478	Islam MRR, Islam R, Liu Y, et al	むし歯科	Biological evaluation of novel phosphorylated pullulan-based calcium hydroxide formulations as direct pulp capping materials: An inA?vivo study on a rat model.	Int Endod J. 2024 Sep;57(9):1247-1263.	Original Article
479	Wu D, Yao Y, Cifuentes-Jimenez CC, et al	むし歯科	Long-Term Dentin Bonding Performance of Universal Adhesives: The Effect of HEMA Content and Bioactive Resin Composite.	J Funct Biomater. 2024 Dec 16;15(12):379. (オンライン)	Original Article
480	Yuan Y, Intajak P, Sakaguchi N, et al	むし歯科	Colloidal platinum nanoparticles enhance resin-dentin bonding durability.	Dent Mater. 2024 Nov;40(11):2034-2042.	Original Article
481	Kaneko H, Kawamoto C, Toida Y, et al	むし歯科	Evaluation of Shade Integration of a Novel Universal-Shade Flowable Bulk-Filling Resin Composite.	Materials (Basel). 2024 Dec 4;17(23):5944. (オンライン)	Original Article
482	Ouchi M, Kitta T, Chiba H, et al	泌尿器科	Physiotherapy for continence and muscle function in prostatectomy: a randomised controlled trial.	BJU Int. 2024 Sep;134(3):398-406.	Original Article
483	Muranishi Y, Kobori Y, Katoh-Fukui Y, et al	泌尿器科	Systematic molecular analyses for 115 karyotypically normal men with isolated non-obstructive azoospermia.	Hum Reprod. 2024 May 2;39(5):1131-1140.	Original Article
484	Hoshi T, Hirose T, Fuyama K, et al	泌尿器科	Successful kidney transplantation improves atrophic bladder capacity and function within 3a?months in long-term dialysis patients.	Int J Urol. 2025 Jan;32(1):118-120.	Original Article
485	Kawashiro K, Suzuki R, Nogimori T, et al	泌尿器科	Neutralizing antibody responses and cellular responses against SARS-CoV-2 Omicron subvariants after mRNA SARS-CoV-2 vaccination in kidney transplant recipients.	Sci Rep. 2024 May 28;14(1):12176. (オンライン)	Original Article
486	Ouchi M, Kitta T	泌尿器科	Response to Tang etA?al. 'Evaluating the efficacy of physiotherapy in post-prostatectomy continence and pelvic muscle function'.	BJU Int. 2025 Apr;135(4):707.	Letter

487	Muranishi Y, Itonaga T, Ihara K, et al	泌尿器科	PTPN11 and FLNA variants in a boy with ambiguous genitalia, short stature, and non-specific dysmorphic features.	Clin Pediatr Endocrinol. 2024;33(3):169–173.	Case Report
488	Yamamoto S, Arakaki R, Noguchi H, et al	泌尿器科	Kisspeptin administration may promote precopulatory behavior in male rats independently or supplementally to testosterone and contribute to proceptive behavior in female partners, reducing mating failure.	Gen Comp Endocrinol. 2024 Jul 1;353:114528.	Original Article
489	Osawa T, Sasaki K, Machida R, et al	泌尿器科	Real-world treatment trends for patients with advanced prostate cancer and renal cell carcinoma and their cost—a survey in Japan.	Jpn J Clin Oncol. 2024 Oct 3;54(10):1062–1070.	Original Article
490	Harada S, Abe T, Furumido J, et al	泌尿器科	A prospective study of surgeons' workloads and associated factors in real-world practice.	Sci Rep. 2024 Apr 28;14(1):9741. (オンライン)	Original Article
491	Iwahara N, Hotta K, Hirose T, et al	泌尿器科	Protocol biopsy of kidney allograft enables early detection of BK virus nephropathy to preserve kidney allograft function.	Transpl Infect Dis. 2024 Oct;26(5):e14338.	Original Article
492	Takahashi M, Kikawa Y, Kashiwabara K, et al	乳腺外科	Eribulin versus S-1 as first or second-line chemotherapy to assess health-related quality of life and overall survival in HER2-negative metastatic breast cancer (RESQ study): a non-inferiority, randomised, controlled, open-label, phase 3 trial.	EClinicalMedicine. 2024 Jul 16;74:102715. (オンライン)	Original Article
493	Ukeba D, Nagahama K, Yamada K, et al	整形外科	Artificial intelligence–driven 3D MRI of lumbosacral nerve root anomalies: accuracy, incidence, and clinical utility.	Neuroradiology. 2025 Apr;67(4):1095–1101.	Original Article
494	Shimizu K, Kimura H, Tanabe N, et al	呼吸器内科	Increased adiposity-to-muscle ratio and severity of sinusitis affect quality of life in asthma: Computed tomographic analysis.	J Allergy Clin Immunol Glob. 2024 May 8;3(3):100277. (オンライン)	Original Article

495	Takahashi M, Yamaguchi T, Mikami S, et al	クラウンブリッジ歯科	Number of masseteric electromyographic waveforms during analysis periods with/without excluding time zones after going to bed and before getting up in sleep bruxism assessment.	Cranio. 2025 Mar 10:1-12.	Original Article
496	Murashima N, Takayama Y, Nogawa T, et al	義歯科	Mechanical Effect of an Implant Under Denture Base in Implant-Supported Distal Free-End Removable Partial Dentures.	Dent J (Basel). 2024 Nov 11;12(11):358. (オンライン)	Original Article
497	Ohhara Y, Amano T, Knoshita I, et al	がん遺伝子診断部	Non-small cell lung cancer with synchronous brain metastases: Identification of prognostic factors in a retrospective multicenter study (HOT 1701)	Neurooncol Adv. 2024 Oct 5;6(1):vdae168.	Original Article
498	Yokota T	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	Skeletal muscle mitochondria: A potential target for postmenopausal hormone replacement therapy	Acta Physiologica/240, e14149/doi.org/10.1111/apha.14149/2024/4/17	
499	Miyakoshi, T., & Ito, Y. M.	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	Assessing the current utilization status of wearable devices in clinical research.	Clin Trials/21(4), 470-482. /doi:10.1177/17407745241230287/2024/8/4	
500	Chiba Y, Goto K, Suzuki M, et al	ME機器管理センター	Impact of extracorporeal membrane oxygenation treatments on acquired von Willebrand syndrome in patients with out-of-hospital cardiac arrest: a retrospective observational study.	Thromb J. 2024 May 31;22(1):46. (オンライン)	Original Article
501	Okamoto K, Ito T, Sato S, et al	ME機器管理センター	Damage-Associated Molecular Patterns as Mediators of Thrombus Formation on Dialyzer Membrane in Critically Ill Patients.	ASAIO J. 2024 Oct 1;70(10):898-903.	Original Article
502	Moritani Y, Donen M, Fujimori M, Tei K, Ohiro Y	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Dental Medicine and Graduate School of Dental Medicine, Hokkaido University	Extensive oral bisphosphonate related osteonecrosis of the maxilla: utilization of bone scintigraphy for detection of the combination of HBO therapy and surgery:case report and hypothesis.	Hokkaido J. Dent. Sci. 45:76-82, 2024	Case Report
503	Wataru Kakuguchi, Tetsuya Kitamura, Tomomi Takahashi, Aya Yanagawa- Matsuda, Chih- Yuan Fang, Yoichi Ohiro, Fumihiro Higashino.	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Dental Medicine and Graduate School of Dental Medicine, Hokkaido University	Human antigen R knockdown attenuates the invasive activity of oral cancer cells through inactivation of matrix metalloproteinase-1 gene expression.	J Dent Sci., 19(1):154-161, 2024.	Original Article

504	<p>Yao Y, Wu D, Cifuentes-Jimenez CC, Sano H, Alvarez-Lloret P, Yamauti M, Tomokiyo A.</p> <p>(1)Department of Restorative Dentistry, Graduate School of Dental Medicine, Hokkaido University, Kita 13 Nishi 7, Kita-ku, Sapporo 060-8586, Japan. (2)Department of Restorative Dentistry, Graduate School of Dental Medicine, Hokkaido University, Kita 13 Nishi 7, Kita-ku, Sapporo 060-8586, Japan. (3)Department of Restorative Dentistry, Faculty of Dental Medicine, Hokkaido University, Kita 13 Nishi 7, Kita-ku, Sapporo 060-8586, Japan. (4)Department of Restorative Dentistry, Graduate School of Dental Medicine, Hokkaido University, Kita 13 Nishi 7, Kita-ku, Sapporo 060-8586, Japan. (5)Department of Restorative Dentistry, Faculty of Dental Medicine, Hokkaido University, Kita 13 Nishi 7, Kita-ku, Sapporo 060-8586, Japan. (6)Department of Biomedical and Applied Science, School of Dentistry, Indiana University, 1121 W. Michigan St., Indianapolis, IN 46202, USA. (7)Department of Restorative Dentistry, Faculty of Dental Medicine, Hokkaido University, Kita 13 Nishi 7, Kita-ku, Sapporo 060-8586, Japan. (8)Department of Restorative Dentistry, Faculty of Dental Medicine, Hokkaido University, Kita 13 Nishi 7, Kita-ku, Sapporo 060-8586, Japan.</p>	<p>Comprehensive Evaluation of Long-Term Dentin Bond Strength, Water Sorption, Solubility, and Degree of Conversion of Self-Adhesive Resin Composites</p>	J Adhes Dent. 2024 Sep 17;26:213-222.	Original Article
-----	--	---	---------------------------------------	------------------

計504件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）；卷数：該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名・出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例：Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計0件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	○有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	○有・無
• 手順書の主な内容	
<p>「国立大学法人北海道大学における人を対象とする生命科学・医学系研究に関する規程」に基づき、「北海道大学病院生命・医学系研究倫理審査委員会内規」及び「北海道大学病院生命・医学系研究倫理審査委員会標準業務手順書」を整備し、当倫理審査委員会の運営手続き等について定めている。</p> <p>手順書は総則、審査委員会設置者の責務等、生命・医学系研究倫理審査委員会の役割・責務等、生命・医学系研究倫理審査委員会事務局の各章から構成され、「ヘルシンキ宣言」の趣旨に添い人を対象とする生命科学・医学系研究を審議するための手順を規定している。</p>	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	○有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	○有・無
• 規定の主な内容	
<p>「北海道大学病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー」及び「北海道大学病院における臨床研究に係る利益相反マネジメント内規」を整備し、本院において実施する臨床研究に係る利益相反の適切な管理、審査及び指導等について必要な事項を定めている。</p>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回
・研修の主な内容	
【タイトル】 臨床研究の適正実施に向けた課題の検討	
【目的】 特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育	
【対象者】 特定臨床研究を実施する者および支援するもの	
【研修時間】 1時間30分	
【研修内容】	
・研究倫理について	
・不適正の事例と対応	
・研究の適正性と臨床研究	
【実施日】 2024年4月18日	
【タイトル】 クオリティ・バイ・デザインの考え方に基づく効果的・効率的な臨床試験の質の確保、実施医療機関としての被験者保護とインテグリティを考える	
【目的】 特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育	
【対象者】 特定臨床研究を支援する者および実施する者	
【研修時間】 1時間	
【研修内容】	
・GCPリノベーション	
・Quality by Design	
・Fitness for Purpose	
・倫理・道徳	
【実施日】 2024年4月24日	

**【タイトル】**世界医師会「ヘルシンキ宣言」について

**【目的】**特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育

**【対象者】**特定臨床研究を支援する者および実施する者

**【研修時間】**1時間

**【研修内容】**

- ・「ヘルシンキ宣言」改訂
- ・Public consultation Phase 2の内容（原則、リスクベネフィット、弱者保護、研究計画書、研究倫理委員会、プライバシーとインフォームドコンセント、プラセボ、アクセス、登録と結果公表、未実証介入の臨床使用）

**【実施日】**2024年6月14日

**【タイトル】**臨床研究・治験従事者研修

**【目的】**臨床研究・治験を適正に実施することのできる人材の養成

**【対象者】**医療機関において臨床研究・治験に係る業務を行っている、若しくは今後行う予定があり、今後も継続して臨床研究・治験業務を遂行できる医師・歯科医師など

**【研修時間】**7時間

**【研修内容】**

- ・研究倫理、利益相反、PPI
- ・生命科学・医学系研究指針、臨床研究法
- ・スタディデザイン、生物統計
- ・プロトコールに関連するICHガイドライン

**【実施日】**2024年7月16日

**【タイトル】**治験・倫理審査委員会委員研修

**【目的】** 臨床研究を倫理性、科学性、信頼性の側面から適正に審査する人材の養成

**【対象者】** 臨床研究倫理審査委員会、治験審査委員会の委員、事務局関係者（臨床研究支援業務に従事する方を含む）

**【研修時間】** 7時間

**【研修内容】**

- ・ディオバン事件から省みる研究倫理
- ・生命科学・医学系研究指針、臨床研究法
- ・患者や家族、ボランティアの視点からみる臨床研究への参加

**【実施日】** 2024年10月18日

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院は、北海道大学の教育・研究機関として、良質な医療を提供すると共に、優れた医療人を育成し、先進的な医療の開発と提供を通じて社会に貢献することを理念として掲げています。

初期臨床研修医のほか、各領域の後期研修医（専攻医）や専門医・指導医資格取得者、さらに国外の医師免許取得者（臨床修練医）に対する高度医療技術の維持・習得を目指し、様々な研修を行っています。教育資源としては、大学病院に特有の稀少症例や難治症例に加えて、北海道内の関連病院と連携して多様な臨床経験ができる様、各領域で研修体制を整備しています。このような体制のもと、全人的な診療能力を有する専門医を育成するとともに、リサーチマインドを涵養するため、大学院での研究活動を推奨し、新たな診断治療法の開発をすすめています。

平成30年度から新専門医制度が導入され、当院では17の基本領域において基幹施設として研修専門委員会を設置し、専門医制度整備指針に則って専門研修プログラムを取りまとめました。初期臨床研修修了後は、各科専門研修プログラムに沿って、当院および研修連携施設において臨床研修を行って所定の修了要件を満たしますと、各基本領域の専門医資格試験を受験することが可能になります。尚、専門研修プログラムは、女性医師など専攻医の多彩な背景やニーズを考慮して多様な研修が行える様、配慮されています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	716人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
豊嶋 崇徳	血液内科	教授	40年	内科
真部 淳	小児科	教授	41年	小児科
氏家 英之	皮膚科	教授	23年	皮膚科
橋本 直樹	精神科神経科	准教授	24年	精神科
平野 聰	消化器外科Ⅱ	教授	37年	外科
須藤 英毅	整形外科	特任教授	26年	整形外科
渡利 英道	婦人科	教授	35年	産婦人科
石田 晋	眼科	教授	34年	眼科
本間 明宏	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	36年	耳鼻咽喉科
安部 崇重	泌尿器科	准教授	29年	泌尿器科
藤村 幹	脳神経外科	教授	31年	脳神経外科
工藤 與亮	放射線診断科	教授	31年	放射線科
森本 裕二	麻酔科	教授	39年	麻酔科
田中 伸哉	病理診断科	教授	35年	病理
早水 真理子	救急科	特任助教	20年	救急
舟山 恵美	形成外科	准教授	34年	形成外科
向野 雅彦	リハビリテーション科	教授	24年	リハビリテーション

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

別紙のとおり

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

別紙のとおり

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

別紙のとおり

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## I 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況

NO	研修名等	主な内容	日程	参加人数
		目的等		
1	がん看護エキスパートナース養成プログラム「エキスパート養成コース」(全7回)	院内認定がん看護エキスパートナース養成研修	年7回	3名
2	がん看護エキスパートナース養成プログラム「ベーシックコース」(全16項目)	がん看護に必要な知識を学ぶ	延べ646名	16項目
3	看護補助者研修	1. 医療チームにおける看護補助者の役割を理解できる 2. 看護補助業務を遂行するための基礎的な知識・技術を学習できる	年1回	107名
4	副看護師長研修	リフレクションにより自己のマネジメントにおける傾向に気づき副看護師長としての役割発揮のための課題を見出す	年1回	67名
5	認知症看護実践力向上研修	認知症看護実践力を見せる	年1回	38名
6	北海道大学病院初任職員研修(4月1日採用)	看護部理事・看護者の責務・組織運営・人材育成・看護業務について理解する	年1回	92名
7	北海道大学病院初任職員研修(2023年度中途採用者)	看護部理事・看護者の責務・組織運営・人材育成・看護業務について理解する	年1回	9名
8	新人看護員研修(多職種課題研究)	助言や指導を受けながら必要な課題に対応する	年1回	79名
9	新人看護員研修(救命心肺蘇生)	看護技術を安全・安楽に提供できるために必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	82名
10	新人看護員研修(採血・検体の取り扱い)	看護技術を安全・安楽に提供できるために必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	86名
11	新人看護員研修(静脈注射)	看護技術を安全・安楽に提供できるために必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	87名
12	新人看護員研修(痴呆症疾群・防・呼吸理学療法)	看護技術を安全・安楽に提供できるために必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	82名
13	新人看護員研修(皮下注射・筋肉注射)	看護技術を安全・安楽に提供できるために必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	86名
14	新人看護員研修(輸液シンド・シリジンポンプ)	看護技術を安全・安楽に提供できるために必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	86名
15	新人看護員研修(ドレーンの管理)	看護技術を安全・安楽に提供できるために必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	83名
16	新人看護員補充研修(吸引・ネブライザー)	看護技術を安全・安楽に提供できるために必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	78名
17	新人看護員補充研修(経管栄養)	看護技術を安全・安楽に提供できるために必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	71名
18	新人看護員補充研修(十二導心電図・心電図モニター)	看護技術を安全・安楽に提供できるために必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	78名
19	新人看護員補充研修(輸血)	看護技術を安全・安楽に提供できるために必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	77名
20	新人看護員補充研修(膀胱留置カテーテル挿入と管理)	看護技術を安全・安楽に提供できるために必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	77名
21	静脈注射エキスパート更新試験	規定者としての資格を更新し、静脈注射は「ナット」しての質を保証する	年1回	81名
22	静脈注射エキスパート認定研修	静脈注射に関する高度な知識・技術を持つ静脈注射エキスパートを育成する	年1回	33名
23	中心静脈・ドナーポンツ演習	安全な中心静脈・ドナーポンツについての知識・技術を確認できる	年1回	15名
24	末梢静脈留置針と輸液教育プログラム	院内の看護師による末梢静脈留置針と輸液教育プログラムの標準化を図り、看護師が末梢静脈留置針を安全に挿入できる	年1回	82名
25	新規採用者合同研修 J-LI 接遇・リスクマネジメント研修・新規採用者研修等運営委員会主催	プロフェッショナル集団の一員として、職場間連携の非チー旺盛を理解し、プロとして責任ある行動をとることを目指す	年1回	96名
26	新規採用者合同研修 コミュニケーション:新規採用者研修等運営委員会主催	接遇とコミュニケーション、チーム研修を通しての知識・技術を通じて、年次評議会を通じて、患者・家族の意思決定支援を行う重要性を理解する	年1回	93名
27	新規採用者多職種合同研修 臨床倫理研修:新規採用者研修等運営委員会主催	臨床において遭遇する倫理的問題に気づき、多職種間での協議を通して、患者・家族の意思決定支援を行う重要性を理解する	年1回	94名
28	既卒新任看護職員同士で護職者サポートの会	既卒新任看護職員同士で意見交換し、それぞれの思いや悩みを共有し互い支援できる	年1回	10名
29	1年目ピアサポートの会	身近な先輩の体験談を聞き、新しい環境に慣れ、看護師として成長するためのヒントが得られる	年1回	83名
30	北海道大学病院初任職員オリエンテーション:総務課 臨床研修センター主催	本院職員としての心構えと必要な知識を身につけ、医療職員として責任ある行動がとれる	年1回	94名
31	2年目J-ファカルティセミナー研修	ファカルティセミナーに基づき、患者と協働して患者に安全・安心なケアを提供する	年1回	73名
32	フィジカルアセスメント研修	看護技術を安全・安楽に提供できるために、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	83名
33	専門領域別研修会 (感染管理)	テーマ: 植物屏障策・スキンシールド・ドリコーション	年1回	26名
34	専門領域別研修会 (感染管理)	テーマ: 感染症	年1回	27名
35	専門領域別研修会 (集合研修 (がん化学療法看護・がん薬物療法看護))	テーマ: がん化・癌嚥露対策	年2回	42名
36	専門領域別研修会 (集合研修 (手術看護))	テーマ: 手術室での看護・手術部位を体験してみよう~	年1回	16名
37	専門領域別研修会 (集合研修 (皮膚・排泄ケア))	テーマ: 創傷被覆敷の使い方	年2回	27名
38	専門領域別研修会 (集合研修 (救急看護))	テーマ: いまさら聞けない一次救命処置と二次救命処置、急救時対応	年1回	15名
39	専門領域別研修会 (集合研修 (救急看護))	テーマ: RRS事例を振り返してシミュレーション演習	年1回	4名
40	専門領域別研修会 (集合・オンライン研修 (急性重症患者看護専門))	テーマ: RRSについて知ろう	年1回	12名
41	専門領域別研修会 (集合研修 (クリティカルケア))	テーマ: 予期せぬ急変をぐるりズ(1) 臨床推進の活用・状態変化を予測する	年1回	35名
42	専門領域別研修会 (集合研修 (クリティカルケア))	テーマ: 予期せぬ急変を防ぐリーズ(2) 呼吸アセスメントと酸素療法	年1回	46名
43	専門領域別研修会 (集合研修 (クリティカルケア))	テーマ: 予期せぬ急変を防ぐリーズ(3)	年1回	26名
44	専門領域別研修会 (集合研修 (クリティカルケア))	テーマ: 予期せぬ急変を防ぐリーズ(4) 循環アセスメントと心電図	年1回	41名
45	専門領域別研修会 (集合研修 (クリティカルケア))	テーマ: 予期せぬ急変を防ぐリーズ(5) 「何か変?」を見逃さない観察	年1回	18名
46	専門領域別研修会 (集合・オンライン研修 (がん放射線療法))	テーマ: 放射線治療計画の画面の見方と線量分布図について	年1回	25名
47	専門領域別研修会 (集合研修 (慢性心疾患看護))	テーマ: 症床データから患者の生活を推測する 高度疾患実践技術とは ~治療・生活のゆるめ方を見極める看護技術~	年1回	3名
48	看護過程研修	目的: は看護過程を展開する能力を高め、患者参加型看護の実践ができる	講義0分 実践0分	53名
49	1年目研修	目的: 看護専門職としての自覚を持ち、患者・家族の意思を尊重した看護を考えられる	講義0分 実践0分	80名
50	3年目研修I	目的: 臨床実践の内省を通して、3年目の果たす役割を明確にし主体的に行動できる	講義0分 実践0分	67名
51	3年目研修II	目的: 文献を用いて事例を分析することで、自己的看護を内省し、実践に結びつけることができる	講義0分 実践0分	67名
52	看護倫理研修	目的: チーム医療の中での患者の権利擁護者としての看護師の役割を理解し倫理的視点に基づいて看護実践に取り組める	講義0分 実践0.5日	34名
53	看護管理研修	目的: 部署の現状を客観的データから分析し、論理的思考のもと問題解決へ導くことができる	4日	7名
54	リーダー研修	目的: 看護チームにおけるリーダーの役割を理解し、リーダーシップを発揮できる	講義0分 実践0.5日	43名
55	プリセプター研修	目的: 経験から学ぶプロセスを理解し、プリセプティビティを支援できる	0.5日	63名
57	看護師長研修	目的: 看護師長に求められるスキルを高め看護管理者としての役割を発揮できる	3回	42名
58	プリセプター研修 (キャリアコンプリメント研修) e-ラーニング	目的: 経験から学ぶプロセスを理解し、プリセプティビティを支援できる	60分	19名
59	看護過程研修 (キャリアコンプリメント研修) e-ラーニング	目的: 看護過程を展開する能力を高め、患者参加型看護の実践ができる	60分	24名
60	リーダー研修 (キャリアコンプリメント研修) e-ラーニング	目的: 看護チームにおけるリーダーの役割を理解し、リーダーシップを発揮できる	60分	15名
61	看護倫理研修 (キャリアコンプリメント研修) e-ラーニング	目的: チーム医療の中で患者の権利擁護者としての看護師の役割を理解し倫理的視点に基づいて看護実践に取り組める	60分	29名
62	新任看護師長研修	目的: 新任看護師長の役割を理解し実践できる	3回	3名
63	新任副看護師長研修	目的: 副看護師長の役割を理解し実践できる	2回	3名
64	育児短時間勤務場復帰プログラム	育児休業から職場復帰する看護職への感染・医療安全や支援体制についての情報提供	年間10回程度	30名
65	倫理事例検討会「皆で深めよう倫理的推論」	目的: 他の人の倫理觀を理解し倫理的行動をとることができます	年1回	27名
66	指導看護師養成研修「アドバンストコース」	目的: 部署内教育の実践者として関係委員会と共に部署内教育の企画・運営・評価を行なう人材を育成する	年9回	5名
67	北海道大学病院・看護師特定行為研修	北海道大学病院・地域における度急性難治医療の在宅医療まで支える人材を育成し、社会に貢献するために、的確な判断のもとに安全な医療・看護を実践できる看護師特定行為研修者を養成する。	年1回	3名
68	専門領域に関する研修	人工呼吸器安全マニュアル講習会Ⅰ 基礎課程 I-1, I-2, I-3 (1)、人工呼吸器安全管理講習会Ⅱ 認定過程 (I講~8講、認定試験)、人工呼吸器安全マニュアル講習会Ⅲ、呼吸アセスメントと酸素療法	計15回	216名
69	医療安全管理部感染制御合同講演会	2023年のインデンティを振り返り、個人情報保護について、応急(召)義務について、BLS・AED講習	年4回	5648名
70	医療安全に関する講演会	北海道大学病院・医療安全の日講演会、令和6年度歯科インディントより	計1回	187名
71	薬剤師セミナー	学術活動・業務改善・疾患検討などを通じて論理的思考、プレゼンテーション能力を高める	年間20回	約885名
72	新人1年目薬剤師セミナー	1年目薬剤師に求められる知識を身につける	年8回	約82名
73	新人2年目薬剤師セミナー	2年目薬剤師に求められる知識を身につける	年13回	約104名
74	薬剤師新入職員オリエンテーション	新入職員が病院内・部署・労務管理についての理解を深める	年1回	4名
75	メンタルヘルス研修会	心地のいいルーファーについて学ぶ	年1回	185名
76	腰痛予防研修会	腰痛予防におけるルーファー方法や介助のコツについての知識を習得する	年1回	107名
77	医療技術全体研修会 僕やりやすい職場にするために、パワーハラスマントをみんなで理解しよう!	後輩を指導するためのパワーハラスマントにならないスキルを学ぶ	2024.12.25 26名	26名
78	2024年新職員研修	検査・輸血部・病理部新職員に対する検査・輸血部・病理部業務等の新人向け研修	年1回	6名
79	2024年第1回臨床検査セミナー「病院見学報告会」	病院再開時に向けて施設説明会の報告会	年1回	55名
80	2024年第2回臨床検査セミナー「TMの基礎とシクロスボリン・タクロリムス・メトトレキサート」	TM:に関する知識得	年1回	56名
81	検査・輸血部予行会「造影超音波検査が診断に有用であった肝細胞癌転移の1例」	学会発表に向けた予行発表	年1回	44名
82	検査・輸血部予行会「合併18誘導の電図を用いた肺高血圧症の試み」	学会発表に向けた予行発表	年1回	55名
83	検査・輸血部予行会「術中投与色素の混濁指數への影響: パラントブルーが混濁指數に正誤差を示した1例」	学会発表に向けた予行発表	年1回	50名
84	検査・輸血部定期勉強会「BMS8040G」	インシデントの対応	年1回	63名
85	2024年第1回QMS勉強会「業務改善規定の改訂ポイントについて」	規定の理解度向上	年1回	86名
86	2024年第2回QMS勉強会「内部監査養成セミナー」確認試験解説	内部監査養成セミナー確認試験の解説	年1回	86名
87	検査・輸血部予行会「イノムクロロ法によるHIT抗体測定の検討」他	学会発表に向けた予行発表	年1回	48名
88	検査・輸血部定期勉強会「検査・輸血部・教育・研究活動実施手順書」改訂のポイント」	手順書の理解度向上	年1回	65名
89	検査・輸血部予行会「Super Wide View, Sensor 3Dを用いた多発性囊胞腫モデルの計測」	学会発表に向けた予行発表	年1回	43名
90	検査・輸血部予行会「術中投与色素の混濁指數への影響: パラントブルーが混濁指數に正誤差を示した1例」	学会発表に向けた予行発表	年1回	48名
91	検査・輸血部予行会「心房細動例におけるVMTスコアによる左室充満率推定精度の検証」	学会発表に向けた予行発表	年1回	53名
92	2024年第3回QMS勉強会「業務改善規定」改訂のポイント」	規定の理解度向上	年1回	86名
93	検査・輸血部予行会「テントプレート・インジニアリングリーンが混濁・溶血判定に与える影響」	学会発表に向けた予行発表	年1回	38名
94	2024年第3回臨床検査セミナー「診断支援システムDSSのご紹介」	DSSに関する知識習得	年1回	50名
95	検査・輸血部定期勉強会「針刺し・切開吸引・粘膜吸引時の対応」	針刺し・粘膜吸引時の対応	年1回	61名
96	2024年第4回QMS勉強会、「情報システム管理規格第18版の改正点について」	規定の理解度向上	年1回	86名
97	検査・輸血部予行会「コンピューターシミュレーションによる比列誤差条件での回帰分析法の比較評価」	学会発表に向けた予行発表	年1回	51名
98	2024年第5回QMS勉強会「2024定期内監査終了報告」	ISO15189、規定の理解度向上	年1回	86名
99	検査・輸血部予行会「尿沈渣中に顆粒状・球状のキサンチン結晶が多数認められた!例」他	学会発表に向けた予行発表	年1回	47名
100	R6 (2024) 年度部内BLS/AED講習会「2024年度検査・輸血部BLS/AED講習会」	BLS/AEDの対応	年1回	71名

101	検査・輸血部予行会「Xpert M RSA/SA BC「セフィニエ」導入による、血清培養陽性患者への抗薬耐適正使用早期介入への評価」	学会発表に向けた予行発表	年1回	51名
102	検査・輸血部定期勉強会「2024年度日臨技検査精度管理調査統合報告会参加報告会」	精度管理の理解度向上	年1回	64名
103	2025年第1回QMS勉強会「リスクマネジメント規定6版改訂のポイントについて」	規定の理解度向上	年1回	86名
104	検査・輸血部予行会「『生理学的検査』におけるISO 15189認定維持と今後の課題」	学会発表に向けた予行発表	年1回	49名
105	2025年第2回QMS勉強会「2024年定期マネジメントレビュー報告会」	マネジメントレビューの周知	年1回	86名
106	検査・輸血部予行会「血線ドナーにおけるpegfilgrastimとdaily G-CSFの末梢血中に動員するCD34+細胞に与える影響」	学会発表に向けた予行発表	年1回	45名
107	2024(26)年度VR対応・災害発生時避難誘導部内研修会	VVR：災害時患者避難誘導の対応	年1回	75名
108	検査・輸血部定期勉強会「2024年度検査・輸血部学術奨励会受賞研究中間報告」	学術奨励会受賞研究中間報告	年1回	56名
109	ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム	エンド・オブ・ライフ・ケアや緩和ケアを提供できる看護師を育成する。	10月19日～28日	35名
110	看護センターセミナー	自施設の医療従事者が、がん対策の意義や支援制度、診療・連携体制について理解を深める機会を提供する。	年9回	計287名
111	放射線科学療法・動注療法・光免疫療法 講師：鈴木宗祥先生	手術全般および術後期管理の理解を深める	2025.1/27	8名
112	頭頸部手術（再造、喉頭全摘、下咽頭喉頭摘出術後の管理）講師：井戸川寛志先生	手術全般および術後期管理の理解を深める	2025.1/28	10名
113	出血、カニシーネ 講師：福田篤先生	手術全般および術後期管理の理解を深める	2024.11/19	8名
114	令和6年度HIV学習会	北海道エイズブロック拠点病院としての当院の役割やHIV陽性被害者支援・HIV感染者に関する情報を提供し院内のエイズ医療の向上及び均一化を図る。	4/1～3/31	503名
115	令和6年度HIV/AIDS院内出前研修	北海道エイズブロック拠点病院としての当院の役割やHIV陽性被害者支援・HIV感染者に関する情報を提供し患者受け入れの不安を軽減・院内のエイズ医療の向上及び均一化を図る。	年2回	30名

### 2 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修（業務の管理に関する研修の実施状況）

NO	研修名	主な内容	目的等	日程	参加人数
1	新任看護職員等「重症度、医療・看護必要度」研修	「重症度、医療・看護必要度（以下、看護必要度）」について理解し、評価できる	年1回	99名	
2	【看護師対象】看護補助者との協働推進のための研修	1. 看護職が看護補助者との協働推進のために必要な知識や考え方を理解する 2. 看護職が看護補助者に対し、現場での安全な業務実施の為の役割分担や業務指示に活用する	年1回	516名	
3	医療情報システム研修	医療情報システムについて理解する	年1回	92名	
4	新任リスクマネジャー集合講習会	新任リスクマネジヤーが知っておいてほしいこと、医療安全に関する知識と体制、役割	年2回	32名	
5	薬剤部ミドルマネージャー研修	ミドルマネージャーに求められるスキルを高め役割を発揮できる	年2回	28名	
6	医療技術部管理者研修会、これからの医療職に必要なマネジメント技術（鍵倉ケーショップの事例から）	チーム医療を推進するためリーダーシップを発揮できる人材の育成	2024.10.9	49名	

### 3 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修（他の医療機間に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況）

NO	研修名	主な内容	目的等	日程	参加人数
1	地域疾学ケア専門薬剤師研修	切れ目のない薬学ケアに対するため、幅広い領域の薬物療法における高度な知識、技術及び臨床能力を備えた信頼される薬剤師を養成する	年3・6回	1名	
2	地域緩和ケアネットワーク研修	患者さまの入退院時に病院の薬剤師や多職種と連携し、継続的な薬物療法が実践できる薬局薬剤師を養成する	年1回	1名	
3	薬連携講習会	外来患者さんにおけるがん化学療法の貢献上を目指し、病院と保険薬局の薬業連携をより強化させる	年1回	78名	
1	北海道肝疾患診療連携拠点病院等連絡会及び肝疾患専門医療従事者研修会（ハイブリッド開催）	北海道の肝炎対策について/肝疾患相談支援室の活動報告	年1回	112名	
2	札幌肝疾患フォーラム（ハイブリッド開催）	HCVのEliminationに向けて～病院・病診連携の必要性/肝疾患診療の最新の話題	年1回	101名	
3	肝炎医療コーディネーターフォーラムアップ研修会＆一般医療従事者研修会（現地開催）	北海道の肝炎医療コーディネーターに期待すること/活動の実際について/グループワーク	年1回	22名	
4	北海道肝炎医療コーディネーター養成研修会（現地開催）	北海道の肝炎医療コーディネーターを養成する	年1回	134名	
5	ウィルス性肝炎領域における北海道医療安全講習会	北海道内の医療機関において肝炎ウイルス検査結果の各分野における特徴、特にどうした患者を専門医会診に要げる仕組みの構築化と肝疾患症例予防及び重症化を予防する事	年1回	138名	
6	肝炎医療コーディネーターフォーラムアップ研修会＆一般医療従事者研修会（オンライン配信）	北海道の肝炎医療コーディネーターに期待すること/活動の実際について	年1回	230回	
7	北海道肝疾患医療従事者研修会（オンライン配信）	最新の肝疾患診療について	年1回	119名	
8	令和6年度北海道エイズブロック医療拠点病院HIV/AIDS看護師研修会	HIV感染者に関する情報を提供、患者受け入れの不安を軽減や北海道内のエイズ医療の水準の向上及び均一化を図る。	年2回	449名	
9	令和6年度北海道HIV/AIDS医療者研修会	HIV感染者に関する情報を提供、北海道内のエイズ医療の水準の向上及び均一化を図る。	年1回	58名	
10	北海道エイズブロック医療拠点病院HIV/AIDS看護師研修 基礎レベル研修	HIV感染者看護に必要な基礎知識を学び、実践に活かせる看護師を育成する。	年1回	8名	
11	令和6年度北海道エイズ拠点病院看護師研修会	生活習慣病などの慢性和疾患を合併しているHIV陽性者に必要な看護を学び、日々の看護実践に活かす。	年1回	11名	
12	令和6年度北海道HIVカウンセラー専門職研修	HIV心理臨床における支援スキルの向上を目指す。	年1回	10名	
13	令和6年度北海道HIV担当ソーシャルワーカー専門職研修会	HIV感染者支援における基本的な支援と社会資源の活用を学び、実践的な支援スキルの向上を目指す。	年1回	10名	
14	病院研修（心エコニー室）	症例の見学および検査、カンファレンス参加	計21回	1名	

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 南須原 康行
管理担当者氏名	総務課長 医事課長 医療支援課長 薬剤部長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院日誌は総務課にて適切に保管している。</li> <li>・診療録を病院外に持ち出す際の取扱いについては、「北海道大学病院における個人情報管理に関するガイドライン」を定め、個人が特定できる情報については、個人情報保護管理区域外への一切の持出しを禁止し、相当程度に個人の特定が困難な情報については、保護管理者への届出を行った上でパスワードロックを用いた媒体でのみ持ち出しを許可している。</li> <li>・カルテは電子カルテと紙カルテの2種類を管理及び保管している。</li> <li>・平成22年に電子カルテを導入し、それ以前の紙カルテについては、5年間の保存期間を設けて診療録管理室にて保管している。また、紙媒体で生成される説明承諾書等については、スキャニングして電子カルテに取り込み、かつ、原本も保管している。</li> </ul>
	各科診療日誌	各診療科	
	処方せん	薬剤部	
	手術記録	診療録管理室	
	看護記録	診療録管理室	
	検査所見記録	診療録管理室	
	エックス線写真	診療録管理室	
	紹介状	診療録管理室	
病院の管理及び運営に関する諸記録 規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療録管理室	<ul style="list-style-type: none"> <li>各課において適切に保管している。</li> </ul>
	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課、経営企画課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課、経営企画課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	経営企画課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営企画課、薬剤部	
則規	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課	適切に保管している。

	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医療支援課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録  規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課	適切に保管している。
	院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課	
	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	医療支援課	
	医薬品安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療支援課	
	医薬品の安全使用のために必要な未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	医療支援課	
	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療支援課	
	医療機器の安全使用のために必要な情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	医療支援課	

		保管場所	管理办法
病院の管理及び運営に関する諸記録  規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課	各課において適切に保管している。
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課	
	医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療支援課	
	医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療支援課	
	診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療録管理室	
	医療安全管理部門の設置状況	医療支援課	
	高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課	
	未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
	監査委員会の設置状況	医療支援課	
	入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課	
	他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	
	医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療支援課	
	職員研修の実施状況	医療支援課	
	管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課	
管理者が有する権限に関する状況	総務課、経営企画課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理办法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	総務課長 中嶋 治
閲覧担当者氏名	総務課係長 酒井 広
閲覧の求めに応じる場所	総務課事務室
閲覧の手続の概要 利用者は必要に応じ、文書により閲覧責任者に閲覧を申し出、閲覧担当者は閲覧責任者に確認のうえ閲覧に応じる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延 0 件
閲 覧 者 別	医師 延 0 件
	歯科医師 延 0 件
	国 延 0 件
	地方公共団体 延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容 :</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本院の医療安全管理に関する基本的な考え方</li> <li>2. 医療に係る安全管理のための委員会等に関する組織の基本的事項</li> <li>3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本的事項</li> <li>4. 医療機関における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 医療従事者と患者間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>7. 患者等からの相談に関する基本方針</li> <li>8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無 ( 有 )</li> <li>・ 開催状況 : 年12回</li> <li>・ 活動の主な内容 :</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理上の問題が発生した場合の対応ならびに原因究明のための調査および分析に関すること</li> <li>2. 医療安全確保を目的とした改善の方策の立案および実施に関すること</li> <li>3. 医療安全確保を目的とした方策の職員への周知に関すること</li> <li>4. 医療安全確保を目的とした方策の実施状況の把握および必要に応じた方策の見直しに関すること</li> <li>5. 医療安全に関わる職員の教育・研修に関すること</li> <li>6. 医療事故報告等に関する改善の方策に関すること</li> <li>7. その他医療事故等に関すること</li> </ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年5回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容 (すべて) :</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全に関する講演会 「採血・穿刺時の神経損傷予防」(2019年度講演会の録画) ・受講方法 : エルゼビア社のe-ラーニングツール「Safety Plus」による受講</li> <li>2. 医療安全・感染管理に関する講習会(必修研修) 「2023年度のインシデントを振り返って」「北海道大学病院における個人情報管理」「新型コロナウイルス感染症5類化を振り返る」「抗菌薬適正使用について」 ・受講方法 : 受講方法 : 対象者を制限した集合形式、エルゼビア社のe-ラーニングツール「Safety Plus」による受講</li> <li>3. 医療安全・感染管理に関する講習会(必修研修) 「応招(召)義務について」「BLSとAEDの取り扱いについて」「医療器具関連感染サーベイランスについて」「抗菌薬適正使用について」 ・受講方法 : 受講方法 : 対象者を制限した集合形式、エルゼビア社のe-ラーニングツール「Safety Plus」による受講</li> <li>4. 医療安全の日講演会 「患者の立場からみた医療安全の未来」 ・受講方法 : 全職員を対象とした集合形式、エルゼビア社のe-ラーニングツール「Safety Plus」による受講</li> <li>5. 医療安全に関する講演会 「令和6年度 歯科インシデントより」 ・受講方法 : 対象者を制限した集合形式</li> </ol>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有）
- ・ その他の改善の方策の主な内容：

1. 報告書に伴う問題点の把握方法（各部署、安全管理部門の問題点の認識）

） インシデント報告に関する分析からフィードバックまでの対応（職員への周知と再発防止）

- 1) 専任リスクマネジャー（G RM）が当該リスクマネジャー（RM）へ事実確認を行い、報告内容の監査・分析を行い、問題事例や有害事象の場合、当該RMとの検討、患者の影響度、患者への対応状況などを協議し対応している。
- 2) レベル3 b の有害事象の場合は、当該部署のRMに当該部署として検討を行った結果と再発防止策について、事例報告書として詳細報告を要請し、事例報告書に基づき原因・起因を分析し、病院長に報告している。
- 3) レベル4、5の有害事象は、G RMが聞き取り・現場検証などの事実調査を行い、当該RM・関係者との事象の検討、患者の影響度、患者への対応などを協議している。G RMが作成した検証資料に基づき、病院長・医療安全管理部長・当該部署の責任者とRMにより原因検討を行い、重篤な事案の場合は医療事故対策部会で原因検討の上、病院の見解を明確にしている。

2. 問題点の分析方法（各部署、安全管理部門の問題点の分析方法）

- 1) 必要な事例については、専門分野の委員を指名し、WG、院内医療事故検討会を設置し、原因分析・再発防止策を作成する。
- 2) レベル3 a 以上の報告は、毎週月曜日にインシデントレポート検討・判定会において、レベル・過誤の判定と合併症の妥当性の検討を行うとともに、報告内容を分析し、原因と患者への影響度を検討し、医療事故報告制度への報告対象事例の判定を行っている。

3. 改善策の検討方法

- 1) 報告の全体的分析は、毎月と年間において実施し、発生レベル・報告状況場面別に集計し、発生場面別や職種別の発生状況について定量的分析を行い「医療安全に関する報告集計」を作成し、各委員会に周知を図っている。また、病院運営会議においても報告し、周知を図っている。
- 2) 各診療科・部署の安全管理を図るために、前年度の当該診療科・部署での報告について年間集計し、当該診療科・部署での優先的課題を分析し、年度前半で、診療科・部署RM等で対策を検討し、年度末に再度、今年度の当該診療科・部署での報告について集計し、優先的課題の評価を実施し、次年度に向けて継続事項を検討している。
- 3) 医薬品・医療機器に関する事象については、関係専門委員会で再発防止策を検討し、システム改善・教育体制などの企画を検討している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： 北海道大学病院 院内感染対策指針は以下の項目から成っている。</li> </ul>	
1 院内感染対策に関する基本的な考え方	
2 院内感染対策に関する管理組織機構	
(1) 院内感染対策委員会	
(2) 院内感染対策特別部会	
(3) 感染制御部	
(4) インフェクションコントロールチーム (ICT)	
(4) -2 感染防止対策チーム	
(5) 抗菌薬適正使用支援チーム (AST)	
(6) 感染対策マネージャー連絡会議	
3 職員研修に関する基本方針	
4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針	
5 アウトブレイクあるいは異常発生時の対応に関する基本方針	
6 抗菌薬適正使用に関する基本方針	
7 患者等への情報提供と説明に関する基本方針	
8 感染対策に関する地域連携への取り組み	
9 その他院内感染対策の推進のために基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：</li> <li>・ 院内感染防止対策の検討及び推進</li> <li>・ 院内感染防止の対応及び原因究明</li> <li>・ 院内感染等の情報収集及び分析</li> <li>・ 院内感染防止等に関する職員の教育・研修</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 20 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）： 【別紙】令和6年度 感染防止に関する教育活動計画 参照</li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有） 「感染症のアウトブレイク発生に伴う保健所への報告基準」を制定し、保健所や大学内の報告に係る基準及び方法等について整備済みである。（平成23年6月17日医政指発第1号に基づき、平成23年8月25日病院執行会議において承認）</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ その他の改善の方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染防止対策チームを設置して、院内感染状況、抗菌薬の適正使用、職員の感染防止策等の実施状況の把握と指導を行っている。</li> <li>・ 耐性菌サーベイランス、COVID-19等、感染症法に基づく院内感染症発生状況の迅速な把握と対応を行っている。</li> <li>・ 加算2・3を算定する各連携医療機関とのカンファレンスおよび加算1の連携医療施設と加算2・3の連携医療施設（各加算1連携医療施設の加算2・3医療連携施設を含む）合同カンファレンスの開催等により市内の医療機関および札幌市保健所との連携を図っている。</li> <li>・ 感染制御部専任の事務補佐員（非常勤職員）1名を継続して配置し、平成24年7月から事務職員（常勤職員）1名を配置した。</li> <li>・ 平成28年11月から、感染制御部専従の看護師1名を新たに配属した。</li> <li>・ 平成30年12月から、感染制御部専従の薬剤師1名を新たに配属した。</li> <li>・ 令和3年1月から、感染制御部専任の医師（助教）1名を新たに配属した。</li> <li>・ 令和6年2月から、全手術症例のSSIサーベイランスを開始した。</li> </ul> </li> </ul>	
<p>令和6年7月から、全部署対象の医療器具関連感染サーベイランス（中心ライン関連血流感染、カテーテル関連尿路感染、人工呼吸器関連肺炎、人工呼吸器関連イベントの4項目）を開始した。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年6回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :</li> </ul>	
1. 研修医オリエンテーション「処方全般」（医科） 開催回数：1回（2024年4月資料配布のみ）、対象：研修医  研修歯科医オリエンテーション 「医薬品安全使用講義」（歯科） 開催回数：1回（2024年4月 対面講義）	
2. 初任職員オリエンテーション「薬剤の知識とリスクマネジメント」 開催回数：1回（オンデマンド）、対象：薬剤部、看護部、医療技術部、事務部所属職員	
3. 医薬品に関する講習会「危険薬の取扱い」 開催回数：2回（2024年8月21日、8月28日）、対象：看護師他、その後部署に戻り伝達講習	
4. 異動後医師研修「危険性の高い薬剤の取り扱い」 開催回数：1回（オンデマンド）、対象：医師（対象年度に新たに北大病院に採用・転入した 医師）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 （有）</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容 :</li> </ul>	
医薬品安全使用に関する手順書 1) 医療安全上、注意を要する薬剤リスト (1) 特に安全管理が必要なリスト (2) 配合注意・投与ルートで注意を要する注射薬 (3) 誤認に注意が必要な薬剤 2) 指示・伝達ルール (1) 指示・伝達ルール (2) 口頭指示は原則禁止 3) 内服薬に関する管理基準 (1) 内服薬管理基準 (2) 薬剤管理指導業務手順書 (3) 入院患者の持参薬確認業務手順書 (4) 誤調剤に対する調剤室対応手順 4) 注射薬に関する管理基準 (1) 注射業務管理基準 (2) 注射薬混合調製（ミキシング）手順書 5) 危険性の高い薬剤に関する手順書 (1) 危険性の高い薬剤の取扱い手順書 (2) カリウム注射剤取り扱いマニュアル (3) アナフィラキシーショックへの対応 (4) 抗凝固・抗血小板療法施行における出血性合併症および処置・手術時の対応 6) 抗がん薬に関する手順書 (1) 院内がん化学療法要項 (2) がん化学療法実施運用手順書 (3) 抗がん薬被爆防止に関するマニュアル (4) 院内におけるがん化学療法の安全性に関する取り決め (5) 血管外漏出およびアレルギー反応発生時の対応について 7) 医療安全情報管理 (1) 医療安全性情報管理体制 (2) 薬剤部における医薬品情報管理マニュアル 8) 医薬品管理 (1) 病棟における注射剤管理業務手順書	

- (2) 病棟における薬剤業務基準
- (3) 麻薬管理取扱い手順書
- (4) 手術部における薬剤業務手順書（周術期薬剤管理）
- (5) 放射性医薬品に関する手順書
- (6) 院内製剤に関する手順書
- 9) インスリン療法マニュアル
  - (1) インスリン療法マニュアル
  - (2) インスリンラインナップ
  - (3) 各製剤の使い方
  - (4) 参考資料
- 10) 医薬品の採用に関する手順書
- 11) 他施設との連携に関する手順書

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( 有 )
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：

- 1) 1%パテントブルー；センチネルリンパ節の同定 (32件)
- 2) オメガベン；栄養吸収障害の対応 (1件)
- 3) シドフォビル、プロベネシド；アデノウイルス感染症 (1件)
- 4) 厚生労働省エイズ治療薬研究班供給の各種薬剤；HIV感染症関連の治療 (1件)

- ・ その他の改善の方策の主な内容：
- ・ 医薬品の情報管理体制として、薬剤部における医薬品情報管理手順を作成し、それに基づき、日本医療機能評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」として、医薬品医療機器総合機構（PMDA）からの医療安全情報は「PMDA医療安全情報」「緊急安全性情報」「安全性速報」「PMDAから医薬品適正使用のお願い」としてメールにより診療科・部門に提供している。また、関係機関からの医薬品に関する情報、新聞報道からの事故情報などは「緊急情報提供と点検のお願い」にて情報提供とともに現場での業務点検を依頼している。
- ・ 医薬品に関するインシデント集計・分析結果により、専門委員会やワーキング等で医薬品に関するインシデント防止対策や講習会内容の検討を行っている。
- ・ 未承認薬に関して、未承認新規医薬品等管理部において当院で使用したことのない医薬品または高度管理医療機器であって「医薬品医療機器法」による承認または認証を受けていないものの提供に関する申請の受理および提供の可否について審査する体制としている。
- ・ 適応外使用に関しては、薬剤部においては調剤時に確認・記録を実施している。また、医薬品適応外使用（禁忌含む）の把握と申請の徹底を図るため、医薬品適正使用ワーキングを通じて申請状況を親委員会である医薬品安全管理体制専門委員会に諮ることとなっている。また、薬剤部においては適応外ならびに禁忌薬使用状況を疑義照会履歴等で定期的に同委員会に報告し、問題がある場合は適宜、委員会から指導を行う体制としている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	M E 機器管理センター：安全対策として令和6年7月1日から令和7年2月28日までにeラーニング形式で定期研修を開催した。 放射線部：年4回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容： (M E 機器管理センター) 生命維持管理装置はEラーニングで実施しテスト3問とアンケート調査を実施した。</li> </ul>	
<p>1. 人工心肺装置・ECMO装置UNIMOを中心とした基礎的内容・テスト3問・アンケート 計33名：医師・歯科医師（6名）看護師（22名）看護助手（1名）救急救命士（4名）</p> <p>2-1. 人工呼吸器：人工呼吸器SERVO airを中心とした基礎的内容・テスト3問・アンケート 計137名：医師・歯科医師（4名）看護師（127名）救急救命士（6名）</p> <p>2-2. 人工呼吸器・人工呼吸器Servo iを中心とした基礎的内容・テスト3問・アンケート 計67名：医師・歯科医師（4名）看護師（60名）理学療法士（2名）救急救命士（1名）</p> <p>3. 血液浄化装置・透析装置（維持透析）を中心とした基礎的内容・テスト3問・アンケート 計55名：医師・歯科医師（6名）看護師（44名）理学療法士（1名）救急救命士（4名）</p> <p>4. 除細動器・手動式除細動器（AEDを除く）の基礎的内容・テスト3問・アンケート 計184名：医師・歯科医師（15名）看護師（162名）理学療法士（1名）救急救命士（5名）</p> <p>5. 閉鎖式保育器・閉鎖式保育器の基礎的内容・テスト3問・アンケート 計18名：医師・歯科医師（4名）看護師（13名）理学療法士（1名）</p> <p>（放射線部）</p> <p>9. 診療用高エネルギー放射線発生装置（2024/12/23, 2025/2/18）</p> <p>10. 診療用放射線照射装置（2024/12/3）</p> <p>11. 陽子線治療装置（2024/12/23）</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器に係る計画の策定（有）</li> <li>機器ごとの保守点検の主な内容：</li> </ul> <p>(M E 機器管理センター)</p> <p>院内で汎用性ある医療機器については中央管理による保守点検に関する計画の策定と点検を実施し、検査輸血部・放射線部・超音波センターは部門内で計画を策定し実施している。</p> <p>その他として、単一診療科や病棟で使用する医療機器は医療機器感染管理体制専門委員会で見落としが無いように医療機器の資産台帳と照合したうえで、使用状況と廃棄の可能性および保守点検の必要性を年1回アンケート調査で計画を策定し点検を実施している。</p> <p>（放射線部）</p> <p>放射線治療機器における、①始業点検、②2回/月以上の出力線量測定、③3ヶ月及び6ヶ月毎に放射線特性及び幾何学的点検、④漏洩線量等の放射線管理に関する測定を実施している。</p> <p>他に製造メーカーと保守契約を結び年間4回の定期メンテナンスを実施している。</p>	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集  
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有 )  
・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) : 該当なし
- ・ その他の改善の方策の主な内容 :

(ME機器管理センター)

医療機器安全管理体制専門委員会から年1回の院内通知で目的外・適応外使用を調査する。  
調査期間以外については各診療科からの相談と申請がある際に医療機器安全管理体制専門委員会  
で審議し把握している。

(放射線部)

月に1回定例で放射線治療品質管理会議を開催。放射線科治療医、医学物理士、診療放射線技師で  
情報共有を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

## 規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

<p>① 医療安全管理責任者の配置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・責任者の資格（医師・歯科医師）</li> <li>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</li> </ul> <p>医療安全管理責任者として、副病院長（医療安全担当）（医師）を配置し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	有
<p>② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況</p>	有（10名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 薬剤部において、医薬品情報の整理、周知及び周知状況の確認の徹底並びに適応外、禁忌等の処方に係る確認等については、薬剤師を指名して同様の業務を実施している。</li> <li>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 薬剤部において、医薬品情報の整理、周知及び周知状況の確認の徹底並びに適応外、禁忌等の処方に係る確認等については、薬剤師を指名して同様の業務を実施している。</li> <li>・担当者の指名の有無（有）</li> <li>・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部，職種 薬剤師 4名) (所属：          , 職種          ) (所属：          , 職種          ) (所属：          , 職種          ) (所属：          , 職種          ) (所属：          , 職種          ) (所属：          , 職種          ) (所属：          , 職種          )</li> </ul>	
<p>④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有）</li> <li>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 ：インフォームド・コンセントについては、院内マニュアルに沿って実施し、診療録管理室が現状のモニタリングを行い、指導等を行っている。また、説明する機会も増えていることから、関連部門（各診療科・看護部）・医療安全管理部と協議してマニュアルの改正等（要項を含む）があれば、職員に周知する。</li> </ul>	有

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容 :</li> </ul> <p>診療録の記載内容の確認について、毎年、各部署の診療録点検を実施し指導している。</p> <p>また、点検結果をリスクマネジャー連絡会議において報告し、各部署へ周知し、適切に診療録等の管理が行われるようにしている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属職員：専従（4）名、専任（2）名、兼任（6）名           <ul style="list-style-type: none"> <li>うち医師：専従（1）名、専任（2）名、兼任（3）名</li> <li>うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名</li> <li>うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（0）名</li> </ul> </li> </ul> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の主な内容 :</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療事故及びインシデント（以下「医療事故等」という。）報告の受理及び分析に関すること。</li> <li>2 医療安全管理委員会の運営並びにその記録等の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。</li> <li>3 リスクマネジャー連絡会議の運営並びにその記録等の作成及び保存、その他リスクマネジャー連絡会議の庶務に関すること。</li> <li>4 医療安全に関する教育及び研修に関すること。</li> <li>5 医療現場からの医療事故等の相談に関すること。</li> <li>6 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載内容の確認及び指導に関すること。</li> <li>7 医療事故等の発生時における患者又はその家族への対応状況の確認及び必要な指導に関すること。</li> <li>8 医療事故等に対する原因究明の実施状況確認及び必要な指導に関すること。</li> <li>9 医療安全に係る連絡調整に関すること。</li> <li>10 医療安全の確保に資する診療の状況の把握に関すること。</li> <li>11 職員の医療安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること。</li> <li>12 その他医療安全対策の推進に関すること。</li> </ol> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（14件）、及び許可件数（14件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
  - 1 高難度新規医療技術の提供に関する実施申請の受理及び提供の可否について審査すること。
  - 2 高難度新規医療技術の実施における手順等の遵守状況の確認に関すること。
  - 3 その他高難度新規医療技術に関すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
  - 1 未承認新規医薬品等の提供に関する申請の受理及び提供の可否について審査すること。
  - 2 未承認新規医薬品等の提供に関する実施状況の確認に関すること。
  - 3 その他未承認新規医薬品等に関すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年226件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年129件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- 1 医療安全管理上の問題が発生した場合の対応並びに原因究明のための調査及び分析に関すること。
- 2 医療安全確保を目的とした改善の方策の立案及び実施に関すること。
- 3 医療安全確保を目的とした方策の職員への周知に関すること。
- 4 医療安全確保を目的とした方策の実施状況の把握及び必要に応じた方策の見直しに関すること。
- 5 医療安全に関わる職員の教育・研修に関すること。
- 6 医療事故報告等に関する改善の方策に関すること。
- 7 その他医療事故等に関すること。

#### ⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：京都大学医学部附属病院））
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：東京大学医学部附属病院））
- ・技術的助言の実施状況
  - 1 インシデントやアクシデントの報告等の状況
    - ・重大事例への対応について、医療事故に該当する可能性のある死亡事例については、24時間体制でGRMに電話連絡する仕組みがある。
    - ・死亡診断書発行時に提出される死亡報告や死亡前でも報告されうるインシデントレポートの内容を医療安全部門が把握しており、医療事故に該当する可能性がある場合には病院長に翌日までに報告されると共に、医療事故対策部会が迅速に開催され、医療事故への該当性の判断もされている。
    - ・仮に医療事故に該当しない場合も、重要事例については院内医療事故検討会で検証、分析、再発防止が検討され、必要があれば外部委員を招聘した会議が開催される。
    - ・死亡事例ではない重要事例に関しても検証、再発防止につなげる体制があることは評価に値すると考えられる。
    - ・医療事故事例の覚知に関する悉皆性、迅速性が確保されており、医療事故への該当性の判断に関しても適切な体制が構築されている。
    - ・病院として重要な事例を確認・検証し、対応の意思決定を行うプロセスは確立しているといつてよいと考える。
  - 2 医療安全管理委員会の業務の状況
    - ・再発防止・改善策が医療安全管理委員会で報告されると共に、リスクマネジャーミーティングで周知される仕組みが機能している。
  - 3 医薬品等の安全使用体制の状況（医薬品安全管理責任者の業務等）

- ・医薬品安全管理責任者を中心として医療安全管理部門との密接な連携のもと、適切な医薬品の安全管理体制が構築されている。特に適応外使用については、リスク評価および倫理的な審査の必要性を検討するためのWGが設置されており、基準に基づく協議がされていること、申請を促す仕組みがある。

#### 4 高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門の運用状況

- ・評価委員会は多職種で構成され人数も多い。専門よりかけ離れた分野の審査は難しく、的外れなコメントを出してしまう可能性があることから、審査ごとに専門性を考えて2名ほど委員を加えていることは、審査が円滑に適切に行われるのに大きく役立っている。
- ・高難度新規技術を適切な手続きを経て実施することがいかに重要であるかを院内に周知することについても検討していただきたい。

#### 5 監査委員会業務の結果及び監査委員会からの指摘への対応状況

- ・外部監査委員会の開催状況および同委員会の業務内容について、法令で求められている事項について適切に実施されている。患者相談窓口と医療安全管理部の合同会議の定期開催が評価されているなど、望ましい取り組みが実践されている。

#### ⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

##### ・体制の確保状況

患者相談室を設置し、医療支援課が対応している。医療支援課長が業務を総括している。窓口の周知方法は、外来ホールにポスターを掲示し周知している。なお、医療安全に係る情報は、G R Mに連絡し、調査を行う。また、医療の質向上推進室と患者相談窓口・医療安全管理部合同会議を月1回開催し、情報を共有している。

#### ⑫ 職員研修の実施状況

##### ・研修の実施状況

###### 1. 医療安全に関する講演会

「採血・穿刺時の神経損傷予防」（2019年度講演会の録画）

###### 2. 医療安全・感染管理に関する講習会（必修研修）

「2023年度のインシデントを振り返って」「北海道大学病院における個人情報管理」「新型コロナウイルス感染症5類化を振り返る」「抗菌薬適正使用について」

3. 医療安全・感染管理に関する講習会（必修研修）

「応招（召）義務について」「BLSとAEDの取り扱いについて」「医療器具関連感染サーベイランスについて」「抗菌薬適正使用について」

4. 医療安全の日講演会

「患者の立場からみた医療安全の未来」

5. 医療安全に関する講演会

「令和6年度 歯科インシデントより」

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：2024.11.26（継続）

医療安全管理責任者：2024.11.26 受講済（継続）

医薬品安全管理責任者：2025.2.3 受講済（継続）

医療機器安全管理責任者：2024.11.26 受講済（継続）

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療評価機構が実施する病院機能評価（一般病棟3）を受診（2024年3月～）

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

日本医療評価機構を通じ公表 ([https://www.report.jcqhc.or.jp/detail/id=4315#sinsa\\_kekka](https://www.report.jcqhc.or.jp/detail/id=4315#sinsa_kekka))

・評価を踏まえ講じた措置

審査結果報告書における評価Cの項目に関し、改善の取組を実施し、補充的審査を受診した結果、全ての項目に関し、改善が承認されB評価を取得した（認定第JC1559-4号、認定証公布日：2025年8月22日）。

(注) 記載時点の状況を記載すること

## 令和6年度 感染防止に関する教育活動計画

職員必修講演会

2025年3月31日 感染制御部

### 1. 職員対象

	研修区分	開催月日	対象者	参加人数	時間	内容	確認テスト正答率
1	臨床研修医 オリエンテーション (医科)	4月1日(月) 10時15分 ～ 11時15分 臨床研修センター セミナー室	医科臨床研修医 (※4月1日付採用者)	12名	60分	講義:感染対策研修 講師:感染制御部長 石黒 信久	—
2	研修歯科医 オリエンテーション	4月1日(月) 13時40分 ～ 14時40分 多職種連携教育研 究棟5Fセミナー室	歯科臨床研修医	42名	60分	講義:院内感染予防対策(総論・各論) 講師:感染制御部長 佐藤 淳	—
3	初任職員研修看護部 オリエンテーション	4月1日(月) 14時45分 ～ 15時15分 臨床大講堂	①看護師 ②看護補助者	①92名 ②1名 合計93名	30分	講義:感染対策と体調管理 講師:感染管理認定看護師 小山田 玲子	—
4	令和6年度北海道大学 初任職員オリエンテーション	4月1日(月) ～ 5月31日(金) e-ラーニング	①看護師 ②看護補助者	①92名 ②1名 合計93名	23分	講義:北大病院の感染制御(COVID-19への対応) 講師:感染制御部長 石黒 信久	—
5	令和6年度異動後医師研修	4月12日 ～ 7月31日 e-ラーニング	医師 (※4月1日付採用者)	46名	8分	講義:北大病院の感染制御 講師:血液内科/感染制御部副部長 遠藤 知之	—
6	令和6年度異動後医師研修	4月12日 ～ 7月31日 e-ラーニング	医師 (※中途採用者)	0名	8分	講義:北大病院の感染制御 講師:血液内科/感染制御部副部長 遠藤 知之	—
7	初任職員オリエンテーション	4月5日 ～ 8月15日 e-ラーニング	①医療技術部 ②薬剤部 ③事務部 (※4月1日付採用者)	①26名 ②4名 ③22名 合計52名	23分	講義:北大病院の感染制御(COVID-19への対応) 講師:感染制御部長 石黒 信久	—
8	初任職員オリエンテーション	4月5日 ～ 8月15日 e-ラーニング	①医療技術部 ②事務部 ③看護師 (※中途採用者)	①7名 ②1名 ③2名 合計10名	23分	講義:北大病院の感染制御(COVID-19への対応) 講師:感染制御部長 石黒 信久	—
9	中途採用看護師 オリエンテーション	5月1日(水) 9時00分 ～ 10時00分 看護部会議室	①看護師 ②看護補助者	①1名 ②1名 合計2名	60分	講義:感染管理について 講師:感染管理認定看護師 小山田 玲子	—
10	BSIサーベイランス フィードバック(ICU)	5月27日(月) 16時30分 ～ 17時00分 ICUナースセンター	ICU職員	①医師4名 ②看護師13名 ③臨床工学技士1名 合計18名	30分	講義:BSIサーベイランスフィードバック 講師:感染管理認定看護師 林 貴皓	—

## 令和6年度 感染防止に関する教育活動計画

11	特定行為研修 臨床薬理学 感染症	5月28日(火) 16:00 ～ 17:30 クリニックシミュレーションセンターセミナー室G	看護師	2名	90分	講義:特定行為研修 感染症 講師:感染制御部薬剤師 新沼 悠介	—
12	第1回専門領域別研修会	5月30日(木) 17時30分 ～ 18時30分 第2ゼミナール室	看護職員	合計13名	60分	講義:標準予防策を理解し実践できる医療者になる! 講師:感染管理認定看護師 林 貴皓	—
13	中途採用看護師 オリエンテーション	6月3日(月) 9時00分 ～ 10時00分 看護部会議室	①看護師 ②看護補助者	①1名 ②1名 合計2名	60分	講義:感染管理について 講師:感染管理認定看護師 小山田 玲子	—
14	第1回医療安全管理部・ 感染制御部合同講演会	7月10日(水) 17時30分 ～ 18時40分 臨床大講堂	リスクマネジャー サブリスクマネジャー 感染対策マネージャー 感染対策サブマネージャー	133名	70分	1)2023年度のインシデントを振り返って 医療安全管理部長 南須原 康行 2)個人情報保護について 医療安全管理部長 南須原 康行 3)抗菌薬適正使用について 感染制御部薬剤師 新沼 悠介 4)新型コロナウイルス感染症5類化を振り返る 感染制御部長 石黒 信久	正答率 1)96.9% 2)99.2% 3)98.4% 4)93.8%
15	第2回専門領域別研修会	7月18日(木) 17時30分 ～ 18時30分 第2ゼミナール室	看護職員	合計13名	60分	講義:感染症に強くなる 講師:感染管理認定看護師 林 貴皓	—
16	第1回医療安全管理部・ 感染制御部合同講演会	8月29日 ～ 11月6日 e-ラーニング (Safety Plus)	病院全職員 ①医師・歯科医師 ②看護師 ③中央診療部門 (薬剤師/検査技師など) ④事務 ⑤その他	2,830名	60分	1)2023年度のインシデントを振り返って 医療安全管理部長 南須原 康行 2)個人情報保護について 医療安全管理部長 南須原 康行 3)抗菌薬適正使用について 感染制御部薬剤師 新沼 悠介 4)新型コロナウイルス感染症5類化を振り返る 感染制御部長 石黒 信久	正答率 1)100% 2)100% 3)100% 4)100%
17	中途採用看護師 オリエンテーション	1月6日(月) 9時00分 ～ 10時00分 看護部会議室	看護師	1名	60分	講義:感染管理について 講師:感染管理認定看護師 小山田 玲子	—
18	第2回医療安全管理部・ 感染制御部合同講演会	1月14日(火) 17時30分 ～ 18時40分 臨床大講堂	リスクマネジャー サブリスクマネジャー 感染対策マネージャー 感染対策サブマネージャー	97名	70分	1)応召義務について 医療安全管理部長 南須原 康行 2)BLSとAEDの取扱について 救急救命士 坂 佳代子 3)医療器具関連感染サーベイランスについて 感染管理認定看護師 林 貴皓 4)抗菌薬適正使用について 感染制御部薬剤師 新沼 悠介	正答率 1)98.9% 2)92.6% 3)97.9% 4)93.7%
19	中途採用看護補助者 オリエンテーション	3月5日(水) 9時00分 ～ 10時00分 看護部会議室	看護補助者	1名	60分	講義:感染管理について 講師:感染管理認定看護師 小山田 玲子	—
20	第2回医療安全管理部・ 感染制御部合同講演会	2月3日 ～ 4月6日 e-ラーニング (Safety Plus)	病院全職員 ①医師・歯科医師 ②看護師 ③中央診療部門 (薬剤師/検査技師など) ④事務 ⑤その他	2,721名	60分	1)応召義務について 医療安全管理部長 南須原 康行 2)BLSとAEDの取扱について 救急救命士 坂 佳代子 3)医療器具関連感染サーベイランスについて 感染管理認定看護師 林 貴皓 4)抗菌薬適正使用について 感染制御部薬剤師 新沼 悠介	正答率 1)100% 2)100% 3)100% 4)100%

## 規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準	有
・ 基準の主な内容 医療法第10条に規定する者であつて、人格が高潔で、学識に優れ、かつ、組織管理能力等の病院を管理する上で必要な資質及び能力並びに医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること。	
・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有） ・ 公表の方法 本学ホームページで公表。	

## 規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有） ・ 公表の方法 本学ホームページで公表				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
山口 淳二	北海道大学理事	○	総長が指名する理事	無
畠山 鎮次	北海道大学大学院医学研究院		医学研究院長	無
網塚 憲生	北海道大学大学院歯学研究院		歯学研究院長	無
渥美 達也	北海道大学病院		病院長	無
田中 伸哉	北海道大学大学院医学研究院		医学研究院教授会が推薦する教授	無
本間 明宏	北海道大学大学院医学研究院		医学研究院教授会が推薦する教授	無
佐藤 嘉晃	北海道大学大学院歯学研究院		歯学研究院教授会が推薦する教授	無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有																																								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容           <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理上の問題が発生した場合の対応並びに原因究明調査及び分析に関すること。</li> <li>2. 医療安全確保を目的とした改善の方策の立案及び実施に関すること。</li> <li>3. 医療安全確保を目的とした方策の職員への周知に関すること。</li> <li>4. 医療安全確保を目的とした方策の実施状況の把握及び必要に応じた方策の見直しに関するこ と。</li> <li>5. 医療安全に関わる職員の教育・研修に関すること。</li> <li>6. 医療事故報告等に関する改善の方策に関すること。</li> <li>7. その他医療事故等に関すること。</li> </ol> </li> <li>・審議の概要の従業者への周知状況           <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院運営会議</li> <li>2. リスクマネジャー連絡会議</li> </ol> </li> <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無（無）</li> <li>・公表の方法</li> <li>・外部有識者からの意見聴取の有無（無）</li> </ul>																																									
合議体の委員名簿																																									
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">氏名</th> <th style="text-align: center;">委員長 (○を付す)</th> <th style="text-align: center;">職種</th> <th style="text-align: center;">役職</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>南須原 康行</td> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="radio"/></td> <td>医師</td> <td>病院長</td> </tr> <tr> <td>今野 哲</td> <td></td> <td>医師</td> <td>副病院長／医療安全管理責任者</td> </tr> <tr> <td>大廣洋一</td> <td></td> <td>歯科医師</td> <td>副病院長</td> </tr> <tr> <td>堀田 記世彦</td> <td></td> <td>医師</td> <td>医療安全管理部長／ ゼネラルリスクマネジャー (医師)</td> </tr> <tr> <td>根岸 淳</td> <td></td> <td>歯科医師</td> <td>医療安全管理部副部長／ ゼネラルリスクマネジャー (歯科医師)</td> </tr> <tr> <td>藤原 昌</td> <td></td> <td>医師</td> <td>医療安全管理部副部長／ ゼネラルリスクマネジャー (医師)</td> </tr> <tr> <td>岡本 千秋</td> <td></td> <td>看護師</td> <td>ゼネラルリスクマネジャー (看護師長)</td> </tr> <tr> <td>太田 純</td> <td></td> <td>看護師</td> <td>ゼネラルリスクマネジャー (副看護師長)</td> </tr> <tr> <td>植田 孝介</td> <td></td> <td>薬剤師</td> <td>ゼネラルリスクマネジャー (薬剤師)</td> </tr> </tbody> </table>		氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職	南須原 康行	<input checked="" type="radio"/>	医師	病院長	今野 哲		医師	副病院長／医療安全管理責任者	大廣洋一		歯科医師	副病院長	堀田 記世彦		医師	医療安全管理部長／ ゼネラルリスクマネジャー (医師)	根岸 淳		歯科医師	医療安全管理部副部長／ ゼネラルリスクマネジャー (歯科医師)	藤原 昌		医師	医療安全管理部副部長／ ゼネラルリスクマネジャー (医師)	岡本 千秋		看護師	ゼネラルリスクマネジャー (看護師長)	太田 純		看護師	ゼネラルリスクマネジャー (副看護師長)	植田 孝介		薬剤師	ゼネラルリスクマネジャー (薬剤師)
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職																																						
南須原 康行	<input checked="" type="radio"/>	医師	病院長																																						
今野 哲		医師	副病院長／医療安全管理責任者																																						
大廣洋一		歯科医師	副病院長																																						
堀田 記世彦		医師	医療安全管理部長／ ゼネラルリスクマネジャー (医師)																																						
根岸 淳		歯科医師	医療安全管理部副部長／ ゼネラルリスクマネジャー (歯科医師)																																						
藤原 昌		医師	医療安全管理部副部長／ ゼネラルリスクマネジャー (医師)																																						
岡本 千秋		看護師	ゼネラルリスクマネジャー (看護師長)																																						
太田 純		看護師	ゼネラルリスクマネジャー (副看護師長)																																						
植田 孝介		薬剤師	ゼネラルリスクマネジャー (薬剤師)																																						

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
南須原 康行	<input checked="" type="radio"/>	医師	病院長
今野 哲		医師	副病院長／医療安全管理責任者
大廣洋一		歯科医師	副病院長
堀田 記世彦		医師	医療安全管理部長／ ゼネラルリスクマネジャー (医師)
根岸 淳		歯科医師	医療安全管理部副部長／ ゼネラルリスクマネジャー (歯科医師)
藤原 昌		医師	医療安全管理部副部長／ ゼネラルリスクマネジャー (医師)
岡本 千秋		看護師	ゼネラルリスクマネジャー (看護師長)
太田 純		看護師	ゼネラルリスクマネジャー (副看護師長)
植田 孝介		薬剤師	ゼネラルリスクマネジャー (薬剤師)

宮 前 祐 士		薬剤師	ゼネラルリスクマネジャー (薬剤師)
本 間 明 宏		医師	手術部長
加 藤 達 哉		医師	物流管理センター部長／臨床研修センター長
武 富 紹 信		医師	物流管理センター部長
遠 藤 晃		教員	医療情報企画部長
太 田 稔		臨床工学技士	ME機器管理センター部長
菅 原 満		薬剤師	薬剤部長／未承認新規医薬品等管理部長
城 石 陽 子		看護師	看護部長
渡 邊 千 秋		臨床検査技師	医療技術部長
遠 藤 知 之		医師	感染制御部長
小 野 尚 子		医師	高難度新規医療技術管理部長
佐 久 嶋 研		医師	臨床研究開発センター長
賀 古 勇 輝		医師	附属司法精神医療センター長
長 川 武 司		事務	事務部長
渡 利 英 道		医師	教授（産科、婦人科）
氏 家 英 之		医師	教授（皮膚科）
真 部 淳		医師	教授（小児科）

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（無）  
・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容  
病院長は、副病院長を総長へ推薦、病院長補佐を指名、診療科長、中央診療施設等の長を命ずる権限を有している。  
病院執行会議、病院教員人事委員会等病院の管理運営・経営・人事に係る重要な会議において議長となり議決している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院长、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割  
副病院長（総務担当）は、病院全体の運営にかかる連絡調整を行い、副病院長（医科担当）は、医科診療科の総括及び他部署との連絡調整を行い、副病院長（歯科担当）は、歯科診療科の総括及び他部署との連絡調整を行い、副病院長（医療安全・労務管理担当）は、医療安全及び労務管理にかかる総括及び他部署との連絡調整を行い、副病院長（看護業務・患者サービス担当）は、看護部の統括、患者サービスの向上及び他部署との連絡調整を行っている。  
また、病院長補佐（病院経営、再開発、施設担当、歯科担当、経営戦略担当、経営・事務担当、研究、地域連携、国際担当、臨床研究中核、産官学、研究支援担当、病院経営、医療技術担当）は、病院長が特に命じた事項について、企画及び立案並びに病院に各部署間の連絡調整を行っている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
本院職員のうち、長年職務に精通し、経験豊富な者から人選する。  
研修は組織管理、働き方改革に関するシンポジウム等に参加している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・監査委員会の開催状況：年 2 回</li> <li>・活動の主な内容：           <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 北海道大学病院の医療に係る安全管理の業務執行の状況について、北海道大学病院長等から報告を求め、又は必要に応じて確認を実施すること。</li> <li>2. 北海道大学病院の医療に係る安全管理について、北海道大学総長及び病院長に報告し、必要に応じて是正措置を講じるよう意見を述べること。</li> <li>3. 前2号に掲げる業務について、その結果を公表すること。</li> </ol> </li> <li>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有）</li> <li>・委員名簿の公表の有無（有）</li> <li>・委員の選定理由の公表の有無（有）</li> <li>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有）</li> <li>・公表の方法：北海道大学ホームページ</li> </ul>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
橋場 弘之	田村・橋場法律 相談事務所	○	法律に関する識見を有する者	無	1
橋本 晓佳	札幌医科大学		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
高田 久	北海道盲導犬 協会		医療を受ける者	無	2
向野 雅彦	北海道大学大 学院		医療を提供する 者	無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容  
既存の大学規程や内部規程で対応
- ・ 専門部署の設置の有無（無）
- ・ 内部規程の整備の有無（有）
- ・ 内部規程の公表の有無（有）
- ・ 公表の方法  
北海道大学病院ホームページ

## 規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

### 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況

平成30年10月に「国立大学法人北海道大学病院管理運営協議会」を設置し、年1回、特定機能病院としての管理・運営状況について調査・審議している。

なお、構成員は以下のとおりである。

- (1) 医療に係る識見を有する者 若干名
- (2) 法律に関する識見を有する者 若干名
- (3) 病院の管理及び運営に関する識見を有する者 若干名
- (4) その他総長が必要と認めた者

- 会議体の実施状況（年1回）
- 会議体への管理者の参画の有無および回数（有）（年1回）
- 会議体に係る内部規程の公表の有無（有）
- 公表の方法  
北海道大学ホームページ（全学規則集）に掲載

### 病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

### 会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
中村 隆	札幌総合法律事務所	○	無
松家 治道	北海道医師会長		無
渡辺 敦	札幌医科大学附属病院長		無
行松 泰弘	北海道大学理事		有

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

## 規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

### 窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）
- ・通報件数（年 5 件）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）
- ・周知の方法  
→リスクマネジャー連絡会議にて年に2回必ず周知している。  
院内専用端末にて掲載。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<ul style="list-style-type: none"><li>・情報発信の方法、内容等の概要</li></ul> <p>広報誌及びウェブサイトにて、本院の理念と目標、地域の中核病院としての役割、先進的な医療に関する情報提供を行っている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<ul style="list-style-type: none"><li>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</li></ul> <p>診療科間の連携についてのルールが整備されており、他診療科への受診依頼、依頼先においての検査結果等の患者情報が電子カルテを通して共有されている。患者の情報が不足している場合は補足説明を電話で直接行う等により、緊密かつ緊急に連携できる体制を整えている。</p>	